

科目名	クリティカルケア・周術期看護演習		
科目名（英語）	Practicum in Critical Care and Perioperative Nursing		
担当教員	福田 和美、富崎 ゆかり、中井 裕子、清原 智佳子、村田 和子、山口 馨子、笹山 万紗代、御手洗 みどり		
科目区分	看護学部 看護学科、看護師国家試験受験資格		
標準履修年次	3年	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位	2単位

・科目情報

授業概要

成人期および老年期にある看護の対象となる人の急性状態に応じた看護の展開方法を学ぶ。クリティカルケアや周術期の看護に必要な知識と看護技術を基盤に、看護過程の事例からシミュレーション演習を行い、生命の危機的状況からの回復支援、臨床判断および倫理的配慮に基づいた安全・安楽な基礎的看護実践方法を身につける。

履修条件 / 授業内容を理解するために必要な知識・技能等

病態機能看護学、生態機能看護学、基礎看護技術論、フィジカルアセスメント論、シンプトンマネジメント論、看護過程、基礎看護学実習 など、既習の知識・技術・態度を確実に身につけて演習に臨むことが前提であり、さらに健康レベルと看護、人間のライフステージと看護、成人老年看護学 で学んだ知識が必要となる。

テキスト

・野崎真奈美ほか 成人看護学 成人看護技術、南江堂、3520円

参考図書・教材等

- ・ゴードン博士の看護アセスメント指針，照林社、2860円．
- ・アセスメント覚え書 ゴードン機能的健康パターンと看護診断，医学書院、3080円．
- ・NANDA-I 看護診断 定義と分類 原書 第12版，2021-2023、医学書院、3520円．
- ・成人看護学 急性期看護 南江堂、3000円．

実務経験を生かした授業

看護師としての実務経験を有する教員が、クリティカルケアおよび周術期看護に関する技術を教授する。

授業中の撮影

有

学習相談・助言体制

グループを担当した教員に直接連絡してください。

・DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

D P	
知識・技能	
(DP1)	・急性状態にある対象者の身体的、心理的、社会的側面について説明できる。
(DP2)	・クリティカルケアおよび周術期看護に必要な看護技術を習得することができる。 ・事例患者を通して、周術期の特徴をふまえた援助を安全・安楽に実施・評価することができる。
思考・判断・表現	
(DP3)	・事例患者の情報を整理し、根拠に基づいて全人的にアセスメントすることができる。 ・個別性、多様性をふまえた看護計画を立案することができる。 ・グループワークを通して自分の考えを述べ、議論することができる。
主体性・多様性・協働性	
(DP4)	・看護過程の展開や技術演習においてグループで協力して行うことができる。 ・主体的に学習を進めることができる。

履修目標

授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。

周術期にある事例患者の身体的、心理・社会的変化を捉え、情報を整理し、全人的なアセスメントを行うことができる。アセスメントから適切な看護問題を導き出し、個別性をふまえた看護計画の立案ができる。また、周術期の様々な状況下において、手術を受けた対象者の特徴をふまえ、個別性を考慮した回復への支援を安全安楽に実施し、評価することができる。さらに、クリティカルケアに必要な看護技術を根拠をふまえて的確に実施することができる。

到達目標

授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。
履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。

周術期にある事例患者の情報を整理し、全人的なアセスメントを行うことができる。アセスメントから看護問題を導き出し、看護計画の立案ができる。また、周術期の様々な状況下において、手術を受けた対象者の特徴をふまえ、回復への支援を安全安楽に実施し、評価することができる。さらに、クリティカルケアに必要な看護技術を根拠をふまえて実施することができる。

成績評価の基準

S:90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修(自主的な学修)が認められる。

周術期にある事例患者の身体的、心理・社会的変化を捉え、情報を整理し、理論や既習の知識を活用して全人的なアセスメントを行うことができる。アセスメントから適切な看護問題を導き出し、個別性をふまえた具体的な看護計画の立案ができる。また、周術期の様々な状況下において、手術を受けた対象者の特徴をふまえ、個別性を考慮した回復への支援を安全安楽に実施し、評価することができる。さらに、主体的にクリティカルケアに必要な看護技術を根拠をふまえて的確に実施することができる。

A:80～89 履修目標を達成している。

周術期にある事例患者の身体的、心理・社会的変化を捉え、情報を整理し、全人的なアセスメントを行うことができる。アセスメントから看護問題を導き出し、個別性をふまえた看護計画の立案ができる。また、周術期の様々な状況下において、手術を受けた対象者の特徴をふまえ、個別性を考慮した回復への支援を安全安楽に実施し、評価することができる。さらに、クリティカルケアに必要な看護技術を根拠をふまえて的確に実施することができる。

B:70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。

周術期にある事例患者の身体的、心理・社会的変化を捉え、情報を整理し、アセスメントを行うことができる。アセスメントから導き出した看護問題に対して看護計画の立案ができる。また、周術期の様々な状況下において、手術を受けた対象者の特徴をふまえ、回復への支援を安全安楽に実施し、評価することができる。さらに、クリティカルケアに必要な看護技術を根拠をふまえて的確に実施することができる。

C:60～69 到達目標を達成している。

周術期にある事例患者の情報を整理し、アセスメントを行うことができる。アセスメントから看護問題を導き出し、看護計画の立案ができる。また、周術期の様々な状況下において、手術を受けた対象者の特徴をふまえ、回復への支援を安全安楽に実施し、評価することができる。さらに、クリティカルケアに必要な看護技術を根拠をふまえて実施することができる。

不可:～59 到達目標を達成できていない。

周術期にある事例患者の情報を整理し、アセスメントが不十分である。アセスメントから看護問題を導き出し、看護計画の立案ができない。また、周術期の様々な状況下において、手術を受けた対象者の特徴をふまえ、回復への支援を安全安楽に実施し、評価することができない。さらに、クリティカルケアに必要な看護技術を根拠をふまえて実施することができない。

・成績評価の方法

評価指標	割合	関連する D P
定期試験（技術試験）	30	知識・技能(DP2)：30
課題レポート、記録物など	60	知識・技能(DP1)：15，(DP2)：15，思考・判断・表現(DP3)：30
演習態度	10	主体性・多様性・協働性(DP4)：10

・授業計画、 ・アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニングの内容

グループワーク

回	授業計画
---	------

1	授業内容（担当教員）	・授業ガイダンス ・看護過程の展開 周術期にある成人期の胃がん患者の看護過程の展開（全員）
	授業方法 / 進め方	1．講義 ・授業に関するガイダンスにて、科目概要や評価について説明を行う。 ・周術期の看護過程の展開方法の説明を行う。 周術期の看護過程の特徴、情報分類の視点について説明する。 3．事例の提示 ・周術期にある成人期の胃がん患者の事例を提示し、電子カルテからの情報収集について説明する。
	事前・事後学習	・事前課題 胃がんの病態生理、治療、看護について、成人老年急性看護学の授業資料等を用いて復習する。 ・事後課題 周術期の看護過程の展開の特徴を復習する。電子カルテ（Medi-EYE）より事例患者の情報を確認する。
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション / デイバート / グループワーク
2,3	授業内容（担当教員）	療養中の患者の対応 急変時の対応（全員）
	授業方法 / 進め方	1．講義 ・療養中の患者の急変時のケアの概要を説明する。 ・シミュレーター、バグバルブマスクの使用方法について説明を行う。 ・止血法について説明する。 2．グループワーク ・止血の手技練習 ・医療用BLSのトレーニングを行う。 （評価デバイスを用いて手技の確認を行う） ・DVD視聴後の患者の急変時の対応について事前課題をもとにグループで検討する。救命の手順を作成する。 3．ベッドサイドでの技術演習 ・グループワークで検討した患者の急変時の対応について作成した手順をもとに看護師役、患者役、観察者役を決めて実施し、評価する。 4．発表・ディスカッション ・代表グループが急変患者への対応をシミュレーションし、患者の急変時の対応を共有する。
	事前・事後学習	事前学習 ・一次救命、二次救命のアルゴリズムについて学習する。 事後学習 ・実践した内容と振り返りレポート
	アクティブ・ラーニング	体験学習 / 調査学習、グループディスカッション / デイバート / グループワーク

4～6	授業内容（担当教員）	・看護過程の展開 周術期にある成人期の胃がん患者の看護過程の展開（全員）
	授業方法／進め方	1．グループワーク ・電子カルテから得た事例患者の情報を確認し、指定されたパターンについて科学的根拠に基づいたアセスメントを検討する。 ・アセスメントをもとに関連図を検討する。
	事前・事後学習	事前課題 ・電子カルテ（Medi-EYE）より事例患者の情報を抽出し、ゴードンの11の健康機能パターンの指定されたパターンを整理する。 事後課題 ・個人ワークシートのアセスメント、関連図を作成する。
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション／ディベート／グループ・ワーク
7～8	授業内容（担当教員）	ドレーン・持続静脈内注射の管理（全員）
	授業方法／進め方	1．グループワーク ・シミュレーターの観察を通して、各種ドレーンや持続静脈内注射の管理方法について共有する。 2．シミュレーション ・術後患者を想定したシミュレーター用いて、鎮痛薬投与を実施する。
	事前・事後学習	事前課題 ・指示されたテキストの該当ページを読んでおく。 事後課題 ・実践した内容と振り返りのレポート
	アクティブ・ラーニング	体験学習／調査学習、グループディスカッション／ディベート／グループ・ワーク
10～12	授業内容（担当教員）	・看護過程の展開 周術期にある成人期の胃がん患者の看護過程の展開（全員）
	授業方法／進め方	1．グループワーク ・関連図から看護問題を検討する。 ・看護問題に対して、長期目標、短期目標、事例の個別性を反映した看護計画を検討する。 2．発表 ・グループで検討した看護問題、看護計画について発表し、共有する。
	事前・事後学習	事前課題 ・関連図から看護問題を導き出し、優先順位を立て、看護計画を立案する。 事後課題 ・事前課題の追加・修正を行う。
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション／ディベート／グループ・ワーク

13～15	授業内容（担当教員）	手術を受けた患者の看護 術後観察 （全員）
	授業方法／進め方	1．グループワーク ・電子カルテから得た事例患者の術後の観察の内容、観察方法についてグループ内で共有する。 ・術後の患者の状態に応じた援助を検討する。 2．シミュレーション ・グループで共有した観察と援助の内容、方法に基づいて事例患者を想定したシミュレーターで実践する。 3．グループワーク ・フィジカルアセスメントの内容を共有し、術後の患者のフィジカルアセスメント状態を判断する。 ・終了後、グループ内およびグループ間で振り返りを行い、評価を行う。
	事前・事後学習	事前課題 ・電子カルテ（Media-EYE）から事例患者の手術当日、術後の情報収集を行う。 事後課題 ・実践した内容と振り返りのレポート
	アクティブ・ラーニング	体験学習／調査学習、グループディスカッション／ディベート／グループワーク
16～17	授業内容（担当教員）	手術を受けた患者の看護 持続静脈内注射、ドレーン挿入中の術後患者の清拭・更衣 （全員）
	授業方法／進め方	1．グループワーク ・事例患者の状況をグループ内で確認し、術後の清潔ケアの援助計画を立案する。 2．シミュレーション ・グループワークで検討した援助計画に基づいて術後の清潔ケアを実施する。 3．グループワーク ・グループ内で実施した援助を振り返り、グループ間で共有する。
	事前・事後学習	事前課題 ・清拭・更衣の看護技術についての復習 事後課題 ・実践した内容と振り返りのレポート
	アクティブ・ラーニング	体験学習／調査学習、グループディスカッション／ディベート／グループワーク

19～21	授業内容（担当教員）	手術を受けた患者の看護 術後離床 （全員）
	授業方法 / 進め方	1．グループワーク ・電子カルテから得た事例患者の情報を整理する ・術後離床の目的となる情報、術後離床が可能か判断する項目について共有する。 2．グループワーク ・術後離床の計画を立案する 3．シミュレーション ・グループで立案した計画に基づいて術後離床を実施する。 4．個人ワーク ・実施した離床援助を記録する
	事前・事後学習	事前課題 ・早期離床の目的、離床の際に起こりうるリスクとその予防方法・対処方法について学習する。 事後課題 ・実践した内容と振り返りのレポート
	アクティブ・ラーニング	体験学習 / 調査学習、グループディスカッション / デイバート / グループワーク
22～24	授業内容（担当教員）	手術を受けた患者の看護 社会復帰に向けた支援 （全員）
	授業方法 / 進め方	1．講義 ・退院に向けた支援について説明する。 2．グループワーク ・事前課題を基に、グループで事例患が退院するにあたっての課題を話し合う。 ・話し合った内容を発表する。 3．グループワーク ・事例患者に対する退院指導計画を立案する。 ・退院指導に用いるパンフレットを作成する。 4．グループワーク ・グループワークで立案した計画に基づき、事例患者に退院指導を実施する（ロールプレイ）。 ・実施後の振り返りをグループで行う ・全体でグループワークの内容を共有する。
	事前・事後学習	事前課題 ・手術を受けたことによって、事例患者の退院後の生活にどのような影響が生じるのかをまとめる。 事後課題 ・ロールプレイの振り返りのレポート
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション / デイバート / グループワーク

24	授業内容（担当教員）	事例患者の看護のまとめ 実習に向けてのインフォメーション
	授業方法 / 進め方	1. グループワーク ・事例患者の看護援助を倫理的視点をふまえて振り返る。 ・実習に関する情報提供を行う。
	事前・事後学習	事前課題 ・今までの演習の振り返りを行う。 事後課題 ・看護援助を行う際の自己の課題を明確にしておく。
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション / デイバート / グループワーク
25～27	授業内容（担当教員）	療養中の患者の対応 ストーマケア。創傷処置
	授業方法 / 進め方	1. 講義 ・ストーマおよびストーマケア、創傷処置に関する解説する（特別講師）。 2. グループワーク ・事例の提示 ストーマ造設を行い、退院に向けた支援が必要な患者事例を提示する。 ・事例患者の身体的、心理社会的側面のアセスメントを行う。 ・講義内容をふまえて事例患者に必要な支援を検討する。 3. ベッドサイドでの技術演習 ・ストーマ交換技術の練習を行う。 ・（サイズ計測、面板のか、ストーマ袋の貼付など） ・事例患者の日常生活に合わせたストーマケアを実施する。 3. 看護師によるデモンストレーション 事例患者に応じた看護師によるケアを見学する。 4. グループワーク ・演習を振り、ストーマケアを行う際の倫理的視点をふまえた看護のポイントについて共有する。
	事前・事後学習	事前課題 ・ストーマケアについて学習し、理解を深める。 事後課題 ・実践した内容と振り返りのレポート
	アクティブ・ラーニング	体験学習 / 調査学習、グループディスカッション / デイバート / グループワーク
28～30	授業内容（担当教員）	技術テスト
	授業方法 / 進め方	詳細は別途説明する
	事前・事後学習	事前課題 ・技術テストの練習 事後課題 ・技術テストの振り返り
	アクティブ・ラーニング	発見学習 / 問題解決学習、体験学習 / 調査学習
備考	看護過程の展開以外は実習に行く服装で演習に参加してください。	

科目名	ケアリング論		
科目名（英語）	Caring Theory		
担当教員	清水 夏子		
科目区分	看護学部 看護学科、看護師国家試験受験資格		
標準履修年次	3年	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位	2単位

・科目情報

授業概要

ケアリングには、明確な定義がなく、可視化することができない。本講義では、教育・看護で用いられる「ケアリング」・「ケア」について、複数の理論家が唱える考え方を紹介する。学んだ理論をもとに臨床現場に限らず、日常でのさまざまな場面において、相互関係から「ケアリング」が成立していることに気づき、関わりとして、どうすることが望ましいのか考察する。また多くの事例を通して各々で思考し、他者と議論を重ねることで「ケアリングとは、何か?」「ケアリングから何を学ぶことができるのか?」多角的に捉えて、ケアリングを探究する。

履修条件 / 授業内容を理解するために必要な知識・技能等
なし

テキスト

講義レジメは、事前にMOODLEにてアップする。各自ダウンロードもしくは印刷をして講義に臨むこと。

参考図書・教材等

ミルトン・メイヤロフ著 ケアの本質 ゆみる出版 2000
ネル・ノディングズ著 ケアリング 倫理と道德の教育 - 女性の観点から 晃洋書房 2008

実務経験を生かした授業

担当教員の臨床経験および教育経験を事例に挙げ、事象の中で起こったケアリングについて議論を展開する。

授業中の撮影

なし

学習相談・助言体制

授業時間外の質問はメールで対応します。shimizu@fukuoka-pu.ac.jp もしくは、事前にメール等でアポイントメントを取り、来室してください。

・DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

D P

知識・技能

(DP1)	ケアリング、ケアの概念について理解できる。
-------	-----------------------

思考・判断・表現

(DP3)	講義で学んだ事柄と自らが体験したケアリングとを結びつけ、意味づけすることができる。 ケアリング、ケアについて自己の考えを述べることができる。 日常生活の様々な場面においてケアリングを想起することができる。
-------	--

主体性・多様性・協働性

(DP4)	ケアリング、ケアについて他者に自身の考えを伝え、議論し、相互理解を深めながらケアリングとは何か考えを深めることができる。
-------	--

履修目標

授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。

多角的な視点を持ってケアリングとは何かを理解し、臨床現場に限らず日常生活場面において、ケアリングについて具体的な事柄を例に挙げて説明することができる。

到達目標

授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。
履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。

多角的な視点を持ってケアリングとは何かを理解し、ケアリングについて具体例と結び付けて考察することができる。

成績評価の基準

S: 90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修(自主的な学修)が認められる。
ケアリング理論とケアリングの視点で議論した事例を振り返り、自身が考えるケアリングとは何かを探求し、述べるができる。また看護を学ぶ者として、日常生活および自己の将来展望をケアリング的思考で述べることができる。
A: 80～89 履修目標を達成している。
ケアリング理論とケアリングの視点で議論した事例を振り返り、自己あるいは他者の行動と照らし合わせケアリングとは何か具体的に述べるができる。
B: 70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
ケアリング理論とケアリングの視点で議論した事例を振り返り、ケアリングとは何か具体例を挙げて述べることができる。
C: 60～69 到達目標を達成している。
学んだケアリングに関する事例を想起し、考察することができる。
不可: ～59 到達目標を達成できていない。
ケアリングについて理解できておらず、具体的に述べるができない。

・成績評価の方法

評価指標	割合	関連するD P
課題レポート	50	知識・技能(DP1) : 25, 思考・判断・表現(DP3) : 25
授業後レポート	20	知識・技能(DP1) : 5, 思考・判断・表現(DP3) : 10, 主体性・多様性・協働性(DP4) : 5
ディスカッション・参加度	20	知識・技能(DP1) : 5, 思考・判断・表現(DP3) : 5, 主体性・多様性・協働性(DP4) : 10
出席・授業態度	10	思考・判断・表現(DP3) : 5, 主体性・多様性・協働性(DP4) : 5

・授業計画、 ・アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニングの内容		
個人ワークと発表およびディスカッション		
回	授業計画	
1	授業内容(担当教員)	オリエンテーション ケアリングってなんだ! ? -ケアリング変遷 編-
	授業方法/進め方	○オリエンテーションとして、本講義の目的・進め方・評価基準などについて、スライドと資料を基に進める。 ○「ケアリングとは何か」「ケアリングの変遷」「看護の中のケアリング」等について、複数の理論家の考えを紹介する。 →スライドと事前配布の資料を基に進める。 →適宜、学生間での意見交換の場を設ける。 ○授業後レポート →授業終了時、学生に向けて問をいくつか挙げる。学んだこと、これまでの経験を活かして自身の考えをgoogleフォームにレポートする。
	事前・事後学習	事前学習: ケアリングについて、関連書籍を読んでおく。 事後学習: 講義での事例について、自身の過去の経験と結び付けて考察する。 事前学習: 80分 / 事後学習: 100分
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/ディベート/グループワーク、その他

2	授業内容（担当教員）	ケアリングってなんだ！？ -ケアする 編-
	授業方法 / 進め方	○ 前回講義を受けての学生の意見・感想(レポート)を匿名で紹介する → 他者の受講後の学びや気づきを共有し、自己の考えを想起し振り返る機会を設ける。ケアリングについて、再度、自身が考えるケアリングとは何かを探究していく。 ○ 「ケアすること」「専心没頭」とは何か？他 → スライドと事前配布の資料を基に進める。 ○ 事例から考えよう(事例紹介) → 適宜、学生間での意見交換の場を設ける。 ○ 授業後レポート → 授業終了時、紹介事例から考える学生の意見を問う。 → 学んだこと。これまでの経験を活かして自身の考えをgoogleフォームにレポートする。
	事前・事後学習	事前学習：ケアリングに対する自己の考えを整理しておく。 事後学習：ケアリングについて、再考し、ケアリングが成立する事象について自己の考えを深める。 事前学習：80分 事後学習：100分
	アクティブ・ラーニング	体験学習 / 調査学習、グループディスカッション / デイバート / グループワーク、その他
3	授業内容（担当教員）	ケアする人 ケアされる人
	授業方法 / 進め方	○ 前回講義を受けての学生の意見・感想(レポート)を匿名で紹介する → 他者の受講後の学びや気づきを共有し、自己の考えを想起し振り返る機会を設ける。ケアリングについて、再度、自身が考えるケアリングとは何かを探究していく。 ○ 「ケアする人」「ケアされる人」とは何か？他 → スライドと事前配布の資料を基に進める。 ○ 事例から考えよう(事例紹介) → 適宜、学生間での意見交換の場を設ける。 ○ 授業後レポート → 授業終了時、紹介事例から考える→学生の意見を問う。 学んだこと。これまでの経験を活かして自身の考えをgoogleフォームにレポートする。
	事前・事後学習	事前学習：ケアリングに対する自己の考えを整理しておく。 事後学習：ケアリングについて、再考し、ケアリングが成立する事象について自己の考えを深める。 事前学習：80分 事後学習：100分
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション / デイバート / グループワーク、その他

4	授業内容（担当教員）	親と子のケアリング
	授業方法 / 進め方	○ 前回講義を受けての学生の意見・感想(レポート)を匿名で紹介する → 他者の受講後の学びや気づきを共有し、自己の考えを想起し振り返る機会を設ける。ケアリングについて、再度、自身が考えるケアリングとは何かを探求していく。 ○ 「父のケアリング」「母のケアリング」とは何か？他 → スライドと事前配布の資料を基に進める。 ○ 事例から考えよう(事例紹介) → 適宜、学生間での意見交換の場を設ける。 ○ 授業後レポート → 授業終了時、紹介事例から考える学生の意見を問う。 → 学んだこと。これまでの経験を活かして自身の考えをgoogleフォームにレポートする。
	事前・事後学習	事前学習：ケアリングに対する自己の考えを整理しておく。 事後学習：ケアリングについて、再考し、ケアリングが成立する事象について自己の考えを深める。 事前学習：80分 事後学習：100分
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/ディベート/グループ・ワーク、その他
5	授業内容（担当教員）	メイヤロフのケアの主な8つの要素
	授業方法 / 進め方	○ 前回講義を受けての学生の意見・感想(レポート)を匿名で紹介する → 他者の受講後の学びや気づきを共有し、自己の考えを想起し振り返る機会を設ける。ケアリングについて、再度、自身が考えるケアリングとは何かを探求していく。 ○ 「メイヤロフのケアの8つの要素」とは何かを紹介する。 → スライドと事前配布の資料を基に進める。 ○ 絵本から学ぶケアリング → 幼少期に読んだことのある絵本(物語)を通してケアリングとは何かに気づく。 → 適宜、学生間での意見交換の場を設ける。 ○ 授業後レポート → 授業終了時、紹介事例から考える学生の意見を問う。 → 学んだこと。これまでの経験を活かして自身の考えをgoogleフォームにレポートする。
	事前・事後学習	事前学習：ケアリングに対する自己の考えを整理しておく。 事後学習：ケアリングについて、再考し、ケアリングが成立する事象について自己の考えを深める。 事前学習：80分 事後学習：100分
	アクティブ・ラーニング	発見学習 / 問題解決学習、グループディスカッション/ディベート/グループ・ワーク、その他

6	授業内容（担当教員）	相手を知ること。 自分を知ること。
	授業方法 / 進め方	○ 前回講義を受けての学生の意見・感想(レポート)を匿名で紹介する → 他者の受講後の学びや気づきを共有し、自己の考えを想起し振り返る機会を設ける。ケアリングについて、再度、自身が考えるケアリングとは何かを探求していく。 ○ 「相手を知ろう」 → 改めて、友達に自己紹介をすることで相手のことを知り、関心を持つ。新たな一面に気づく。 ○ 「自分を知ろう」 → 相手に自分のいいところを褒めてもらうことで、自分でも気にしなかった部分に気づく。 → スライドと事前配布の資料を基に進める。 ○ 事例から考えよう(事例紹介) → 適宜、学生間での意見交換の場を設ける。 ○ 授業後レポート → 授業終了時、紹介事例から考える学生の意見を問う。 → 学んだこと。これまでの経験を活かして自身の考えをgoogleフォームにレポートする。
	事前・事後学習	事前学習：ケアリングに対する自己の考えを整理しておく。 事後学習：ケアリングについて、再考し、ケアリングが成立する事象について自己の考えを深める。 事前学習：80分 事後学習：100分
	アクティブ・ラーニング	発見学習 / 問題解決学習、グループディスカッション / デイバート / グループ・ワーク、その他

7	授業内容（担当教員）	ケアリングの危険性
	授業方法 / 進め方	○前回講義を受けての学生の意見・感想(レポート)を匿名で紹介する →他者の受講後の学びや気づきを共有し、自己の考えを想起し振り返る機会を設ける。ケアリングについて、再度、自身が考えるケアリングとは何かを探究していく。 ○いくつかの事例をもとにケアリングが成立しているのか、否かについて議論する。その際、“なぜ”そのように考えたのかを追求していく。 →スライドと事前配布の資料を基に進める。 →適宜、学生間での意見交換の場を設ける。 ○授業後レポート →授業終了時、紹介事例から考える学生の意見を問う。 →学んだこと。これまでの経験を活かして自身の考えをgoogleフォームにレポートする。
	事前・事後学習	事前学習：ケアリングに対する自己の考えを整理しておく。 事後学習：ケアリングについて、再考し、ケアリングが成立する事象について自己の考えを深める。 事前学習：80分 事後学習：100分
	アクティブ・ラーニング	発見学習 / 問題解決学習、グループディスカッション / デイバート / グループ・ワーク、その他
8	授業内容（担当教員）	日常にあふれるケアリング
	授業方法 / 進め方	○前回講義を受けての学生の意見・感想(レポート)を匿名で紹介する →他者の受講後の学びや気づきを共有し、自己の考えを想起し振り返る機会を設ける。ケアリングについて、再度、自身が考えるケアリングとは何かを探究していく。 ○事例を紹介し、日常にも様々な場面でケアリングが成立していることに気づく。 →適宜、学生間での意見交換の場を設ける。 →学生間で議論をしていく中で、改めて、ケアリングとは何かを自身の考えを探究していく。 ○課題レポートについて 【課題(テーマ)・提出期限等の説明)】 ○授業後レポート →授業終了時、これまで全8回の講義での学びを振り返り、看護とは何か？自身の考えをgoogleフォームにレポートする。
	事前・事後学習	事前学習：ケアリングに対する自己の考えを整理しておく。 事後学習：ケアリングについて、再考し、ケアリングが成立する事象について自己の考えを深める。 事前学習：80分 事後学習：100分
	アクティブ・ラーニング	発見学習 / 問題解決学習、グループディスカッション / デイバート / グループ・ワーク、その他

備考	最終課題：ケアリング論の授業で学んだことを活かして、課題(テーマ)に沿った自己の考えを述べる ○各自で自由に焦点を絞り、タイトルをつける ○表紙には、テーマ・学籍番号・氏名を明記する ○構成は、表紙＋本文（本文は、A4用紙2枚程度） ○提出期限は講義最終回で説明する
----	---

科目名	セルフケア支援演習		
科目名（英語）	Practicum in Self Care Support		
担当教員	福田 和美、富崎 ゆかり、中井 裕子、清原 智佳子、村田 和子、山口 馨子、笹山 万紗代、御手洗 みどり		
科目区分	看護学部 看護学科、看護師国家試験受験資格		
標準履修年次	3年	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位	2単位

．科目情報

授業概要

病とともに生きる成人期および老年期の看護の対象となる人の看護の展開方法を学ぶ。生活者としての個性や多様性をふまえ、加齢や疾病による心身の機能および認知機能の変化とともに継続的にセルフケアの支援が必要な対象者に、必要な知識と看護技術を基盤に、看護過程の事例からシミュレーション演習を行い、倫理的配慮に基づいた安全・安楽な基礎的看護実践方法を身につける。

履修条件 / 授業内容を理解するために必要な知識・技能等

病態機能看護学、生態機能看護学、基礎看護技術論、フィジカルアセスメント論、シンプトンマネジメント論、看護過程、基礎看護学実習 など、既習の知識・技術・態度を確実に身につけて演習に臨むことが前提であり、さらに健康レベルと看護、人間のライフステージと看護、成人老年看護学 で学んだ知識が必要となる。

テキスト

- ・野崎真奈美他 成人看護学 成人看護技術、南江堂、3520円。
- ・亀井智子他 老年看護技術、医学書院、4400円。

参考図書・教材等

- ・ゴードン博士の看護アセスメント指針、照林社、2860円。
- ・アセスメント覚え書 ゴードン機能的健康パターンと看護診断、医学書院、3080円。
- ・NANDA-I 看護診断 定義と分類 原書 第12版、2021-2023、医学書院、3520円。

実務経験を生かした授業

看護師としての実務経験を有する教員が、セルフケア支援に関する技術を教授する。

授業中の撮影

有

学習相談・助言体制

グループを担当した教員に直接連絡してください。

．DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

D P

知識・技能

(DP1)	・セルフケア支援が必要な対象者の身体的、心理的、社会的側面について説明できる。
(DP2)	・高齢者および慢性期にある対象者に必要な看護技術を習得することができる。 ・事例患者を通して、高齢者および慢性疾患の特徴をふまえた援助を安全・安楽に実施・評価することができる

思考・判断・表現

(DP3)	・事例患者の情報を整理し、根拠に基づいて全人的にアセスメントすることができる。 ・個性、多様性をふまえた看護計画を立案することができる。 ・グループワークを通して自分の考えを述べ、議論することができる。
-------	---

主体性・多様性・協働性

(DP4)	・看護過程の展開や技術演習においてグループで協力して行うことができる。 ・主体的に学習を進めることができる。
-------	---

履修目標

授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。

老年期にあり、慢性疾患を有する事例患者の身体的、心理・社会的変化を捉え、情報を整理し、全人的なアセスメントを行うことができる。アセスメントから適切な看護問題を導き出し、個別性をふまえた看護計画の立案ができる。また、対象者のセルフケア能力を最大限に生かすことができるよう対象者の特徴をふまえ、個別性を考慮した支援を安全安楽に実施し、評価することができる。さらに、対象者のセルフマネジメントに必要な看護技術を根拠をふまえて的確に実施することができる。

到達目標
 授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。
 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。

老年期にあり、慢性疾患を有する事例患者の身体的、心理・社会的変化を捉え、情報を整理し、全人的なアセスメントを行うことができる。アセスメントから看護問題を導き出し、看護計画の立案ができる。また、対象者のセルフケア能力を最大限に生かすことができるよう対象者の特徴をふまえ、個別性を考慮した支援を安全安楽に実施し、評価することができる。さらに、対象者のセルフマネジメントに必要な看護技術を的確に実施することができる。

成績評価の基準

S:90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修(自主的な学修)が認められる。
	老年期にあり、慢性疾患を有する事例患者の身体的、心理・社会的変化を捉え、情報を整理し、理論や既存の知識を活用して全人的なアセスメントを行うことができる。アセスメントから適切な看護問題を導き出し、個別性をふまえ、具体的な看護計画の立案ができる。また、対象者のセルフケア能力を最大限に生かすことができるよう対象者の特徴をふまえ、個別性を考慮した支援を安全安楽に実施し、評価することができる。さらに、主体的に対象者のセルフマネジメントに必要な看護技術を根拠をふまえて的確に実施することができる。
A:80～89	履修目標を達成している。
	老年期にあり、慢性疾患を有する事例患者の身体的、心理・社会的変化を捉え、情報を整理し、全人的なアセスメントを行うことができる。アセスメントから適切な看護問題を導き出し、個別性をふまえた看護計画の立案ができる。また、対象者のセルフケア能力を最大限に生かすことができるよう対象者の特徴をふまえ、個別性を考慮した支援を安全安楽に実施し、評価することができる。さらに、対象者のセルフマネジメントに必要な看護技術を根拠をふまえて的確に実施することができる。
B:70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
	老老年期にあり、慢性疾患を有する事例患者の身体的、心理・社会的変化を捉え、情報を整理し、全人的なアセスメントを行うことができる。アセスメントから看護問題を導き出し、看護計画の立案ができる。また、対象者のセルフケア能力を最大限に生かすことができるよう対象者の特徴をふまえ、個別性を考慮した支援を安全安楽に実施し、評価することができる。さらに、対象者のセルフマネジメントに必要な看護技術を的確に実施することができる。
C:60～69	到達目標を達成している。
	老年期にあり、慢性疾患を有する事例患者の身体的、心理・社会的変化を捉え、情報を整理しアセスメントを行うことができる。アセスメントから看護問題を導き出し、看護計画の立案ができる。また、対象者のセルフケア能力を最大限に生かすことができるような支援を安全安楽に実施し、評価することができる。さらに、対象者のセルフマネジメントに必要な看護技術を実施することができる。
不可:～59	到達目標を達成できていない。
	老年期にあり、慢性疾患を有する事例患者の身体的、心理・社会的変化を捉え、情報を整理しアセスメントが不十分である。アセスメントから看護問題を導き出し、看護計画の立案ができない。また、対象者のセルフケア能力を最大限に生かすことができるような支援を安全安楽に実施し、評価することができない。さらに、対象者のセルフマネジメントに必要な看護技術を実施することができない。

・成績評価の方法

評価指標	割合	関連するD P
定期試験（技術試験）	30	知識・技能(DP2)：30
授業内レポート・小テスト	60	知識・技能(DP1)：15，(DP2)：15，思考・判断・表現(DP3)：30
演習態度	10	主体性・多様性・協働性(DP4)：10

・授業計画、 ・アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニングの内容
グループワーク

回	授業計画	
1	授業内容（担当教員）	授業ガイダンス 老年期にある脳梗塞患者の看護過程の展開 （全員）
	授業方法 / 進め方	1. 講義 ・ 授業に関するガイダンスにて、科目概要や評価について説明を行う。 ・ 慢性期・老年期の看護過程の展開方法の説明 ・ 事例の提示 老年期にある脳梗塞患者の事例を提示・説明する。
	事前・事後学習	事前課題 ・ 高齢者の特徴と脳梗塞について、前年度までの授業資料等を用いて復習する。 事後課題 事例の情報を抽出する。
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/ディベート/グループワーク
2～3	授業内容（担当教員）	高齢者の理解 ・ 高齢者疑似体験、ライフヒストリーから高齢者を理解する （全員）
	授業方法 / 進め方	1. 講義 ・ 演習内容の説明を行う。 ・ 高齢者の加齢変化の復習を行う。 2. グループワーク 高齢者疑似体験 ・ 高齢者疑似体験スーツを着用し、日常生活行動を行い、身体的、心理・社会的変化と高齢者を取り巻く環境について検討する。 3. グループワーク ・ 高齢者のライフヒストリーをグループで確認し、対象者の生活史に築かれた生活や価値観について検討する。 4 . 発表 ・ グループ間で検討した内容を発表し、共有する。 ・ まとめ
	事前・事後学習	事前課題 ・ 高齢者の加齢変化（身体的、心理・社会的）について復習する。 事後課題 ・ 実践した内容と振り返りレポート
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/ディベート/グループワーク

4～6	授業内容（担当教員）	老年期にある脳梗塞患者の看護過程の展開 （全員）
	授業方法 / 進め方	1. グループワーク ・ゴードンの機能的健康パターンの枠組みを用いて事例の情報の分類を検討する。 ・分類した情報を基に事例のアセスメントを検討する。 ・事例の関連図を検討する。
	事前・事後学習	事前課題 ・事例の情報分類とアセスメントを記述し、関連図を作成する。 事後課題 ・事前課題の追加・修正を行う。
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション / デイバート / グループワーク
7	授業内容（担当教員）	セルフマネジメントが必要な患者の看護 患者教育 （全員）
	授業方法 / 進め方	1．講義 ・学習理論を用いた教育的支援について理解する。 2．グループワーク ・間食がやめられなくて血糖コントロール不良の患者に、学習理論を活用した栄養指導計画を立案する。 3．グループワーク ・グループワークで立案した計画に基づき、事例患者に栄養指導を実施する（ロールプレイ）。 ・実施後の振り返りをグループで行う ・全体でグループワークの内容を共有する。
	事前・事後学習	事前課題 ・教科書「慢性期看護」のP.122～132を読む。 事後課題 ・ロールプレイの振り返りのレポート
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション / デイバート / グループワーク

8～9	授業内容（担当教員）	セルフマネジメントが必要な患者の看護 血糖測定、インスリン注射 （全員）
	授業方法 / 進め方	1．グループワーク ・自己血糖測定の知識の確認 全体でグループワークの内容を共有する。 2．グループワーク 自己血糖測定を実施する。 3．グループワーク ・病識が欠如した患者に対して、学習理論を活用した教育計画を立案する。 ・教育内容は インスリン注射の必要性、 低血糖症状と低血糖症状が現れた時の対処方法についてである。 4．グループワーク ・グループワーク で立案した計画に基づき、患者教育を実施する（ロールプレイ）。 ・実施後の振り返りをグループで行う 全体でグループワークの内容を共有する。
	事前・事後学習	事前課題 ・教科書「成人看護技術」のP.325～329、376～379を読む。 事後課題 ・ロールプレイの振り返りのレポート
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/ディベート/グループワーク
10～12	授業内容（担当教員）	老年期にある脳梗塞患者の看護過程の展開 ➆ （全員）
	授業方法 / 進め方	1.グループワーク ・事例の看護問題を検討し、優先順位をつける。 ・事例の看護目標と看護計画を検討する。 2.発表 ・グループで検討した看護問題、看護計画について発表し、共有する。
	事前・事後学習	事前課題 ・事例の看護問題を記述し、優先順位をつける。 ・事例の看護目標と看護計画を立案する。 事後課題 ・事前課題の追加・修正を行う。
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/ディベート/グループワーク

13～15	授業内容（担当教員）	麻痺のある高齢者に対する移動・移送の援助 （全員）
	授業方法 / 進め方	1. グループワーク ・事例患者の情報を整理する。 ・転倒のリスクアセスメント、転倒を予防する移動・移乗の援助方法を検討する。 2. シミュレーション ・グループで検討した援助方法に基づいて、麻痺のある患者に対する移動・移乗の援助を実施する。 3. グループワーク ・技術演習内容をグループ内およびグループ間で振り返り、評価を行う。
	事前・事後学習	事前課題 ・麻痺のある患者の車椅子・歩行器・T字杖の移動・移乗方法についての学習 事後課題 ・演習内容の振り返りレポート
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション / デイバート / グループワーク
16	授業内容（担当教員）	高齢者のスキンケア・褥瘡予防 （全員）
	授業方法 / 進め方	1. 講義 ・高齢者の皮膚状態について説明 ・褥瘡のリスクアセスメント ・褥瘡を予防する防御器具の使い方 2. グループワーク ・高齢者の皮膚のテープのはがし方 ・褥瘡防御器具を使った効果的なポジショニングの検討を行い、実施する。
	事前・事後学習	事前課題 ・症例患者資料と講義資料の熟知 ・事前動画鑑賞（スキンケア） ・高齢者のスキンケア、褥瘡予防の復習 事後課題 ・実践した内容と振り返りのレポート
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション / デイバート / グループワーク

17～18	授業内容（担当教員）	排泄機能障害のある高齢者の看護 （全員）
	授業方法／進め方	1．グループワーク ・事例患者の情報を整理する。 ・患者の状況に応じた排泄のアセスメントについて共有し、排泄援助の計画を立案する。 2．シミュレーション ・グループワークで検討した援助計画に基づいて排泄援助を実施する。 3．グループワーク ・グループ内で実施した援助を振り返り、グループ間で共有する。
	事前・事後学習	事前課題 ・排泄障害についての学習 事後課題 ・実践した内容と振り返りのレポート
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/ディベート/グループワーク

19～21	授業内容（担当教員）	嚥下機能障害のある高齢者の看護 ・口腔ケア ・食事援助 （全員）
	授業方法／進め方	口腔ケア 1.グループワーク ・看護過程の事例患者から麻痺・嚥下障害の情報を共有する。 ・事例患者の口腔ケアの手順と誤嚥予防の援助技術をグループで共有する。 2.シミュレーション ・事例患者の口腔ケアの手順と誤嚥予防の援助技術を口腔ケアモデルを用いて実践する。 3.グループワーク ・事例患者の口腔ケアの手順と誤嚥予防の援助技術の留意点とポイントをグループでまとめる。 食事援助 1.グループワーク ・看護過程の事例患者から麻痺・嚥下障害の情報を共有する。 ・事例患者の食事時の誤嚥を予防する技術をグループ内で共有する。 2.シミュレーション ・事例患者の食事援助技術を学生間（患者役、看護師役を決め）で実践する。 3.グループワーク ・事例患者の食事援助の援助技術の留意点とポイントをグループでまとめる。
	事前・事後学習	事前課題 ・看護過程の事例患者の麻痺・嚥下障害の情報収集を行う。 ・基礎的看護技術での食事の援助について再学習をしておく。 ・指示されたテキストの該当ページを読んでおく。 事後課題 ・実践した内容と振り返りのレポート
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション／ディベート／グループワーク
21～23	授業内容（担当教員）	技術テスト （全員）
	授業方法／進め方	詳細は別途説明する
	事前・事後学習	事前課題 ・技術テストの練習 事後課題 ・技術テストの振り返り
	アクティブ・ラーニング	体験学習／調査学習

科目名	フィジカルアセスメント論		
科目名（英語）	Physical Assessment		
担当教員	宮本いずみ、藤野靖博、加藤法子、鹿嶋聡子、松山美幸、村上海織		
科目区分	看護学部 看護学科、看護師国家試験受験資格、養護教諭一種免許		
標準履修年次	2～4年	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位	2単位

・科目情報

授業概要

対象者の健康状態を把握するために必要なフィジカルアセスメントの知識と技術について学ぶ。ここでは、フィジカルアセスメントの目的と意義、解剖・生理学的知識に基づくフィジカルアセスメントの実際と援助技術について学ぶ。

履修条件 / 授業内容を理解するために必要な知識・技能等

履修条件：入学年度の学生便覧を参照

授業内容を理解するために必要な知識：基礎看護技術論、生態機能看護学 ・ で学んだことについて理解しておく。

関連資格

看護師国家試験受験資格

テキスト

- ・ 茂野香おる「系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[2]基礎看護技術」医学書院、第19版、2023年、2700円
- ・ 任和子「系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[3]基礎看護技術」医学書院、第18版、2021年、2900円
- ・ 医療情報科学研究所「看護がみえるvol.3フィジカルアセスメント」メディックメディア、第1版、2019年、3300円

参考図書・教材等

- ・ リンS.ピックリー他「ベイツ診察法 第3版」メディカル・サイエンス・インターナショナル、2022年
- ・ 配布資料（Eラーニング Moodle掲載資料）

実務経験を生かした授業

看護分野における所定の実務経験を有する教員が対象の健康状態を把握するために必要なフィジカルアセスメントの知識と技術を教授する。

学習相談・助言体制

- ・ 適宜、演習後のフォローアップとして実技修得支援を行う。
- ・ 実技修得支援希望者は事前にアポイントメントをとること。

・DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP

知識・技能

(DP1)	・ フィジカルアセスメントを実施するうえで必要な知識を理解し、活用することができる。
(DP2)	・ 対象に必要なフィジカルイグザミネーションを身につけることができる。 ・ 対象に必要な援助技術を身につけることができる。

思考・判断・表現

(DP3)	・ フィジカルイグザミネーションで得た情報の正常・異常を判断し、アセスメントすることができる。
-------	---

主体性・多様性・協働性

(DP4)	・ フィジカルアセスメントを実施するうえで必要な課題について主体的に取り組むことができる。
-------	---

履修目標

授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。

フィジカルアセスメントを実施するための基礎的知識と既存の知識を活用し、対象に必要なフィジカルイグザミネーションを正確に実施して正常・異常を知り、アセスメントすることができる。さらに、アセスメントした内容から対象の個別性に応じた援助を考え、適切に実施することができる。

到達目標

授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。
履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。

フィジカルアセスメントの実施に必要な基礎的知識をふまえ、対象に必要なフィジカルイグザミネーションを実施して正常・異常を知り、アセスメントすることができる。さらに、対象に必要な援助技術を実施することができる。

成績評価の基準

S: 90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修(自主的な学修)が認められる。

フィジカルアセスメントを実施するための基礎的知識を授業に加え自主的に習得し、それらの知識と既存の知識を十分に活用することができる。対象に必要なフィジカルイグザミネーションを正確に実施し、正常・異常を判断し、アセスメントすることができる。アセスメントした内容から対象の個性を反映させた援助を考え、適切な方法で援助を実施することができる。

A: 80～89 履修目標を達成している。

フィジカルアセスメントを実施するための基礎的知識を習得し、それらの知識と既存の知識を活用することができる。対象に必要なフィジカルイグザミネーションを正確に実施し、正常・異常を判断し、アセスメントすることができる。アセスメントした内容から対象の個性を反映させた援助を考え、適切な方法で援助を実施することができる。

B: 70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。

フィジカルアセスメントの実施するための基礎的知識を習得し、対象に必要なフィジカルイグザミネーションを実施して正常・異常を知り、アセスメントすることができる。アセスメントした内容から対象の個性を一部考慮はできていないが、必要な援助技術を実施することができる。

C: 60～69 到達目標を達成している。

フィジカルアセスメントの実施するための必要な基礎的知識を習得し、対象に必要なフィジカルイグザミネーションを実施して正常・異常を知り、アセスメントすることができる。アセスメントした内容から対象に必要な援助技術を実施することができる。

不可: ～59 到達目標を達成できていない。

フィジカルアセスメントを実施するための基礎的知識を習得できていない。対象に必要なフィジカルイグザミネーションを実施して正常・異常を判断できない。対象に必要なフィジカルイグザミネーションを獲得できていない。アセスメントした内容から対象の個性を反映させた援助を考え、実施することができていない。

・成績評価の方法

評価指標	割合	関連する D P
定期試験	70	知識・技能(DP1) : 70
授業外レポート・宿題	10	思考・判断・表現(DP3) : 5, 主体性・多様性・協働性(DP4) : 5
看護技術(技術チェック等)	20	知識・技能(DP2) : 15, 思考・判断・表現(DP3) : 5
備考	定期試験が60%未満の場合は再試験を実施する。	

・授業計画、 ・アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニングの内容

演習では、体験学習やグループディスカッションを適宜取り入れる

回	授業計画	
1・2	授業内容(担当教員)	1. フィジカルアセスメント論概説(宮本) 2. ヘルスインタビュー(宮本)
	授業方法/進め方	1. 講義 ・フィジカルアセスメントの概要について講義する。 ・ヘルスインタビューを実施するうえで必要な知識について講義する。
	事前・事後学習	なし
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/レポート/グループワーク

3・4	授業内容（担当教員）	生命徴候を把握するためのフィジカルアセスメントと援助技術（宮本）
	授業方法／進め方	1．講義 生命徴候を把握するためのフィジカルアセスメント及び看護援助について講義する。 2．技術演習 演習では講義の内容を活用しながら生命徴候を把握するためのフィジカルアセスメントおよび看護援助を実施する。
	事前・事後学習	事前課題 生命徴候に関する事前課題を作成し、指示された期日までに提出する。 事後課題 バイタルサイン測定技術を身につけるまで反復練習する（技術チェックあり） 実施したフィジカルアセスメントおよび看護援助に関するレポートを作成し、指示された期日までに提出する。
	アクティブ・ラーニング	体験学習／調査学習、グループディスカッション／ディベート／グループ・ワーク
5・6	授業内容（担当教員）	生命徴候を把握するためのフィジカルアセスメントと援助技術（宮本）
	授業方法／進め方	1．講義 生命徴候を把握するためのフィジカルアセスメント及び看護援助について講義する。 2．技術演習 演習では講義の内容を活用しながら生命徴候を把握するためのフィジカルアセスメントおよび看護援助（電法）を実施する。
	事前・事後学習	事前学習 生命徴候に関する事前課題を作成し、指示された期日までに提出する。 事後学習 実施したフィジカルアセスメントおよび看護援助に関するレポートを作成し、指示された期日までに提出する。
	アクティブ・ラーニング	体験学習／調査学習、グループディスカッション／ディベート／グループ・ワーク
7・8	授業内容（担当教員）	外皮系のフィジカルアセスメントと援助技術（加藤）
	授業方法／進め方	1．講義 外皮系のフィジカルアセスメントについて講義する。 2．技術演習 演習では、講義の内容を活用しながら外皮系のフィジカルアセスメントを実施する。
	事前・事後学習	事前学習 外皮系に関する事前課題を作成し、指示された期日までに提出する。 事後学習 実施したフィジカルアセスメントおよび看護援助に関するレポートを作成し、指示された期日までに提出する。
	アクティブ・ラーニング	体験学習／調査学習、グループディスカッション／ディベート／グループ・ワーク

9・10	授業内容（担当教員）	消化器系のフィジカルアセスメントと援助技術（宮本）
	授業方法／進め方	1．講義 消化器系のフィジカルアセスメント及び看護援助について講義する。 2．技術演習 消化器系に障害を持つ患者を想定して演習を行う。演習では、講義の内容を活用しながら消化器系のフィジカルアセスメントおよび看護援助を実施する。フィジコや看護がみえるアプリ等を用いて異常な腸音を聴診する。
	事前・事後学習	事前学習 消化器系に関する事前課題を作成し、指示された期日までに提出する。 事後学習 実施したフィジカルアセスメントおよび看護援助に関するレポートを作成し、指示された期日までに提出する。
	アクティブ・ラーニング	体験学習／調査学習、グループディスカッション／ディベート／グループ・ワーク
11・12	授業内容（担当教員）	消化器系に障害を持つ患者のフィジカルアセスメントと援助技術（宮本）
	授業方法／進め方	1．講義 消化器系のフィジカルアセスメント及び看護援助（浣腸）について講義する。 2．技術演習 消化器系に障害を持つ患者を想定して演習を行う。演習では、講義の内容を活用しながら消化器系のフィジカルアセスメントおよび看護援助（浣腸・摘便）を実施する。
	事前・事後学習	事前学習 消化器系に関する事前課題を作成し、指示された期日までに提出する。 事後学習 実施したフィジカルアセスメントおよび看護援助に関するレポートを作成し、指示された期日までに提出する。
	アクティブ・ラーニング	体験学習／調査学習、グループディスカッション／ディベート／グループ・ワーク
13・14	授業内容（担当教員）	腎・泌尿器系のフィジカルアセスメントと援助技術（藤野）
	授業方法／進め方	1．講義 腎・泌尿器系のフィジカルアセスメント及び看護援助（導尿・尿検査）について講義する。 2．技術演習 腎・泌尿器系に障害を持つ患者を想定して演習を行う。演習では、講義の内容を活用しながら腎・泌尿器系のフィジカルアセスメントおよび看護援助（導尿）を導尿モデルで実施する。
	事前・事後学習	事前学習 腎・泌尿器系に関する事前課題を作成し、指示された期日までに提出する。 事後学習 尿検査を実施する。
	アクティブ・ラーニング	体験学習／調査学習、グループディスカッション／ディベート／グループ・ワーク

15・16	授業内容（担当教員）	呼吸器系に障害を持つ患者のフィジカルアセスメントと援助技術（鹿嶋）
	授業方法／進め方	1．講義 呼吸器系のフィジカルアセスメントと援助技術について講義する。 2．技術演習 演習では、講義の内容を活用しながら呼吸器系のフィジカルアセスメントと援助技術を実施する。フィジコおよびラング、看護がみえるアプリ等を用いて異常な呼吸音を聴診する。
	事前・事後学習	事前学習 呼吸器系に関する事前課題を作成し、指示された期日までに提出する。 事後学習 実施したフィジカルアセスメントおよび看護援助に関するレポートを作成し、指示された期日までに提出する。
	アクティブ・ラーニング	体験学習／調査学習、グループディスカッション／ディベート／グループ・ワーク
17・18	授業内容（担当教員）	呼吸器系に障害を持つ患者のフィジカルアセスメントと援助技術（宮本）
	授業方法／進め方	1．講義 呼吸器系のフィジカルアセスメントと援助技術を実施する。 2．技術演習 演習では、呼吸に障害を持つ患者を想定して呼吸器系のフィジカルアセスメントと援助技術（排痰法・体位ドレナージ・酸素吸入・吸入・吸引）を実施する。
	事前・事後学習	事前学習 呼吸器系に関する事前課題を作成し、指示された期日までに提出する。 事後学習 実施したフィジカルアセスメントおよび看護援助に関するレポートを作成し、指示された期日までに提出する。
	アクティブ・ラーニング	体験学習／調査学習、グループディスカッション／ディベート／グループ・ワーク
19・20	授業内容（担当教員）	循環器系に障害を持つ患者のフィジカルアセスメントと援助技術（鹿嶋）
	授業方法／進め方	1．講義 循環器系のフィジカルアセスメントについて講義する。 2．技術演習 演習では、講義の内容を活用しながら循環器系のフィジカルアセスメントを実施する。フィジコや看護がみえるアプリ等を用いて異常な心音の聴取を実施する。
	事前・事後学習	事前学習 循環器系に関する事前課題を作成し、指示された期日までに提出する。 事後学習 実施したフィジカルアセスメントおよび看護援助に関するレポートを作成し、指示された期日までに提出する。
	アクティブ・ラーニング	体験学習／調査学習、グループディスカッション／ディベート／グループ・ワーク

21・22	授業内容（担当教員）	神経系に障害を持つ患者のフィジカルアセスメントと援助技術（藤野）
	授業方法／進め方	1．講義 神経系のフィジカルアセスメントについて講義する。 2．技術演習 演習では、講義の内容を活用しながら神経系のフィジカルアセスメントを実施する。フィジコで異常な瞳孔反射を観察する。
	事前・事後学習	事前学習 神経系に関する事前課題を作成し、指示された期日までに提出する。 事後学習 実施したフィジカルアセスメントおよび看護援助に関するレポートを作成し、指示された期日までに提出する。
	アクティブ・ラーニング	体験学習／調査学習、グループディスカッション／ディベート／グループ・ワーク
23・24	授業内容（担当教員）	筋・骨格系のフィジカルアセスメントと援助技術（松山）
	授業方法／進め方	1．講義 筋・骨格系のフィジカルアセスメントについて講義する。 2．技術演習 演習では、講義の内容を活用しながら筋・骨格系のフィジカルアセスメントを実施する。
	事前・事後学習	事前学習 筋・骨格系に関する事前課題を作成し、指示された期日までに提出する。 事後学習 実施したフィジカルアセスメントおよび看護援助に関するレポートを作成し、指示された期日までに提出する。
	アクティブ・ラーニング	体験学習／調査学習、グループディスカッション／ディベート／グループ・ワーク
25・26	授業内容（担当教員）	フィジカルアセスメント実践演習（技術チェック）/薬物療法が必要な患者のフィジカルアセスメントと援助技術（宮本）
	授業方法／進め方	1．講義 薬物療法が必要な患者へのフィジカルアセスメントおよび看護援助について講義する（メディア授業、オンデマンド形式）。 2．技術演習 フィジカルアセスメント実践演習（技術チェック）および看護援助（経口与薬）を実施する。
	事前・事後学習	事前学習 経口与薬に関する事前課題を作成し、指示された期日までに提出する。 事後学習 フィジカルアセスメント実践演習に関するレポートを作成し、指示された期日までに提出する。
	アクティブ・ラーニング	体験学習／調査学習、グループディスカッション／ディベート／グループ・ワーク

27・28	授業内容（担当教員）	薬物療法が必要な患者のフィジカルアセスメントと援助技術（村上・宮本）
	授業方法／進め方	1．講義 薬物療法が必要な患者へのフィジカルアセスメントおよび看護援助について講義する。 2．技術演習 薬物療法が必要な患者を想定して演習を行う。演習では、講義内容を活用しながら、フィジカルアセスメントおよび看護援助（皮下注射／筋肉内注射）を実施する。
	事前・事後学習	事前学習 皮下注射／筋肉内注射に関する事前課題を作成し、指示された期日までに提出する。 事後学習 実施したフィジカルアセスメントおよび看護援助に関するレポートを作成し、指示された期日までに提出する。
	アクティブ・ラーニング	体験学習／調査学習、グループディスカッション／ディベート／グループ・ワーク
29・30	授業内容（担当教員）	薬物療法が必要な患者のフィジカルアセスメントと援助技術（村上・宮本）
	授業方法／進め方	講義 薬物療法が必要な患者へのフィジカルアセスメントおよび看護援助について講義する。 技術演習 薬物療法が必要な患者を想定して演習を行う。演習では、講義内容を活用しながら、フィジカルアセスメントおよび看護援助（静脈内注射／点滴静脈内注射）を装着式採血静注キットを用いて実施する。
	事前・事後学習	事前学習 静脈内注射／点滴静脈内注射に関する事前課題を作成し、指示された期日までに提出する。 事後学習 実施したフィジカルアセスメントおよび看護援助に関するレポートを作成し、指示された期日までに提出する。
	アクティブ・ラーニング	体験学習／調査学習、グループディスカッション／ディベート／グループ・ワーク
備考	技術演習は、担当教員全員で指導にあたる。	

科目名	リプロダクティブヘルス看護学		
科目名（英語）			
担当教員	杉浦 和子、清水 夏子、新 友子、安河内 静子、吉田 静、石田 都乃		
科目区分	看護学部 看護学科、看護師国家試験受験資格		
標準履修年次	2 年	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位	2単位

・科目情報

授業概要

リプロダクティブヘルスについて理解し、人権とヘルスケアについて学習する。また、女性のライフサイクル各期における特徴や健康上の問題・課題を理解し、女性の生涯にわたる健康の維持・増進のために必要な知識や援助について、根拠立てて考えることを身に着ける。マタニティサイクルにおいては、妊娠期から産褥期、新生児期について、生理学的現象、正常経過について基礎的知識を獲得するとともにその家族への看護についても視野を広げられる力を養う。

履修条件 / 授業内容を理解するために必要な知識・技能等

- ・性ホルモンと月経周期、生殖器の構造に関する基礎知識
- ・母性看護の概念の理解
- ・近年の出生数の理解
- ・日本の婚姻率の理解
- ・女性の初婚、男性の初婚年齢の理解
- ・性感染症に関する統計学的データの理解
- ・婦人科疾患への関心（統計学的データ含む）

関連資格

特になし

テキスト

- テキスト1 系統看護学講座 専門II 母性看護学概論 母性看護学 、森恵美他、医学書院 2022 ISBN :978-4-260-04225-3
- テキスト2 系統看護学講座 専門II 母性看護学各論 母性看護学 、森恵美他、医学書院 2022 ISBN :978-4-260-04223-9
- テキスト3 新訂版 写真でわかる母性看護技術 アドバンス、平澤美恵子他、インターメディカ 2020 ISBN -13:978-4899964100

参考図書・教材等

参考書：

- ・中込さと子、小林康江、荒木奈緒 編著：ナースンググラフィカ 母性看護学 概論・リプロダクティブヘルスと看護 メディカ出版 2022
- ・小林康江、中込さと子、荒木奈緒 編著：ナースンググラフィカ 母性看護学 母性看護の実践 メディカ出版 2022
- ・荒木奈緒、中込さと子、小林康江 編著：ナースンググラフィカ 母性看護学 母性看護技術 メディカ出版 2022
- ・病気が見えるVol10 第4版 産科 医療情報科学研究所 メディックメディア
- ・はじめての婦人科看護 永野忠義 編著め：メディカ出版 2022
- ・その他、必要時、講義時に紹介する。

実務経験を生かした授業

周産期および婦人科看護に携わった教員が教授する。

授業中の撮影

必要な場合は、その都度連絡する。

学習相談・助言体制

1. 欠席時の連絡

科目責任者の杉浦に連絡すること。

2. オフィスアワー

1～4限の時間内とする。

杉浦 和子 4号館4階研究室 sugiura@fukuoka-pu.ac.jp
 吉田 静 5号館4階研究室 yoshida@fukuoka-pu.ac.jp
 安河内 静子 5号館4階研究室 kouchi@fukuoka-pu.ac.jp
 新 友子 5号館4階助手室 tomoko.shin@fukuoka-pu.ac.jp

* 大学院講義・演習、他学年の実習期間中で不在にしていることが多いため、原則メールでの対応とさせていただきます。

* 対面が必要な場合は、あらかじめメールで日程調整した上で来訪いただきます。

・DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP

知識・技能

(DP1)	リプロダクティブヘルス/ライツについて理解することができる。 母子保健統計について理解できる。 女性のライフステージ各期の特徴と健康課題について理解することができる。 婦人科疾患について理解することができる。
(DP2)	マタニティサイクルについて理解することができる。 周産期の正常と異常について理解することができる。

思考・判断・表現

(DP3)	ライフステージ各期の特徴と健康課題、マタニティサイクルに必要なリプロダクティブヘルスケアについて考えることができる。 婦人科看護について考えることができる。 マタニティサイクルにおける家族看護について考えることができる
-------	---

主体性・多様性・協働性

(DP4)	ライフサイクルに応じたリプロダクティブライツについて多角的に理解することができる。 性に関心をもつことができる。 ライフプランを主体的に考えることができる。
-------	--

履修目標

授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。

リプロダクティブヘルスについて理解し、人権とヘルスケアを深める。また、女性のライフサイクル各期における特徴や健康上の問題・課題を理解し、起きている事象を生理学的に病態学的に理解する。マタニティサイクルを理解し、妊娠期・分娩期の生理や正常経過について基礎的知識を獲得するとともにその家族への看護について理解する。

到達目標

授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。
履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。

リプロダクティブヘルス、女性のライフステージ各期の特徴と健康課題、婦人科看護について理解を深め説明することができる。周産期の正常と異常について理解し、看護者の役割を考えることができる。

成績評価の基準

S: 90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修(自主的な学修)が認められる。

定期試験、授業内レポートまたは小テスト、授業後レポート、授業態度が総じて90%以上、期限までに提出物を提出する。

リプロダクティブヘルスについて理解し、人権とヘルスケアについて深く理解している。

女性のライフサイクル各期における特徴や健康上の問題・課題を深く理解している。

女性のライフサイクル各期に起こりやすい婦人科疾患について生理学的・病態学的に詳細に理解している。

マタニティサイクルを詳細に理解している。

妊娠期・分娩期の生理や正常経過について必要な知識を十分理解している。

マタニティサイクルにおける看護者の役割に家族看護の必要性を十分理解している。

A: 80～89 履修目標を達成している。

定期試験、授業内レポートまたは小テスト、授業後レポート、授業態度が総じて80%以上、期限までに提出物を提出する。

リプロダクティブヘルスについて理解し、人権とヘルスケアについて理解している。

女性のライフサイクル各期における特徴や健康上の問題・課題を理解している。

女性のライフサイクル各期に起こりやすい婦人科疾患について生理学的・病態学的に理解している。

マタニティサイクルを概ね理解している。

妊娠期・分娩期の生理や正常経過について必要な知識を理解している。

マタニティサイクルにおける看護者の役割に家族看護の必要性を理解している。

B:70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。

定期試験、授業内レポートまたは小テスト、授業後レポート、授業態度が総じて70%以上、期限までに提出物を提出する。

リプロダクティブヘルスについて理解し、人権とヘルスケアについて概ね理解している。

女性のライフサイクル各期における特徴や健康上の問題・課題を概ね理解している。

女性のライフサイクル各期に起こりやすい婦人科疾患について生理学的・病態学的に概ね理解している。

マタニティサイクルを概ね理解している。

妊娠期・分娩期の生理や正常経過について必要な知識を概ね理解している。

マタニティサイクルにおける看護者の役割に家族看護の必要性を概ね理解している。

C:60～69 到達目標を達成している。

定期試験、授業内レポートまたは小テスト、授業後レポート、授業態度が総じて60%以上、期限までに提出物を提出する。

リプロダクティブヘルスについて理解し、人権とヘルスケアについて最低限理解している。

女性のライフサイクル各期における特徴や健康上の問題・課題を最低限理解している。

女性のライフサイクル各期に起こりやすい婦人科疾患について生理学的・病態学的に最低限理解している。

マタニティサイクルを最低限理解している。

妊娠期・分娩期の生理や正常経過について必要な知識を最低限理解している。

マタニティサイクルにおける看護者の役割に家族看護の必要性を最低限理解している。

不可:～59 到達目標を達成できていない。

定期試験、授業内レポートまたは小テスト、授業後レポート、授業態度が総じて60%未満、期限までに提出物を提出できない。

リプロダクティブヘルスについて理解し、人権とヘルスケアについて最低限の理解に達していない。

女性のライフサイクル各期における特徴や健康上の問題・課題を最低限の理解に達していない。

女性のライフサイクル各期に起こりやすい婦人科疾患について生理学的・病態学的に最低限の理解に達していない。

マタニティサイクルを最低限の理解に達していない。

妊娠期・分娩期の生理や正常経過について必要な知識を最低限理解に達していない。

マタニティサイクルにおける看護者の役割に家族看護の必要性を最低限の理解に達していない。

・成績評価の方法

評価指標	割合	関連するDP
定期試験	40	知識・技能(DP2):30, 思考・判断・表現(DP3):10
小テスト	30	知識・技能(DP1):10, (DP2):10, 思考・判断・表現(DP3):10
レポート	20	知識・技能(DP1):10, 思考・判断・表現(DP3):10
授業態度	10	主体性・多様性・協働性(DP4):10
備考	・定期試験、課題、授業に取り組む姿勢について、総合的に評価する。・小テストを行う場合は行う前の回の講義までにアナウンスする。・授業外レポート課題は担当教員より提示する。(課題レポートおよび授業外レポートの提出については、学生便覧p78に基づく)・課題レポートおよび授業外レポートにおいて内容が不十分な場合は減点とする。・授業の参加度として、欠席、遅刻、早退、提出物遅れ、未提出、授業の取り組みが悪い場合は参加度も減点とする。	

・授業計画、アクティブ・ラーニング

回	授業計画
---	------

1	授業内容（担当教員）	1．講義ガイダンス 2．母子保健統計 担当：杉浦
	授業方法／進め方	本時の15コマについて資料を基に説明する。 母子保健統計について、資料を用いて復習する。 思春期の特徴と健康課題について、概説し、予習を提示する。
	事前・事後学習	事前学習：テキスト1を用いて予習する。 人口数、出生率、合計特殊出生率、出産年齢などに関する統計値を調べておく。 事後：授業内容について理解を深める。
2	授業内容（担当教員）	思春期の特徴と健康課題 担当：杉浦
	授業方法／進め方	思春期の健康課題の特徴と健康課題について、スライドと資料を基に、講義形式で進める。 成熟期への移行に向け、成熟期の特徴を概説し、予習を提示する。 小テスト：第1講
	事前・事後学習	事前学習：テキスト1を用いて予習する。予習関連部分は第1章から第3章，第5章，第6章を理解する。特に生殖器の形態・機能，思春期について理解を深める。 復習：生殖器の形態・機能，思春期の特徴と健康課題についてまとめる。
3	授業内容（担当教員）	成熟期の特徴と健康課題 担当：杉浦
	授業方法／進め方	成熟期の特徴と健康課題についてスライドと資料を基に、講義形式で進める。 更年期・老年期へのライフステージについて概説し予習を提示する。
	事前・事後学習	事前学習：テキスト1を用いて予習する。予習関連部分は第1章から第3章，第5章，第6章を理解する。特に生殖器の形態・機能，成熟期について理解を深める。またテキスト2では第1章。第2章の理解を深める 復習：生殖器の形態・機能，成熟期の特。

4	授業内容（担当教員）	更年期・老年期の特徴と健康課題 担当：杉浦
	授業方法 / 進め方	更年期の特徴と健康課題、老年期の特徴と健康課題についてスライドと資料を基に、講義形式で進める。 小テスト：第2講～第4講
	事前・事後学習	事前学習：テキスト1を用いて予習する。予習関連部分は第1章から第3章，第5章，第6章を理解する。特に生殖器の形態・機能，更年期および老年期について理解を深める 復習：生殖器の形態・機能，更年期および老年期の特徴と健康課題についてまとめる。
5 [メディア]	授業内容（担当教員）	性感染症とリプロダクティブヘルス * メディア授業の期間とレポート提出は別に提示します。 担当：川名（杉浦）
	授業方法 / 進め方	性感染症について、日本の第一人者より、最新のトピックス、統計データなどをスライドを用いて教授する。 授業内レポート：評価対象レポート
	事前・事後学習	事前学習：テキスト1を用いて予習する。関連部分は第6章性感染症とその予防について理解する。性感染症について統計学的データを調べておく。 事後：授業内容をまとめレポートする（評価対象のレポート）
6	授業内容（担当教員）	妊娠期 妊娠の生理と特性，妊娠期の正常・異常1 担当：新（杉浦）
	授業方法 / 進め方	妊娠期の生理と特性，異常について、スライドと資料を基に、講義形式で進める。
	事前・事後学習	事前学習：テキスト2を用いて予習する。関連部分は第3章妊娠期における看護、第7章妊娠の異常と看護を理解する。 事後学習：授業内容について、講義資料を基に繰り返し理解を深める。
7	授業内容（担当教員）	妊娠期 妊娠の生理と特性，妊娠期の正常・異常2 担当：新（杉浦）
	授業方法 / 進め方	妊娠期の生理と特性，異常について、スライドと資料を基に、講義形式で進める。
	事前・事後学習	事前学習：テキスト2を用いて予習する。関連部分は第3章妊娠期における看護、第7章妊娠の異常と看護を理解する。 事後学習：授業内容について、講義資料を基に繰り返し理解を深める。

8	授業内容（担当教員）	妊娠期 妊娠の生理と特性，妊娠期の正常・異常3 担当：新（杉浦）
	授業方法／進め方	妊娠期の生理と特性，異常について、スライドと資料を基に、講義形式で進める。
	事前・事後学習	事前学習：テキスト2を用いて予習する。関連部分は第3章妊娠期における看護、第7章妊娠の異常と看護を理解する。 事後学習：授業内容について、講義資料を基に繰り返し理解を深める。
9	授業内容（担当教員）	分娩期 分娩の生理と特性，分娩期の正常・異常1 担当：吉田
	授業方法／進め方	分娩期の生理と特性，異常について、スライドと資料を基に、講義形式で進める。
	事前・事後学習	事前学習：テキスト2を用いて予習する。関連部分は第4章分娩期における看護、第7章分娩の異常と看護を理解する。 事後学習：分娩期の生理，正常と異常をまとめる。
10	授業内容（担当教員）	分娩期 分娩の生理と特性，分娩期の正常・異常2 担当：吉田
	授業方法／進め方	分娩期の生理と特性，異常について、スライドと資料を基に、講義形式で進める。
	事前・事後学習	事前学習：テキスト2を用いて予習する。関連部分は第4章分娩期における看護、第7章分娩の異常と看護を理解する。 事後学習：分娩期の生理，正常と異常をまとめる。
11	授業内容（担当教員）	分娩期 分娩の生理と特性，分娩期の正常・異常3 担当：吉田
	授業方法／進め方	分娩期の生理と特性，異常について、スライドと資料を基に、講義形式で進める。
	事前・事後学習	事前学習：テキスト2を用いて予習する。関連部分は第4章分娩期における看護、第7章分娩の異常と看護を理解する。 事後学習：分娩期の生理，正常と異常をまとめる。
12	授業内容（担当教員）	産褥期 産褥の生理と特性，産褥期の正常・異常1 担当：吉田
	授業方法／進め方	産褥期の生理と特性，異常について、スライドと資料を基に、講義形式で進める。
	事前・事後学習	事前学習：テキスト2を用いて予習する。関連部分は第6章産褥期における看護、第7章の産褥の異常と看護を理解する。 事後学習：産褥期の生理，正常と異常をまとめる。

13	授業内容（担当教員）	産褥期 産褥の生理と特性，産褥期の正常・異常2 担当：吉田
	授業方法／進め方	産褥期の生理と特性，異常について、スライドと資料を基に、講義形式で進める。
	事前・事後学習	事前学習：テキスト2を用いて予習する。関連部分は第6章産褥期における看護、第7章の産褥の異常と看護を理解する。 事後学習：産褥期の生理，正常と異常をまとめる。
14	授業内容（担当教員）	新生児期 新生児の生理と異特性，新生児期の正常・異常1 担当：吉田
	授業方法／進め方	新生児期の生理と特性，異常について、スライドと資料を基に、講義形式で進める。
	事前・事後学習	事前学習：テキスト2を用いて予習する。関連部分は第5章新生児期における看護、第7章新生児の異常と看護を理解する。 事後学習：新生児期の生理，正常と異常をまとめる。
15	授業内容（担当教員）	新生児期 新生児の生理と異特性，新生児期の正常・異常1 担当：吉田
	授業方法／進め方	新生児期の生理と特性，異常について、スライドと資料を基に、講義形式で進める。
	事前・事後学習	事前学習：テキスト2を用いて予習する。関連部分は第5章新生児期における看護、第7章新生児の異常と看護を理解する。 事後学習：新生児期の生理，正常と異常をまとめる。

科目名	リプロダクティブヘルス看護学演習		
科目名（英語）			
担当教員	杉浦 和子、清水 夏子、新 友子、安河内 静子、石田 都乃		
科目区分	看護学部 看護学科、看護師国家試験受験資格		
標準履修年次	3 年	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位	2単位

・科目情報

授業概要

リプロダクティブヘルス看護学で学んだ知識を活かし、産婦人科領域における看護の実践に必要な看護技術を習得する。対象者の状態に即した看護技術の選択とその根拠を明確にしながらシミュレーションし、プライバシーに配慮しながら対象をエンパワーメントしていく方法を学ぶ。

履修条件 / 授業内容を理解するために必要な知識・技能等

リプロダクティブヘルス看護学で学んだ知識全般があること。

テキスト

テキスト

- 1) 森恵美他、系統看護学講座専門II『母性看護学概論 母性看護学』医学書院 2022 ISBN:978-4-260-04225-3
- 2) 森恵美他、系統看護学講座専門II『母性看護学各論 母性看護学』医学書院 2022 ISBN:978-4-260-04223-9
- 3) 石村由利子他、『根拠と事故防止から見た母性看護技術』医学書院 2020 ISBN:978-4-260-04324-3

参考図書・教材等

- ・リプロダクティブヘルス看護学の講義資料
- ・産婦人科診療ガイドライン産科編2023作成委員会、『産婦人科診療ガイドライン2023』、日本産科婦人科学会
- ・太田操編、『ウェルネス看護診断にもとづく母性看護過程第3版』医歯薬出版株式会社、2017
- ・佐世正勝他、『ウェルネスからみた母性看護過程』第3版、医学書院、2016
- ・中村幸代、『根拠がわかる母性看護過程』、南江堂、2019
- ・鈴木久美、『女性性を支えるがん看護』般社団法人 日本がん看護学会、2015
- ・永野忠義編著、『NEWはじめての婦人科看護』メディカ出版、2022

実務経験を生かした授業

臨床経験を持つ教員が授業を担当する。

授業中の撮影

有

学習相談・助言体制

技術演習やグループワークを主とした演習であるため疑問点をすべて解決できるよう演習の場で質問に答える。オフィスアワーは1～4限の時間内する。

杉浦和子	4号館4階研究室	sugiura@fukuoka-pu.ac.jp
安河内 静子	5号館4階研究室	kouchi@fukuoka-pu.ac.jp
清水 夏子	5号館4階助手室	shimizu@fukuoka-pu.ac.jp
新 友子	5号館4階助手室	tomoko.shin@fukuoka-pu.ac.jp

・DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

D P

知識・技能

(DP1)	マタニティサイクルにおける根拠に基づいた看護技術の知識を有している。 女性のライフステージの特徴と健康課題、疾患について理解を深められる。
(DP2)	様々なライフサイクルにある対象の個別性に即した社会資源の活用提案や健康教育ができる。

思考・判断・表現

(DP3)	紙上事例に対してリプロダクティブヘルス/ライツに基づき、全体像を捉えられる。また、情報を分析し、問題解決型・リスク型・ウェルネス型の思考方法を用いて臨床推論し、自身の意見を主体的に表現できる。
-------	--

主体性・多様性・協働性

(DP4)	メンバーと協働して目標の設定・看護計画の立案を行い、シミュレーションの実施と評価ができる。
-------	---

履修目標

授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。

- 女性とその家族を対象にライフサイクルを通じた教育や看護ケアを実践するための看護技術を習得できる。
- 紙上事例の全体像を捉え、情報の整理・分析を行い、リプロダクティブヘルス/ライツ、プライマル・ヘルスの視点で説明ができる。
- マタニティサイクルにおける正常な経過とウェルネス型看護診断が理解でき、看護計画を立案できる。
- 紙上事例に対し、症状や状態に応じた臨床推論を行い、問題解決型・リスク型の看護計画を立案できる。
- 積極的にグループワークに取り組み、メンバーと協力してシミュレーションの実施と評価ができ、自分の考えを表現できる。
- 演習の目的内容を理解し、主体的に事前事後学習に取り組むことができる。

到達目標

授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。
履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。

- 看護技術習得のための技術練習に取り組み、適切に実施できる。
- 紙上事例の情報の整理・分析ができる。
- 婦人科疾患において臨床推論ができる。
- マタニティサイクルにおける正常な経過とウェルネス型看護診断が理解できる。
- グループワークに取り組み、シミュレーションを展開できる。
- 演習の目的内容を理解し、提示された事前事後学習に取り組むことができる。

成績評価の基準

S: 90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修(自主的な学修)が認められる。

- 事前・事後学習が主体的に深く学習できている。
- 演習の目的内容を理解した上で、積極的にグループワークに取り組み、自分の考えを適切に表現できる。
- 資料をほとんど見ずに看護技術を実施でき、かつ状況に合わせて臨機応変に対応でき、臨地実習にて十分実施が可能なレベルに達している。
- リプロダクティブヘルス/ライツに基づいた倫理的問題を含む事例に対し、配慮することができている。
- 生命の神秘と尊厳、およびマタニティサイクルにおける母子の生理的变化をよく理解している。
- 対象の全体像を捉え、既知の知識を活かしたアセスメントが詳細にできおり、不足する部分はほとんどない。
- 必要に応じてウェルネス型・問題解決型・リスク型の看護診断を使い分け、看護計画を立案・実施・評価ができる。

A: 80～89 履修目標を達成している。

- 提示された事前・事後学習がおおむねできている。
- メンバーと協力してグループワークに取り組むことができている。
- 看護技術は、資料を見ながら実施でき、臨地実習にておおむね実施が可能なレベルに達している。
- リプロダクティブヘルス/ライツに基づいた倫理的問題を含む事例に対し、配慮を考えられている。
- 生命の神秘と尊厳、およびマタニティサイクルにおける母子の生理的变化を理解している。
- 対象の全体像を捉え、既知の知識を活かしたアセスメントがおおむねできている。
- 必要に応じてウェルネス型・問題解決型・リスク型の看護診断を使い分け、看護計画を立案・実施・評価ができる。

B: 70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。

- 提示された事前・事後学習がかなりできていない。
- グループワークに参加できているが、主体性に欠ける。
- 助言があれば、事例のもつ倫理的問題に気づき、配慮について考えることができている。
- 看護技術は資料を見ながらであれば、助言のもと、おおむね実施できる。
- 生命の神秘と尊厳、およびマタニティサイクルにおける母子の生理的变化をおおむね理解している。
- 対象の全体像を把握し、アセスメントがおおむねできているが不足する部分が目立つ。
- ウェルネス型・問題解決型・リスク型の看護診断を使い分け、看護計画を立案、実施、評価ができる。

C: 60～69 到達目標を達成している。

- 提示された事前・事後学習があまりできていない。
- グループワークに参加できているが、主体性にかける。
- 助言があれば、事例のもつ倫理的問題に気づけている。
- 看護技術は、資料をみながら助言があれば実施できるが、実習までに練習が必要なレベルである。
- 生命の神秘と尊厳、およびマタニティサイクルにおける母子の生理的变化の理解が不十分である。
- 対象の全体像を把握し、アセスメントができているが不足する部分が多い。
- ウェルネス型・問題解決型・リスク型の看護診断を使い分け、看護計画を立案、実施、評価がcaろうじてできるが不足が多い。

不可：～59 到達目標を達成できていない。

- 提示された事前・事後学習をしていない。
- グループワークに参加していない。
- 全体的に知識不足であり、実習にて必要とされる看護技術を理解するに至らない。
- 生命の神秘と尊厳、およびマタニティサイクルにおける母子の生理的变化の理解ができていない。
- 対象の全体像を把握し、アセスメントがほとんどできず不足部分がかなり目立つ。
- ウェルネス型・問題解決型・リスク型の看護診断を使い分けることができず、看護計画を立案、実施、評価ができない。

・成績評価の方法

評価指標	割合	関連するDP
定期試験	30	知識・技能(DP1)：10，思考・判断・表現(DP3)：10，主体性・多様性・協働性(DP4)：10
事前・事後学習ワークシート	30	知識・技能(DP1)：5，(DP2)：5，思考・判断・表現(DP3)：10，主体性・多様性・協働性(DP4)：10
グループワーク・ディスカッション	20	知識・技能(DP1)：5，(DP2)：5，思考・判断・表現(DP3)：5，主体性・多様性・協働性(DP4)：5
演習態度・あいさつ・みだしなみ・言葉遣い	10	主体性・多様性・協働性(DP4)：10
出席	10	主体性・多様性・協働性(DP4)：10

・授業計画、 ・アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニングの内容

グループ・ワーク

回	授業計画	
1	授業内容（担当教員）	杉浦、吉田、安河内、清水、新
	授業方法 / 進め方	<オリエンテーション> 講義形式：パワーポイント資料に沿って以下の内容を説明する。 ・グループワーク演習の進め方 ・演習上の注意 ・成績評価方法 ・事前事後学習 ・臨床推論 ・ウェルネス型看護過程 ・マタニティサイクルにおける健康教育・生活指導
	事前・事後学習	事前学習 ・指定された教科書の該当ページを読み、動画を見る。
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/ディベート/グループワーク

2	授業内容（担当教員）	杉浦、吉田、安河内、清水、新
	授業方法 / 進め方	< 妊娠初期の看護のための看護技術 > 1) DVD視聴後イメージマップを作成 対象の全体像と看護の方向性について発表する。
	事前・事後学習	1 参照
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション / デイバート / グループワーク
3	授業内容（担当教員）	杉浦、吉田、安河内、清水、新
	授業方法 / 進め方	< 妊娠初期の看護のための看護技術 > 2) 教科書事例によるロールプレイ シナリオ作成 → 練習 → ロールプレイ発表 → デブリーフィング 「生活指導 / 出生前検査についての情報提供」 「つわりの対処方法」 「妊娠初期の留意事項などの生活指導」
	事前・事後学習	事後学習 ・ワークシート （ローリスク妊婦の看護過程）
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション / デイバート / グループワーク
4	授業内容（担当教員）	杉浦、吉田、安河内、清水、新
	授業方法 / 進め方	< 妊娠中期・後期の看護のための看護技術 > 1) グループ単位で技術演習指導を受ける。 2) 自主練習ののち「妊婦健診」シミュレーションを行う。 3) デブリーフィング シミュレーションの振り返りとともにピア評価と教員から助言をうける。 4) 臨床推論ワークシート学習 「妊婦の意識消失」 「妊婦の腰痛」 技術演習：グループローテーション時間制。 演習グループが演習を行っている間、待機グループは臨床推論型シミュレーション課題に取り組む。
	事前・事後学習	事前学習 ・ワークシート ・指定された教科書の該当ページを読み、動画を見る。
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション / デイバート / グループワーク
5	授業内容（担当教員）	杉浦、吉田、安河内、清水、新
	授業方法 / 進め方	< 妊娠中期・後期の看護のための看護技術 > 4を参照
	事前・事後学習	事前学習 ・ワークシート ・指定された教科書の該当ページを読み、動画を見る。
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション / デイバート / グループワーク
6	授業内容（担当教員）	杉浦、吉田、安河内、清水、新
	授業方法 / 進め方	< 妊娠中期・後期の看護のための看護技術 > 4を参照
	事前・事後学習	事後学習 ・ワークシート （ローリスク妊婦の看護過程）
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション / デイバート / グループワーク

7	授業内容（担当教員）	杉浦、吉田、安河内、清水、新
	授業方法 / 進め方	< 分娩期看護 / 出生直後の新生児のための看護技術 > 1) グループ単位で技術演習指導を受ける。 2) 自主練習ののち「経膈分娩」シミュレーションを行う。 3) デブリーフィングはシミュレーションの振り返りを行い、ピア評価と教員から助言をうける。 4) 臨床推論ワークシート学習 「弛緩出血」 「前期破水」 「出生直後の新生児看護」 技術演習：グループローターション時間制。 演習グループが演習を行っている間、待機グループは臨床推論型シミュレーション課題に取り組む。
	事前・事後学習	事前学習 ・ワークシート ・指定された教科書の該当ページを読み、動画を見る。
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション / デイバート / グループ・ワーク
8	授業内容（担当教員）	杉浦、吉田、安河内、清水、新
	授業方法 / 進め方	< 分娩期看護 / 出生直後の新生児のための看護技術 > 7を参照
	事前・事後学習	7参照
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション / デイバート / グループ・ワーク
9	授業内容（担当教員）	杉浦、吉田、安河内、清水、新
	授業方法 / 進め方	< 分娩期看護 / 出生直後の新生児のための看護技術 > 7を参照
	事前・事後学習	事後学習 ・ワークシート （ローリスク産婦の看護過程）
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション / デイバート / グループ・ワーク
10	授業内容（担当教員）	杉浦、吉田、安河内、清水、新
	授業方法 / 進め方	< 分娩期看護 / 帝王切開、ハイリスク新生児のための看護技術 > 1) グループ単位で技術演習指導を受ける。 2) 自主練習ののちシミュレーションを行う。 3) デブリーフィング シミュレーションの振り返りを行い、ピア評価と教員から助言をうける。 4) 臨床推論ワークシート学習 「妊産婦の頭痛」 「切迫早産」 「双胎」 技術演習：グループローターション時間制。 演習グループが演習を行っている間、待機グループは臨床推論型シミュレーション課題に取り組む。
	事前・事後学習	事前学習 ・ワークシート ・指定された教科書の該当ページを読み、動画を見る。
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション / デイバート / グループ・ワーク
11	授業内容（担当教員）	杉浦、吉田、安河内、清水、新
	授業方法 / 進め方	< 分娩期看護 / 帝王切開、ハイリスク新生児のための看護技術 > 10を参照
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション / デイバート / グループ・ワーク

12	授業内容（担当教員）	杉浦、吉田、安河内、清水、新
	授業方法 / 進め方	< 分娩期看護 / 帝王切開、ハイリスク新生児のための看護技術 > 10を参照
	事前・事後学習	事後学習 ・ワークシート (ローリスク産婦の看護過程)
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション / デイバート / グループワーク
13	授業内容（担当教員）	杉浦、吉田、安河内、清水、新
	授業方法 / 進め方	< 産褥期のための看護技術 > 1) グループ単位で技術演習指導を受ける。 2) 自主練習ののち、訪室シミュレーションを行う。 「帝王切開後の観察と授乳介助」 「経膈分娩後の観察と授乳介助」 3) デブリーフィング シミュレーションの振り返りを行い、 ピア評価と教員から助言をうける。 4) 臨床推論ワークシート学習 「授乳期の看護」 「退院指導」 技術演習：グループローテーション時間制。 演習グループが演習を行っている間、待機グループは臨床推論型 シミュレーション課題に取り組む。
	事前・事後学習	事前学習 ・ワークシート ・指定された教科書の該当ページを読み、動画を見る。
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション / デイバート / グループワーク
14	授業内容（担当教員）	杉浦、吉田、安河内、清水、新
	授業方法 / 進め方	< 産褥期のための看護技術 > 13を参照
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション / デイバート / グループワーク
15	授業内容（担当教員）	杉浦、吉田、安河内、清水、新
	授業方法 / 進め方	< 産褥期のための看護技術 > 13を参照
	事前・事後学習	事後学習 ・ワークシート
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション / デイバート / グループワーク

16	授業内容（担当教員）	杉浦、吉田、安河内、清水、新
	授業方法 / 進め方	< 新生児看護のための看護技術 > 技術演習はローテーション時間制で行い、参考DVDを見てから演習を行う。待機グループは待機時間に臨床推論型シミュレーション課題に取り組む。 1) グループ単位で技術演習指導を受ける。 2) チェックリストでピア評価する。 3) 教員に助言をもらう。 4) ワークシート学習 新生児のアセスメント 光線療法中の児の看護
	事前・事後学習	事前学習 ・ワークシート（新生児沐浴） ・指定された教科書の該当ページを読み、動画を見る。
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション / デイバート / グループワーク
17	授業内容（担当教員）	杉浦、吉田、安河内、清水、新
	授業方法 / 進め方	< 新生児看護のための看護技術 > 16を参照
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション / デイバート / グループワーク
18	授業内容（担当教員）	杉浦、吉田、安河内、清水、新
	授業方法 / 進め方	< 新生児看護のための看護技術 > 16を参照
	事前・事後学習	事後学習 ・ワークシート （ローリスク新生児の看護過程） ・沐浴の自主練習を行う。
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション / デイバート / グループワーク
19	授業内容（担当教員）	杉浦、吉田、安河内、清水、新
	授業方法 / 進め方	< マタニティメンタルヘルスケアのための看護技術 > ・講義形式 パワーポイントに沿って説明する。 ・技術演習 グループワーク 1) 教員によるEPDS面談デモ 2) 教科書事例で提示された面談シミュレーションを3人（看護師/母親/観察者）で実施、ピア評価する。 3) 動画視聴「産後ケア」 4) ワークシート学習 産後1か月健診 2週間健診 産後ケア 模擬試験のオリエンテーションを行う。参考DVDを視聴する。
	事前・事後学習	事前学習 ・ワークシート ・指定された教科書の該当ページを読み、動画を見る。
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション / デイバート / グループワーク
20	授業内容（担当教員）	杉浦、吉田、安河内、清水、新
	授業方法 / 進め方	< マタニティメンタルヘルスケアのための看護技術 > 19を参照
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション / デイバート / グループワーク

21	授業内容（担当教員）	杉浦、吉田、安河内、清水、新
	授業方法 / 進め方	< マタニティメンタルヘルスケアのための看護技術 > 19を参照
	事前・事後学習	事後学習 ・ワークシート ・これまで習った看護技術の自主練習
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション / デイバート / グループワーク
22	授業内容（担当教員）	杉浦、吉田、安河内、清水、新
	授業方法 / 進め方	< 模擬試験 > ・グループ単位で模擬試験を受ける。（訪室シミュレーション） 模擬試験はローテーション時間制で行う。 ・事例は数例用意し、シチュエーション設定は事前に告知する。 ・使用する看護技術は1-21回までに演習で扱った技術に限定する。 1) メディアアイ事例から情報収集、全体像を把握する 2) 看護計画立案、物品準備 3) シミュレーション実施 4) デブリーフィングではシミュレーションの振り返りを行い ピア評価と教員から助言をうける。 5) 全員が学びを共有するために 事例ごとに発表会を行い、 意見交換をする。
	事前・事後学習	事前学習 ・模擬試験のシチュエーションに合わせて自己学習、自主練習を行う。 ・ワークシートの復習。
23	授業内容（担当教員）	杉浦、吉田、安河内、清水、新
	授業方法 / 進め方	< 模擬試験 > 22を参照
24	授業内容（担当教員）	杉浦、吉田、安河内、清水、新
	授業方法 / 進め方	< 模擬試験 > 22を参照
	事前・事後学習	事後学習 ・ワークシート （模擬試験の振り返り） ・できなかったところを自己学習する。

25	授業内容（担当教員）	杉浦、吉田、安河内、清水、新
	授業方法 / 進め方	< 婦人科疾患をもつ人への看護技術 > ・講義形式 1) 事例解説と婦人科看護のポイントをパワーポイント資料に沿って説明する。 2) 様々なライフステージにある人のリプロダクティブヘルスやジェンダー・アイデンティティの揺らぎに対する看護の視点についてあらかじめ用意した文献を参考にしながらグループディスカッションをして結果を発表する。 ・ワークシート 「HBOC」 「単純子宮全摘術」 「骨盤臓器脱」 「子宮頸がん」 定期試験のオリエンテーションを行う。
	事前・事後学習	事前学習 ・ワークシート ・指定された教科書の該当ページを読み、グループ毎にテーマを決め、参考文献（論文や書籍）を1つ用意し読んで自分の意見をまとめる。
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション / デイバート / グループ・ワーク
26	授業内容（担当教員）	杉浦、吉田、安河内、清水、新
	事前・事後学習	事前学習 ・ワークシート ・指定された教科書の該当ページを読み、グループ毎にテーマを決め、参考文献（論文や書籍）を1つ用意し読んで自分の意見をまとめる。
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション / デイバート / グループ・ワーク
27	授業内容（担当教員）	杉浦、吉田、安河内、清水、新
	事前・事後学習	事後学習 ・ワークシートの復習と整理
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション / デイバート / グループ・ワーク
28	授業内容（担当教員）	杉浦、吉田、安河内、清水、新
	授業方法 / 進め方	< 定期試験 > < 技術テスト > 個人単位で技術試験を受ける。試験はローテーション時間制で行う。事例は模擬試験同様、これまでの演習で扱った事例の中からランダムに割り当て場面に応じた技術を選択し、訪室シミュレーションを行う。 1) それぞれが指定された事例から情報収集し、全体像を把握する 2) 看護計画立案、物品準備 3) シミュレーション実施 4) 評価と振り返り
	事前・事後学習	事前学習 ・定期試験に向けた自己学習、看護技術の自主練習を行う。
29	授業内容（担当教員）	杉浦、吉田、安河内、清水、新
	授業方法 / 進め方	< 定期試験 > < 技術テスト > 28参照

30	授業内容（担当教員）	杉浦、吉田、安河内、清水、新
	授業方法／進め方	< 定期試験 > < 技術テスト > 28参照
	事前・事後学習	事後学習 ・ワークシート （定期試験の振り返り） ・できなかった技術を実習までに自己練習する。

科目名	リプロダクティブヘルス看護学実習		
科目名（英語）			
担当教員	杉浦 和子、清水 夏子、新 友子、吉田 静、安河内 静子、石田 都乃		
科目区分	看護学部 看護学科、看護師国家試験受験資格		
標準履修年次	3年	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位	2単位

・科目情報

授業概要

ライフステージ（思春 期・成熟期・更年期・老年期）、マタニティサイクルの特徴を理解し、看護を展開する。また、ライフステージ・周産期における女性および家族への支援について、退院後を見据えた看護ケア、健康教育の必要性、家族調整、多職種連携、地域連携における看護者としての役割を理解し、その実践力を高める。

履修条件 / 授業内容を理解するために必要な知識・技能等

リプロダクティブヘルス看護学および看護演習で学んだ女性の身体の構造及び生理的变化、新生児の身体の構造及び生理的变化に関する知識と必要なケア方法の技能。ライフステージに応じた特徴と健康課題、疾患、対象に必要な支援・看護を理解している。

テキスト

【貸出図書】（助手室にて貸出）

新生児の臨床検査 基準値 ディクショナリー
 すぐ使える！入院中から退院までの母乳育児支援
 産科スタッフのための新生児学
 これでナットク！母乳育児
 新生児の症状別フィジカルアセスメント
 ウエルネス看護診断にもとづく母性看護過程
 写真で分かる助産技術
 母性看護実践の基本 母性看護学
 ウエルネスからみた母性看護過程＋病態関連図
 根拠がわかる母性看護過程 事例で学ぶウエルネス志向型ケア計画
 はじめての婦人科看護

参考図書・教材等

【貸出図書】（助手室にて貸出）

新生児の臨床検査 基準値 ディクショナリー
 すぐ使える！入院中から退院までの母乳育児支援
 産科スタッフのための新生児学
 これでナットク！母乳育児
 新生児の症状別フィジカルアセスメント
 ウエルネス看護診断にもとづく母性看護過程
 写真で分かる助産技術
 母性看護実践の基本 母性看護学
 ウエルネスからみた母性看護過程＋病態関連図
 根拠がわかる母性看護過程 事例で学ぶウエルネス志向型ケア計画
 はじめての婦人科看護

実務経験を生かした授業

教員および臨床指導者は周産期施設での臨床経験を活かした教育を行う。

授業中の撮影

無

学習相談・助言体制

質問及びその回答は実習中に行う。また、学習に関する相談がある場合は個別に対応する。

・DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

D P

知識・技能

(DP1)	ライフステージの特徴と健康課題を理解している リプロダクティブヘルス看護の必要な知識を有している
(DP2)	マタニティサイクルについて、理解している 対象に必要な看護技術を習得している 対象が受ける（または受けた）サービスについて、法律・制度を踏まえ理解できる

思考・判断・表現

(DP3)	ライフステージにある対象において臨床推論できる 周産期の女性およびその家族について臨床推論できる 実習を通して、生命の誕生・尊厳について、理解を深め考察することができる 専門職連携について考察できる
-------	--

主体性・多様性・協働性

(DP4)	積極的な学習態度で実習に臨むことができる
-------	----------------------

履修目標

授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。

ライフサイクル、マタニティサイクルの特徴を理解し、看護を展開する。その際には、対象とコミュニケーションをスムーズにとることができ、フィジカルアセスメント力を発揮し、看護を実践できる。
病院実習において、分娩に立ち会う機会を得たり、妊産褥婦・新生児などとかかわる中で、生命の神秘・尊厳を
考えることができ、それを実習記録上に記載することができる。また退院後の生活、家族関係など、対象者を多
角的に理解することにも努める。
多職種連携について、理解できる。

到達目標

授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。
履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。

- 1) ライフステージにある対象において臨床推論できる
- 2) 周産期の女性およびその家族について臨床推論できる
- 3) 対象が受ける（または受けた）サービスについて、法律・制度を踏まえ理解できる
- 4) 実習を通して、生命の誕生・尊厳について、理解を深め考察することができる
- 5) 専門職連携について考察できる
- 6) 積極的な学習態度で実習に臨むことができる

成績評価の基準

S:90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修(自主的な学修)が認められる。

参考図書による知識の習得が充分できている。
妊産褥婦・新生児、ライフステージにおける特徴と疾患を確実に理解できる。
臨床判断能力に優れた看護を実践できる。
臨地実習において、分娩に立ち会う機会を得たり、妊産褥婦・新生児とかかわる中で、生命の神秘・尊厳を考
えることができ、それを実習記録上に確実に記載することができる。
安全に妊産褥婦・新生児ケアをするための看護技術力を習得している。
多様な状況に柔軟に対応した上で看護ケアを実践できる。
リーダーシップ力、コミュニケーション力も優れ、実習における積極性がある。

A:80～89 履修目標を達成している。

ライフサイクル・マタニティサイクルにおける特徴を理解し、必要な看護を展開できる。その際には、フィジカ
ルアセスメント力を発揮し、看護を実践できる。
臨地実習において、分娩に立ち会う機会を得たり、妊産褥婦・新生児とかかわる中で、生命の神秘・尊厳を考
えることができ、それを実習記録上に記載することができる。また退院後の生活、家族関係など、対象者を多角的
に理解することにも努めることができる。実習では、リプロダクティブ・ヘルス/ライツの概念に基づき考察す
る姿勢がある。積極的に受け持ち対象者や実習教育者、教員とコミュニケーションをとり、カンファレンス運営
においても積極性がみられる。さらに多職種との協働・連携を学び、医療における看護職の役割について考えを
述べるることができる。

B:70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。

ライフサイクル・マタニティサイクルにおける特徴を理解し、必要な看護を概ね展開できる。その際には、フィジカルアセスメント力を有しているが、看護の児実践に向け、かなりの助言を必要とする。

病院実習において、分娩に立ち会う機会を得たり、対象とかかわる中で、生命の神秘・尊厳を考えることができるが実習記録には反映されない。また退院後の生活、家族関係など、対象者を多角的に理解することにも努める。実習では、リプロダクティブ・ヘルス/ライツの概念に基づき考察することができない。受け持ち対象者や実習教育者、教員とコミュニケーションが不足気味だが、努力はしている。多職種との協働・連携を学び、医療における看護職の役割について考えることはできるが、考えを述べることはできない。

C:60～69 到達目標を達成している。

ライフサイクル・マタニティサイクルにおける特徴を理解し、必要な看護を概ね展開できる。その際には、フィジカルアセスメント力を発揮し、看護実践に向け、かなりの助言を行っても不足がある。カルテの情報や直接得た情報からアセスメントができ、多くの助言を得ながら推論できる。多くの助言を得て、安全に妊産褥婦・新生児のケアを実施できる。積極的に実習を行い、対象者を理解しようと努める姿勢があるが、受け持ち対象者や実習教育者、教員とコミュニケーションが不足気味で多くの助言や支援が必要である、カンファレンスで自ら発言でいない。発言できたとしてもまとまった考えを述べられない。

不可:～59 到達目標を達成できていない。

ライフサイクル・マタニティサイクルにおける特徴を理解において、多くの助言をしてもできない。

安全に妊産褥婦・新生児などのケアができない。

実習に必要な時間数に出席できない。

・成績評価の方法

評価指標	割合	関連するDP
実習記録	50	知識・技能(DP1):10, (DP2):10, 思考・判断・表現(DP3):20, 主体性・多様性・協働性(DP4):10
レポート	20	知識・技能(DP1):5, (DP2):5, 思考・判断・表現(DP3):10
カンファレンス	20	思考・判断・表現(DP3):10, 主体性・多様性・協働性(DP4):10
態度	10	主体性・多様性・協働性(DP4):10

・授業計画、 ・アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニングの内容
臨地にて行う

回	授業計画	
1	授業内容(担当教員)	臨地にて2週間実習する
	授業方法/進め方	施設に1名の教員を配置する。 各実習施設の実習教育者の指導を受けながら実習する。 *実習方法の詳細は実習要項で提示する。 *実習施設によって経験できる内容が違うためその都度、確認、許可を得た上で実施する。
	アクティブ・ラーニング	発見学習/問題解決学習、体験学習/調査学習、グループディスカッション/ディベート/グループワーク

2	授業内容（担当教員）	例：マタニティサイクル
	授業方法 / 進め方	妊娠期のケア 妊婦健診時の測定、血圧・腹囲・子宮底長測定、カルテ、妊婦健診結果から妊娠経過及び胎児の発育状態についてのアセスメント、レオポルド触診法、NSTモニター装着、外来での妊婦ケア（妊婦健診、エコー検査、保健指導など）の見学・実施 分娩期のケア 分娩監視装置の装着、分娩の立ち会い（分娩第1期～の経過に寄り添い、産痛緩和や分娩進行のためのケア、分娩後の清拭、分娩第4期の観察、帝王切開術前後のケアの見学・実施、出生直後の新生児の初期処置・計測など 産褥期のケア 褥婦の退行性変化・進行性変化の観察 カルテなどからの情報収集、搾乳/授乳状況の確認、新生児の観察など
	アクティブ・ラーニング	発見学習 / 問題解決学習、体験学習 / 調査学習、グループディスカッション / デバート / グループワーク
2	授業内容（担当教員）	例：ライフサイクルにおける看護
	授業方法 / 進め方	婦人科病棟や外来において、対象を理解する。

科目名	NPO論		
科目名（英語）	NPO（Non-Profit Organization）Studies		
担当教員	佐野 麻由子		
科目区分	人間社会学部 公共社会学科、人間社会学部 社会福祉学科、高等学校教諭一種免許（公民）、中学校教諭一種免許（社会）		
標準履修年次	3～4年	開講時期	前期
必修・選択	選択	単位	2単位

・科目情報

授業概要

営利組織（企業）、政府組織との比較を通して非営利かつ非政府の立場で公共性の高い活動を行うNPOの歴史的展開や活動の特徴を学び、三者の協働の可能性と課題について考える。授業では、文献の他に、新聞や映像資料を用いて具体的な活動例を把握する。受講生には討論や対話、発表等への積極的な参加を求める。

履修条件 / 授業内容を理解するために必要な知識・技能等

NPO、市民社会の動向に関心があることが履修条件である。
「公共性の社会学」で学んだ知識を復習しておくとい良いでしょう。

関連資格

高等学校教諭一種免許状（公民）、中学校教諭一種免許状（社会）

テキスト

授業内で毎回レジュメを配布します。

参考図書・教材等

Mayuko SANO, 2012, Problem of Resource Mobilization : NGOs in Nepal 科学研究費補助金スタート支援報告書（研究代表者：佐野麻由子）
原田晃樹・藤井敦史・松井 真理子, 2010, 『NPO再構築への道』勁草書房

実務経験を生かした授業

NPO関係者を特別講師として招聘し、講師と受講者との対話を通して現場の状況についても学ぶ。

授業中の撮影

有

学習相談・助言体制

コメントカードで受け付ける。また適宜、個別の質問・相談等にも応じる。

・DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

D P

知識・技能

(DP1)	NPO、市民社会についての幅広い知識を身につけている。
-------	-----------------------------

思考・判断・表現

(DP3)	市民組織（NPO/NGO）の組織形態、資源動員形態に影響を与える要因について、学んだ理論に依拠して説明できる。NPOの資源動員、官民市民の連携における課題の背景を論理的に説明し、それへの対応を提示できる。
-------	--

主体性・多様性・協働性

(DP4)	日本だけでなく、世界のNPOの活動、市民社会のあり方に深い関心をもち主体的に学習できる。
-------	--

履修目標

授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。

（１）市民組織（NPO）、市民社会についての幅広い知識を身につけ、NPOの組織形態、資源動員形態に影響を与える要因について理論に依拠して説明できること、（２）NPOの資源動員、官民市民の連携における課題解決策を提示できること、（３）世界のNPOの活動、市民社会のあり方に深い関心をもち主体的に学習できること、（４）NPO、市民社会についての先行研究や各種の資料を適切に収集できること、を目標とする。

到達目標

授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。
履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。

NPOや市民社会論、社会運動論に関連した基礎概念の意味が理解でき、それを用いて現在起きている具体的な事象について説明できる。

成績評価の基準

S:90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修(自主的な学修)が認められる。

授業内容を越えた自主的な学修が認められる。

A:80～89 履修目標を達成している。

授業内容をほぼすべて理解している。

B:70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。

授業内容を70%理解している。

C:60～69 到達目標を達成している。

到達目標に達していることが認められる。

不可:～59 到達目標を達成できていない。

到達目標に達していることが認められない。

・成績評価の方法

評価指標	割合	関連するD P
期末レポート	40	知識・技能(DP1):20, 思考・判断・表現(DP3):20
授業内レポート・小テスト	40	知識・技能(DP1):20, 思考・判断・表現(DP3):15, 主体性・多様性・協働性(DP4):5
授業外レポート・宿題	20	知識・技能(DP1):10, 思考・判断・表現(DP3):10

・授業計画、・アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニングの内容

3

回	授業計画	
1	授業内容(担当教員)	ガイダンス:NPO論で学ぶこと
	授業方法/進め方	講義
2	授業内容(担当教員)	NPOとは?NPOの定義
	授業方法/進め方	質疑応答、講義
	事前・事後学習	レジュメの復習
3	授業内容(担当教員)	NPOの歴史的展開:世界で一番古いNPO
	授業方法/進め方	質疑応答、講義
	事前・事後学習	世界で一番古いNPOについて事例を調べてくる レジュメの復習
	アクティブ・ラーニング	体験学習/調査学習
4	授業内容(担当教員)	NPOと公共性、市民との関係は?:対抗的相補性
	授業方法/進め方	質疑応答、講義
	事前・事後学習	予習として出された課題をこなす レジュメの復習
5	授業内容(担当教員)	NPO/NGOの現状を知る(世界編):NPOが多い地域と少ない地域の違いは? 映像資料の視聴
	授業方法/進め方	講義、質疑応答、事例検討
	事前・事後学習	予習として出された課題をこなす レジュメの復習
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/ディベート/グループワーク

6	授業内容（担当教員）	NPO/NGOの国際比較からみえるもの：NPO/NGOの組織形態を決める要因
	授業方法／進め方	講義、質疑応答、事例検討
	事前・事後学習	予習として出された課題をこなす レジュメの復習
7	授業内容（担当教員）	アングロサクソン型市民社会とヨーロッパ大陸型市民社会
	授業方法／進め方	講義、質疑応答、事例検討
	事前・事後学習	予習として出された課題をこなす レジュメの復習
8	授業内容（担当教員）	NPO/NGOの現状を知る（日本編）：NPOが多い地域と少ない地域の違いは？
	授業方法／進め方	講義、質疑応答、事例検討
	事前・事後学習	予習として出された課題をこなす レジュメの復習
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/ディベート/グループ・ワーク
9	授業内容（担当教員）	地域間比較からみえるもの：日本のNPO活動（役割）、経営状況、人材
	授業方法／進め方	講義、質疑応答、事例検討
	事前・事後学習	・自分の地域の人口あたりNPOの数、活動分野についての資料収集 ・レジュメの復習
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/ディベート/グループ・ワーク
10	授業内容（担当教員）	新しいINPOのかたち：社会的事業
	授業方法／進め方	講義、質疑応答、事例検討
	事前・事後学習	・レポートのテーマの検討 ・レジュメの復習
11	授業内容（担当教員）	新しいINPOのかたち：社会的企業
	授業方法／進め方	講義、質疑応答、事例検討
	事前・事後学習	・予習として出された課題をこなす ・レジュメの復習
12	授業内容（担当教員）	新しいINPOのかたち：CSR、BOPビジネス
	授業方法／進め方	講義、質疑応答、事例検討
	事前・事後学習	・予習として出された課題をこなす ・レジュメの復習
13	授業内容（担当教員）	新しいINPOのかたち：バングラデシュの巨大NGO BRACの事例
	授業方法／進め方	講義、質疑応答、事例検討
	事前・事後学習	・予習として出された課題をこなす ・レジュメの復習
14	授業内容（担当教員）	ゲスト講師による講話：討論・報告のまとめ方・発信
	授業方法／進め方	講義、質疑応答、事例検討
	事前・事後学習	・実務者に聞いてみたいことを列挙する ・実務者の話から学んだことを小レポートにまとめる
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/ディベート/グループ・ワーク
15	授業内容（担当教員）	まとめ：プレゼンテーション
	授業方法／進め方	講義、質疑応答、事例検討
	事前・事後学習	・これまでに読んだテキスト、参考文献、レジュメの振り返り
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/ディベート/グループ・ワーク

科目名	キャリア論		
科目名（英語）	Career Education		
担当教員	井上 奈美子、宮原 清		
科目区分	人間社会学部 公共社会学科、人間社会学部 社会福祉学科、人間社会学部 人間形成学科、キャリアマネジメント・プログラム、高等学校教諭一種免許（公民）、高等学校教諭一種免許（情報）、中学校教諭一種免許（社会）		
標準履修年次	3～4年	開講時期	前期
必修・選択	選択	単位	2単位

・科目情報

授業概要

教員志望者対象の授業。教員志望者にとって、キャリア教育と進路指導は必須要件とされる。社会人経験がない学生は戸惑うことが多い。本講義では不安を解消することを目指す。

進路指導は、生徒が将来の進路を選択・計画し、その後の生活によりよく適応し、能力を伸長する過程であり、長期的展望に立った人間形成を目指す活動である。これを包含するキャリア教育は、学校と社会との接続を意識し、生徒一人一人の社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を育む。

本講義では、まずキャリア教育の歴史的背景と現代社会における意義の理解を深める。そのうえで個人が自己実現を果たす進路選択について議論する。教員採用試験対策として、キャリア教育の模擬授業の指導を行う。これによって、キャリア教育に関する有意義な知識を獲得することができ、実践力も身に着く。なお本講義では学生主体でアクティブラーニングを行い、高度で難しい文部科学省の資料も理解することができる。外部の教員経験者から、実践的な指導を受ける。高校の現場でも活用されている情報スキルをつけるために、オンデマンドやイーラーニングなどを活用する。

履修条件 / 授業内容を理解するために必要な知識・技能等

予習として、毎週1時間程度のオンデマンド学習が必要です。文部科学省の指導要領などを各自で印刷します。グループワーク、アクティブラーニングを実践体験します。事前にTeams登録をしてください。初回のオリエンテーション前日までにTeamsについてメールで連絡しますので、大学のアドレスを使っているメールアドレスを確認してください。来ていないときは、スパムやごみ箱に入っている可能性もありますので、ご確認ください。

関連資格

必要な資格はありませんが、井上の他の講義もあわせて履修していただけるとより学びが深まるかとおもいます。教員を目指す学生向けの授業内容です。一般企業を併願する学生は、組織マネジメントや問題解決演習の履修をおすすめします。なお、問題解決演習は、教員として地域連携や民間や行政連携の授業を指導するうえでも必要な能力を身に着けることができます。昨今は、高校教員にもアクティブラーニングやキャリア教育を担当する役割が増えており、そのような授業を受講生として学んでおく体験は将来への準備として有意義になります。

テキスト

生協にて教科書を購入することになります。金額などの確認は、生協で科目名を伝えて行うことができます。

参考図書・教材等

オリエンテーションで説明します

実務経験を生かした授業

長年、大学の就職課で就職（キャリア）進路支援を行った実務経験者が指導する。担当教員（井上）は、民間企業や公務員、教員の採用試験、特に面接内容について詳しい。キャリア教育の教員に求められる知識と資質、さらに民間や公的機関の採用試験の動向について解説する。

授業中の撮影

大学案内撮影年1回程度（撮影辞退可能）

学習相談・助言体制

コメントカードで受け付ける。また適宜、個別の質問・相談等にも応じる。授業中の質問、発言は成績評価の加点となります。Teams、ZOOM、イーラーニングを積極的に活用することで、学生の学びの機会を充実させます。履修を迷った場合も、履修前に気軽に相談ください。メールでも結構です。

・DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP

知識・技能

(DP2)	進路選択、キャリア教育に関する専門知識を獲得し実践することができる。
思考・判断・表現	
(DP3)	社会的・職業的自立に向けて基盤となる資質・能力について自らの思考を形成し、キャリア教育の視点を提示することができる。
主体性・多様性・協働性	
(DP4)	他者と協働し、目標を達成する意欲を発揮することができる。指示待ちではなく、主体的に行動することができる。

履修目標
授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。

社会的・職業的自立に向けて基盤となる資質・能力について自らの思考を形成し、キャリア教育の視点を提示することができる。

到達目標
授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。
履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。

進路指導、キャリア教育の教育意義を理解し、さらに生徒たちの進路選択や悩みを理解することができる。現代社会で若者が抱える就職活動の悩みや新卒労働市場の動向などについて理解する。キャリア教育の理論を理解し、自身の進路選択や人生に活かすことができる。

成績評価の基準

S:90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修(自主的な学修)が認められる。
A:80～89	履修目標を達成している。
B:70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C:60～69	到達目標を達成している。
不可:～59	到達目標を達成できていない。
5回以上の欠席は不可となります。ご注意ください。	

・成績評価の方法

評価指標	割合	関連するD P
授業内レポート・小テスト	50	知識・技能(DP2)：30，思考・判断・表現(DP3)：20
発表	50	思考・判断・表現(DP3)：20，主体性・多様性・協働性(DP4)：30

・授業計画、 ・アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニングの内容
ディスカッションやプレゼン

回	授業計画	
1	授業内容（担当教員）	オリエンテーション（授業内容と成績評価の説明、テキスト資料確認）
	授業方法／進め方	講義、履修目的の明確化、学生同士で学習目標を共有する。
2	授業内容（担当教員）	キャリア教育の歴史、職業指導から進路指導そしてキャリア教育へ
	事前・事後学習	毎回、講義の復習として自習を行う。配布資料は各自でダウンロード、印刷を行うこと
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/ディベート/グループワーク
3 [メディア]	授業内容（担当教員）	教育振興基本計画、中央教育審議会答申の職業教育
4 [メディア]	授業内容（担当教員）	中高におけるキャリア教育推進施策の展開
5 [メディア]	授業内容（担当教員）	中高におけるキャリア発達支援、進路指導における個別指導

6 [メディア]	授業内容（担当教員）	中高における主体的進路選択、進路指導における集団指導
7 [メディア]	授業内容（担当教員）	キャリア教育の意義と原理、自己実現過程
8	授業内容（担当教員）	キャリア教育における地域・産業界との連携、インターンシップ（職場体験）
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/ディベート/グループ・ワーク
9	授業内容（担当教員）	主体的進路選択と意思決定（文部科学省提言）
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/ディベート/グループ・ワーク
10	授業内容（担当教員）	キャリア自己効力感 - 社会認知的キャリア理論
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/ディベート/グループ・ワーク
11	授業内容（担当教員）	現実的探索・試行と社会的移行準備
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/ディベート/グループ・ワーク
12	授業内容（担当教員）	職業観・勤労観の確立
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/ディベート/グループ・ワーク
13	授業内容（担当教員）	キャリアと協働、キャリア自己概念
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/ディベート/グループ・ワーク
14	授業内容（担当教員）	生涯にわたる主体的キャリア形成
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/ディベート/グループ・ワーク
15	授業内容（担当教員）	模擬授業、プレゼンテーション（授業の進行度合いで、14回目で実施する場合があります。スケジュールは事前にお知らせします）
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/ディベート/グループ・ワーク
備考	学生さんのニーズや感染症の状況などを鑑み、学生さんと相談して遠隔授業を取り入れることもある。	

科目名	コミュニティ論		
科目名（英語）	Community Theory		
担当教員	黒田 伸太郎		
科目区分	人間社会学部 公共社会学科、人間社会学部 社会福祉学科、高等学校教諭一種免許（公民）、中学校教諭一種免許（社会）		
標準履修年次	2～4年	開講時期	後期
必修・選択	選択	単位	2単位

・科目情報

授業概要

コミュニティ概念は極めて多義的である。本講義では、「地域コミュニティ」を中心に学んでいく。地域社会では様々なアクター（住民、行政、企業、NPOなど）が協働、連携し、当該地域の課題解決を図る基盤としての地域コミュニティを重視している。この時、地域コミュニティはどのような働きをし、またそこにはどのような意義があるのかを理解することが重要である。これらを踏まえ、本講義ではいくつかのコミュニティに関する理論を学びながら、人口減少や地域経済の衰退などが取りざたされる地方都市の今後のあるべき地域コミュニティ像とともに、様々な事例を交えた議論を行いながらコミュニティへの理解を深めていく。

履修条件 / 授業内容を理解するために必要な知識・技能等

特にないが、コミュニティに関する様々な事象に関心を持っている事が望ましい。

テキスト

適宜プリント（レジュメ）を配布する。

参考図書・教材等

伊豫谷登士翁・齋藤純一・吉原直樹「コミュニティを再考する」（平凡社）
 広井良典「コミュニティを問い直す」（ちくま新書）
 ジグムントバウマン「コミュニティ 安全と自由の戦場」（ちくま学芸文庫）

実務経験を生かした授業

教員の自治体勤務経験を踏まえ、行政・住民の双方の視点でコミュニティの見方や考え方、課題について幅広く話題を提供する。

授業中の撮影

不可

学習相談・助言体制

講義に関する質問・相談は講義終了後に受け付ける。

・DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

D P

知識・技能

(DP1)	市民として必要な知識として「コミュニティ」の概念が理解できる。
-------	---------------------------------

思考・判断・表現

(DP3)	「コミュニティ」とは何かを理解し、また口頭で説明できる。
-------	------------------------------

主体性・多様性・協働性

(DP4)	地域の諸問題について、コミュニティを介した行政や住民の果たす役割を多面的に理解できる。
-------	---

履修目標

授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。

「コミュニティ」の理論や歴史、諸政策について正確に理解した上で自らの考えを分かりやすくまとめることができる。

到達目標

授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。
 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。

「コミュニティ」とは何か、説明する文章が書け、また口頭で説明できる。

成績評価の基準

S:90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修(自主的な学修)が認められる。

A: 80～89	履修目標を達成している。
B: 70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C: 60～69	到達目標を達成している。
不可: ～59	到達目標を達成できていない。

・成績評価の方法

評価指標	割合	関連する D P
定期試験	50	知識・技能(DP1)：20，思考・判断・表現(DP3)：20，主体性・多様性・協働性(DP4)：10
授業内レポート・小テスト	30	知識・技能(DP1)：20，思考・判断・表現(DP3)：10
発表	20	知識・技能(DP1)：10，主体性・多様性・協働性(DP4)：10

・授業計画、 ・アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニングの内容

回	授業計画	
1	授業内容（担当教員）	イントロダクション
	授業方法／進め方	講義形式。「授業内容」の副題に記した内容を、教科書・配布資料プリント・ボード（黒板）などに基づいて講義する。適宜映像資料の視聴やディスカッションの時間を設ける。
	事前・事後学習	配布する事前・事後学習用の資料を熟読する
2	授業内容（担当教員）	コミュニティとは何か
	授業方法／進め方	講義形式。「授業内容」の副題に記した内容を、教科書・配布資料プリント・ボード（黒板）などに基づいて講義する。適宜映像資料の視聴やディスカッションの時間を設ける。
	事前・事後学習	配布する事前・事後学習用の資料を熟読する
3	授業内容（担当教員）	地域コミュニティとは何か
	授業方法／進め方	講義形式。「授業内容」の副題に記した内容を、教科書・配布資料プリント・ボード（黒板）などに基づいて講義する。適宜映像資料の視聴やディスカッションの時間を設ける。
	事前・事後学習	配布する事前・事後学習用の資料を熟読する
4	授業内容（担当教員）	地域コミュニティを取り巻く現状
	授業方法／進め方	講義形式。「授業内容」の副題に記した内容を、教科書・配布資料プリント・ボード（黒板）などに基づいて講義する。適宜映像資料の視聴やディスカッションの時間を設ける。
	事前・事後学習	配布する事前・事後学習用の資料を熟読する
5	授業内容（担当教員）	地域コミュニティを取り巻く課題
	授業方法／進め方	講義形式。「授業内容」の副題に記した内容を、教科書・配布資料プリント・ボード（黒板）などに基づいて講義する。適宜映像資料の視聴やディスカッションの時間を設ける。
	事前・事後学習	配布する事前・事後学習用の資料を熟読する
6	授業内容（担当教員）	ソーシャルキャピタルと地域コミュニティ
	授業方法／進め方	講義形式。「授業内容」の副題に記した内容を、教科書・配布資料プリント・ボード（黒板）などに基づいて講義する。適宜映像資料の視聴やディスカッションの時間を設ける。
	事前・事後学習	配布する事前・事後学習用の資料を熟読する

7	授業内容（担当教員）	協働と地域コミュニティ
	授業方法／進め方	講義形式。「授業内容」の副題に記した内容を、教科書・配布資料プリント・ボード（黒板）などに基づいて講義する。適宜映像資料の視聴やディスカッションの時間を設ける。
	事前・事後学習	配布する事前・事後学習用の資料を熟読する
8	授業内容（担当教員）	災害と地域コミュニティ
	授業方法／進め方	講義形式。「授業内容」の副題に記した内容を、教科書・配布資料プリント・ボード（黒板）などに基づいて講義する。適宜映像資料の視聴やディスカッションの時間を設ける。
	事前・事後学習	配布する事前・事後学習用の資料を熟読する
9	授業内容（担当教員）	情報化と新しいコミュニティ
	授業方法／進め方	講義形式。「授業内容」の副題に記した内容を、教科書・配布資料プリント・ボード（黒板）などに基づいて講義する。適宜映像資料の視聴やディスカッションの時間を設ける。
	事前・事後学習	配布する事前・事後学習用の資料を熟読する
10	授業内容（担当教員）	コミュニティ政策
	授業方法／進め方	講義形式。「授業内容」の副題に記した内容を、教科書・配布資料プリント・ボード（黒板）などに基づいて講義する。適宜映像資料の視聴やディスカッションの時間を設ける。
	事前・事後学習	配布する事前・事後学習用の資料を熟読する
11	授業内容（担当教員）	地方自治体と地域コミュニティとの関わり
	授業方法／進め方	講義形式。「授業内容」の副題に記した内容を、教科書・配布資料プリント・ボード（黒板）などに基づいて講義する。適宜映像資料の視聴やディスカッションの時間を設ける。
	事前・事後学習	配布する事前・事後学習用の資料を熟読する
12	授業内容（担当教員）	<共同体>を巡る政治学
	授業方法／進め方	配布する資料（参考文献）を学生がレジюмеとしてまとめ、それを全員でディスカッションする。
	事前・事後学習	配布する事前・事後学習用の資料を熟読する
13	授業内容（担当教員）	コミュニティを再考する
	授業方法／進め方	配布する資料（参考文献）を学生がレジюмеとしてまとめ、それを全員でディスカッションする。
	事前・事後学習	配布する事前・事後学習用の資料を熟読する
14	授業内容（担当教員）	コミュニティを問い直す
	授業方法／進め方	配布する資料（参考文献）を学生がレジюмеとしてまとめ、それを全員でディスカッションする。
	事前・事後学習	配布する事前・事後学習用の資料を熟読する
15	授業内容（担当教員）	まとめ
	授業方法／進め方	授業で取り扱ったコミュニティに関する理論及び現状を踏まえ、コミュニティの意義についてリフレクションを行う。
	事前・事後学習	配布する事前・事後学習用の資料を熟読する

科目名	国際協力論		
科目名（英語）	International Cooperation Studies		
担当教員	佐野 麻由子		
科目区分	人間社会学部 公共社会学科、高等学校教諭一種免許（公民）、中学校教諭一種免許（社会）		
標準履修年次	1～4年	開講時期	後期
必修・選択	選択	単位	2単位

・科目情報

授業概要

国家間の格差、国内の格差が生じるメカニズムについての社会科学のアプローチを学んだ上で、国際協力に関わる官、民、市民の取り組み、今日の国際協力の可能性と課題を理解する。講義内では、国際協力に関わる実務者（JICAやNGO等）を招聘し、受講生との対話を通して開発課題への対応策を検討する。

履修条件 / 授業内容を理解するために必要な知識・技能等

国際協力、グローバル化、国際社会の動向に関心があること。

関連資格

高等学校教諭一種免許（公民）、中学校教諭一種免許（社会）

テキスト

佐藤寛・浜本篤史・佐野麻由子・滝村卓司編 『開発社会学を学ぶための60冊：援助と発展を根本から考えよう』明石書店、2015、2800＋税

参考図書・教材等

佐野麻由子・田代英美「教育実践報告：公共社会学科におけるアクティブ・ラーニングの実践2016」『福岡県立大学人間社会学部紀要』第24巻第2号、2017。
 中学校学習指導要領（平成29年3月告示、文部科学省）
 高等学校学習指導要領（平成30年3月告示、文部科学省）

実務経験を生かした授業

国際協力に関わる実務者（JICAやNGO等）を招聘し、講師と受講者との対話を通して現場の状況についても学ぶ。

授業中の撮影

有

学習相談・助言体制

コメントカードで受け付ける。また適宜、個別の質問・相談等にも応じる。

・DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP

知識・技能

(DP1)	開発社会学、開発経済学を中心とする社会科学の知識を身につけている。
-------	-----------------------------------

思考・判断・表現

(DP3)	開発の課題を論理的に説明し、対応策（よりよい開発援助プロジェクト）を提案できる。
-------	--

主体性・多様性・協働性

(DP4)	先進国、途上国双方の問題に深い関心を持ち、両者の共通項を見出しながら主体的に学習できる。 開発課題を解決する能力を高め、社会にはたらきかけることができる。
-------	--

履修目標

授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。

先進国、途上国双方の問題に深い関心を持ち、両者の共通項を見出しながら、開発社会学、開発経済学の先行研究に依拠して、各種問題に関わるマクロデータ、国際協力に関する各種資料を適切に収集し、開発課題への対応策を提案できる能力を身につけることを目標とする。

・教授した専門用語や理論枠組みを用いて論述（報告）する時間を設け、論理的思考力、判断力を高める。

・国際協力に関する基礎的知識の修得（授業計画の a ）、及び、本科目指導の基礎的スキル—指導計画、教科の構成、教材作成・開発、指導方法—（授業計画の b ）を修得する。

到達目標

授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。
履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。

国際協力に関連した基礎概念の意味が理解でき、それを用いて現在起きている具体的な事象について説明できる。

成績評価の基準

S: 90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修(自主的な学修)が認められる。

授業内容を越えた自主的な学修が認められる。

A: 80～89 履修目標を達成している。

授業内容をほぼすべて理解している。

B: 70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。

授業内容を70%理解している。

C: 60～69 到達目標を達成している。

到達目標に達していることが認められる。

不可: ～59 到達目標を達成できていない。

到達目標を達成していない。

・成績評価の方法

評価指標	割合	関連する D P
期末レポート	60	知識・技能(DP1)：20，思考・判断・表現(DP3)：20，主体性・多様性・協働性(DP4)：20
授業内レポート・小テスト	40	知識・技能(DP1)：15，思考・判断・表現(DP3)：15，主体性・多様性・協働性(DP4)：10
その他		知識・技能(DP1)，思考・判断・表現(DP3)，主体性・多様性・協働性(DP4)

・授業計画、 ・アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニングの内容

3

回	授業計画	
1	授業内容（担当教員）	ガイダンス、この授業のねらい、複合科目の意義、本授業の内容と構成 a 発展とは何か b 実務者との対話のコーディネート、実務者との対話の指導方法としての意義
	授業方法 / 進め方	講義
	事前・事後学習	テキスト文献1、2、3を読み、「発展」、「進化」についての考え方について予習をする。

2	授業内容（担当教員）	a 国際協力とは誰が何のために何をすることなのか？
	授業方法 / 進め方	講義、質疑応答
	事前・事後学習	・レジュメの復習 ・テキスト文献4、11を読み「発展」と「開発」の違いについて復習する。 ・「開発」と「援助」「国際協力」との関係について復習する。
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/ディベート/グループ・ワーク
3	授業内容（担当教員）	a 国際協力に対峙する課題：シャングハイスピードのような世界 b 国際協力に関する社会科・公民科のカリキュラム構成と教材作成・開発
	授業方法 / 進め方	講義、質疑応答
	事前・事後学習	・人間開発報告書を用いて授業内で作成した世界地図に自分なりに情報を加える。 ・配布した年表に授業で学んだ情報を加え、各自で開発目標の変遷と世界的な出来事をまとめた年表を作成する。
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/ディベート/グループ・ワーク
4	授業内容（担当教員）	a 途上国はなぜ途上国なのか？不公正な貿易制度
	授業方法 / 進め方	講義、質疑応答、事例検討
	事前・事後学習	・テキスト文献2の社会進化論に依拠した際の貧困国になった理由、文献8、9の従属論、世界システム論に依拠した際の貧困国になった理由を予習する。 ・テキスト文献8、9を読み、途上国を生み出すマクロな構造についての議論を復習する。
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/ディベート/グループ・ワーク
5	授業内容（担当教員）	a 貧しい者・差別される者が生まれるのはなぜか 映像資料の視聴
	授業方法 / 進め方	講義、質疑応答、事例検討
	事前・事後学習	・テキスト文献42「グローバル化と社会的排除」を読み、社会的排除が生まれるメカニズムを予習する。
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/ディベート/グループ・ワーク
6	授業内容（担当教員）	a 開発援助の正負の影響は何か 映像資料をもとにしたグループ・ディスカッション
	授業方法 / 進め方	講義、質疑応答、事例検討
	事前・事後学習	・テキスト文献5、24、25を読み、どのような条件下では開発援助は負の影響を及ぼすのかを予習する。 ・レジュメを復習する。
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/ディベート/グループ・ワーク

7	授業内容（担当教員）	a よりよい国際協力を実現させるために（１）：持続可能な開発
	授業方法／進め方	講義、質疑応答
	事前・事後学習	・テキスト文献23「地域開発の構想と現実」を読んで、福武らは「地域開発」をどのようなものとして位置づけ、「地域開発」のどのような問題点を指摘しているのかを予習する。 ・レジュメを復習する。
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/ディベート/グループ・ワーク
8	授業内容（担当教員）	a よりよい国際協力を実現させるために（２）：参加型開発
	授業方法／進め方	講義、質疑応答
	事前・事後学習	テキスト文献14「開発は誰のために」、文献55「変容する参加型開発」を読んで参加型開発とはどのような考え方が、なぜそのような考え方が登場したのかを簡単に提示したうえで、日本の地域活動や地方自治における“参加型開発”の例について予習する。 ・レジュメを復習する。
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/ディベート/グループ・ワーク
9	授業内容（担当教員）	a 見えない資源の活用：社会関係資本の重要性
	授業方法／進め方	講義、質疑応答
	事前・事後学習	テキスト第 章を読み目に見えない資源について予習する。 ・レジュメを復習する。
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/ディベート/グループ・ワーク
10	授業内容（担当教員）	a 先進国・途上国を元気にするフェアトレード・地産地消
	授業方法／進め方	講義、質疑応答
	事前・事後学習	・レポートのテーマを検討する。
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/ディベート/グループ・ワーク
11	授業内容（担当教員）	a 貧困層、企業のWinWinの関係？：BOPビジネスの挑戦 b 国際協力に関するさまざまな教材とその活用方法
	授業方法／進め方	講義、質疑応答
	事前・事後学習	・テキスト文献39「ネクスト・マーケット」を読みBOPビジネスについて予習する。 ・レジュメを復習する。
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/ディベート/グループ・ワーク
12	授業内容（担当教員）	a 地域を元気にする国際協力 b 系統学習と課題解決学習：その特徴と学習効果
	授業方法／進め方	講義、質疑応答
	事前・事後学習	・レジュメを復習する。
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/ディベート/グループ・ワーク

13	授業内容（担当教員）	a よりよい国際協力を考える～実務者との対話 （１）：報告のまとめ方・発信の仕方 b 教育方法としてのアクティブ・ラーニングの実践と指導計画
	授業方法／進め方	質疑応答、講義、議論
	事前・事後学習	・実務者に聞いてみたいことを列挙する ・実務者への聞き取りをまとめる。
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション／ディベート／グループ・ワーク
14	授業内容（担当教員）	a よりよい国際協力を考える～実務者との対話 （２）：報告のまとめ方・対応策の検討 b アクティブ・ラーニングの活用方法と留意点 まとめ
	授業方法／進め方	質疑応答、講義、議論
	事前・事後学習	・実務者に聞いてみたいことを列挙する ・実務者への聞き取りをまとめる。
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション／ディベート／グループ・ワーク
15	授業内容（担当教員）	a 国際協力の可能性と課題に関するプレゼンテーション b 国際協力に関する教材と指導法に関するプレゼンテーション
	授業方法／進め方	質疑応答、講義、議論
	事前・事後学習	・これまでに読んだテキスト、参考文献、レジュメの振り返りを行う。
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション／ディベート／グループ・ワーク

科目名	国際政治学		
科目名（英語）	International Politics		
担当教員	岡本 雅享		
科目区分	人間社会学部 公共社会学科、高等学校教諭一種免許（公民）、中学校教諭一種免許（社会）		
標準履修年次	1～4年	開講時期	後期
必修・選択	選択	単位	2単位

・科目情報

授業概要

国際政治は国家と国家の駆け引きのように思われがちだが、この講義では一般の、特に世界システムの中で弱い立場に置かれた人々の視点から国際政治をみていく。定期的にBBC World Newsなどを見て、進行中の国際問題に関心を持ち、日本のメディアの報道との違い等から、多角的な視点を培う。

履修条件 / 授業内容を理解するために必要な知識・技能等
講義中問いかけたら答え、自分の意見が表明できること。

テキスト

長有紀枝『入門人間の安全保障』増補版、中公新書、2021年

参考図書・教材等

各回の内容に合わせて配布

実務経験を生かした授業

国連（ECOSOC）NGOのスタッフなどを務めた経験から、国連会議への参加経験などを含めながら、グローバルガバナンスについて解説する

学習相談・助言体制

質問票の配付と回答（次回講義時）他。

・DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

D P

知識・技能

(DP1)	社会学を中心とする社会科学の専門知識をもとに、社会的事象の歴史的背景や多元性、異なる文化や価値観を理解できる。
-------	---

思考・判断・表現

(DP3)	人間・社会の諸問題について、自らの考えを適切に説明することができる。
-------	------------------------------------

主体性・多様性・協働性

(DP4)	異なる文化や価値観を理解し、これらを尊重しながら他者と共に生きていく姿勢を身につけている。
-------	---

履修目標

授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。

現代国際政治に関する基礎的な枠組みや用語を理解した上で、主体的に学習し、自らの考えを適切に他者に説明することができる。

到達目標

授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。
履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。

現代国際政治を理解する上での基礎的な枠組みや用語の意味が理解できる。

成績評価の基準

S:90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修(自主的な学修)が認められる。
A:80～89	履修目標を達成している。
B:70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C:60～69	到達目標を達成している。

不可：～59 到達目標を達成できていない。

・成績評価の方法

評価指標	割合	関連する D P
各回講義時の意見や考察	45	知識・技能(DP1)，思考・判断・表現(DP3)，主体性・多様性・協働性(DP4)
学期内レポート課題	35	知識・技能(DP1)，思考・判断・表現(DP3)，主体性・多様性・協働性(DP4)
期末レポート	20	知識・技能(DP1)，思考・判断・表現(DP3)，主体性・多様性・協働性(DP4)
備考	期末レポートを提出しない場合、成績は「不可」になる。講義中 講義に無関係な私語を続ける、ゲームをしたり漫画を読んでいる、机に伏して寝ている受講生がいた場合は、当該学生につき20%を限度として減点する。	

・授業計画、・アクティブ・ラーニング

回	授業計画	
1	授業内容（担当教員）	平和学、人間の安全保障論としての国際政治学（講義の概要）
	授業方法／進め方	講義
	事前・事後学習	配付資料を読む
2	授業内容（担当教員）	構造的暴力と南北問題
	授業方法／進め方	講義 第1回レポート課題
	事前・事後学習	テキスト第1章を読む
3	授業内容（担当教員）	構造的暴力の実態と平和への道
	授業方法／進め方	講義
	事前・事後学習	テキスト第2章を読む
4	授業内容（担当教員）	グローバルガバナンス
	授業方法／進め方	講義
	事前・事後学習	テキスト第3章を読む
5	授業内容（担当教員）	国際平和と人権—国連の活動とNGO
	授業方法／進め方	講義
	事前・事後学習	テキスト第4章を読む
6	授業内容（担当教員）	国際政治と難民問題
	授業方法／進め方	講義 第2回レポート課題
	事前・事後学習	配付資料を読む
7	授業内容（担当教員）	UNHCRの創設と活動の拡大
	授業方法／進め方	講義
	事前・事後学習	テキスト第5章を読む
8	授業内容（担当教員）	難民問題をめぐる欧日政治比較
	授業方法／進め方	講義
	事前・事後学習	テキスト第6章を読む
9	授業内容（担当教員）	パレスチナ—イスラエル問題とアメリカ
	授業方法／進め方	講義
	事前・事後学習	テキスト第7章を読む
10	授業内容（担当教員）	冷戦後の中東紛争とアメリカ —9.11「対テロ戦争」まで
	授業方法／進め方	講義 第3回レポート課題
	事前・事後学習	テキスト第8章を読む
11	授業内容（担当教員）	冷戦後の中東紛争とアメリカ —アラブの春、ISの台頭以降
	授業方法／進め方	講義
	事前・事後学習	テキスト第9章を読む

12	授業内容（担当教員）	ロシアによるウクライナ侵攻の背景—ソ連崩壊からNATOの東方拡大
	授業方法／進め方	講義
	事前・事後学習	配付資料を読む
13	授業内容（担当教員）	欧米主導のWW 後国際経済体制—通貨と政治
	授業方法／進め方	講義
	事前・事後学習	配付資料を読む
14	授業内容（担当教員）	自由貿易のさらなる拡張&経済のグローバリズムに挑む市民社会
	授業方法／進め方	講義
	事前・事後学習	配付資料を読む
15	授業内容（担当教員）	テロを生み出す貧富の格差と人間の安全保障
	授業方法／進め方	講義
	事前・事後学習	配付資料を読む

科目名	社会調査実習		
科目名（英語）	Practical Training in Social Research		
担当教員	佐野 麻由子、堤 圭史郎、三田 知実		
科目区分	人間社会学部 公共社会学科、データサイエンス・プログラム、高等学校教諭一種免許（公民）、中学校教諭一種免許（社会）、社会調査士資格		
標準履修年次	2～4年	開講時期	前期
必修・選択	選択	単位	2単位

・科目情報

授業概要

社会調査実習を通して、調査の企画から報告書の作成まで社会調査の全過程を、体験的・学生主体的な形で学習する。社会調査実習では、社会調査の企画（仮説の立案、対象者選出など）、サンプリング、プリテスト、実査までの、社会調査に必須の過程を実際のプロジェクトを通して体験し、社会調査士として必要な実践的知識やスキルを修得する。

履修条件 / 授業内容を理解するために必要な知識・技能等

「社会調査法」「データ分析の基礎」の単位を修得していることが望ましい。

「社会調査の設計」「社会統計学Ⅰ」を履修すること。

当該履修年度以前までの修得単位数が、標準修得単位数の合計を上回っていることが望ましい。

テキスト

調査テーマに関連したテキストを、4月の説明会において担当者から説明する。

参考図書・教材等

Takuo Utagawa ed 2013 『Social Research and Evaluation of Poverty Reduction Project』ハーベスト社。
調査テーマに関連した参考図書・教材等を、随時担当者から説明する。

実務経験を生かした授業

行政・NPO等からの委託調査及び学術調査研究の経験がある教員が、実際に学生とともに社会調査プロジェクトを企画運営し、報告書作成に至るまでの社会調査の一連の過程について実践的に指導する。

授業中の撮影

有

学習相談・助言体制

適宜、個別の質問・相談等にも応じる。

・DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

D P

知識・技能

(DP1)	・社会調査の設計、実施に関わる専門知識を身につけている。
-------	------------------------------

思考・判断・表現

(DP3)	・社会的課題を公共性の観点から整理できる。 ・社会的課題が生じるメカニズムについて調査の知見に基づいて論理的に説明し、対応を提示できる。
-------	---

主体性・多様性・協働性

(DP4)	・自ら調査テーマを設定し、主体的に調査の設計、実施に携わることができる。 ・公共性に根差した問題解決能力を高め、社会に発信することができる。
-------	---

履修目標

授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。

（１）社会調査の設計や実施に関わる専門知識を身につけ、社会的課題を公共性の観点から整理できること、（２）自ら調査テーマを設定し、主体的に調査の設計、実施に携わることができること、（３）社会的課題を取り扱う際に、社会科学的に的確に観察、調査、分析できること、（４）公共性に根差した問題解決能力を高め、社会に発信することができることを目標とする。

到達目標

授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。
履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。

社会調査の企画、サンプリング、プリテスト、実査、データ入力、集計・分析、報告書の作成の各過程をこなすことができる。

成績評価の基準

S:90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修(自主的な学修)が認められる。

A:80～89 履修目標を達成している。

B:70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。

C:60～69 到達目標を達成している。

不可:～59 到達目標を達成できていない。

・成績評価の方法

評価指標	割合	関連する D P
その他	100	知識・技能(DP1), 思考・判断・表現(DP3), 主体性・多様性・協働性(DP4)
備考	調査設計・調査内容:30%、分析水準・報告書の内容:40%、出席・参加度:30%。	

・授業計画、・アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニングの内容

実習		
回	授業計画	
1	授業内容(担当教員)	オリエンテーション
	授業方法/進め方	テーマにより調査グループを編成 左の内容について概略を講義する
	事前・事後学習	・調査原案の作成 ・調査企画
2	授業内容(担当教員)	社会調査の意義、方法、スケジュールリング、実施上の留意事項の確認
	授業方法/進め方	・調査グループに分かれて作業 ・場合によっては講義時間以外の空き時間(土日含む)を使う
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/ディベート/グループワーク
3	授業内容(担当教員)	調査企画(テーマの設定、調査対象/フィールドの検討)
	授業方法/進め方	・調査グループに分かれて作業 ・場合によっては講義時間以外の空き時間(土日含む)を使う
	事前・事後学習	・調査企画・仮説の作成
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/ディベート/グループワーク
4	授業内容(担当教員)	調査テーマに関する文献講読
	授業方法/進め方	・調査グループに分かれて作業 ・場合によっては講義時間以外の空き時間(土日含む)を使う
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/ディベート/グループワーク
5	授業内容(担当教員)	調査対象に関する文献やデータの収集
	授業方法/進め方	・調査グループに分かれて作業 ・場合によっては講義時間以外の空き時間(土日含む)を使う
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/ディベート/グループワーク
6	授業内容(担当教員)	調査テーマに関する既存研究成果の整理
	授業方法/進め方	・調査グループに分かれて作業 ・場合によっては講義時間以外の空き時間(土日含む)を使う
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/ディベート/グループワーク

7	授業内容（担当教員）	仮説の検討（仮説を構成する変数の検討）
	授業方法／進め方	・調査グループに分かれて作業 ・場合によっては講義時間以外の空き時間（土日含む）を使う
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/ディベート/グループ・ワーク
8	授業内容（担当教員）	仮説導出
	授業方法／進め方	・調査グループに分かれて作業 ・場合によっては講義時間以外の空き時間（土日含む）を使う
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/ディベート/グループ・ワーク
9	授業内容（担当教員）	調査票作成（質問項目・質問文作成）
	授業方法／進め方	・調査グループに分かれて作業 ・場合によっては講義時間以外の空き時間（土日含む）を使う
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/ディベート/グループ・ワーク
10	授業内容（担当教員）	調査票作成（調査票の全体構成を検討）
	授業方法／進め方	・調査グループに分かれて作業 ・場合によっては講義時間以外の空き時間（土日含む）を使う
	事前・事後学習	調査票作成
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/ディベート/グループ・ワーク
11	授業内容（担当教員）	調査票作成（ワーディングをチェック）
	授業方法／進め方	・調査グループに分かれて作業 ・場合によっては講義時間以外の空き時間（土日含む）を使う
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/ディベート/グループ・ワーク
12	授業内容（担当教員）	サンプリングの種類と方法の確認
	授業方法／進め方	・調査グループに分かれて作業 ・場合によっては講義時間以外の空き時間（土日含む）を使う
	事前・事後学習	対象者選定
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/ディベート/グループ・ワーク
13	授業内容（担当教員）	調査対象／フィールドの現地調査
	授業方法／進め方	・調査グループに分かれて作業 ・場合によっては講義時間以外の空き時間（土日含む）を使う
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/ディベート/グループ・ワーク
14	授業内容（担当教員）	調査対象／フィールドの関係者からのヒアリング
	授業方法／進め方	・調査グループに分かれて作業 ・場合によっては講義時間以外の空き時間（土日含む）を使う
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/ディベート/グループ・ワーク
15	授業内容（担当教員）	サンプリング実施（サンプリング作業とノウハウ）
	授業方法／進め方	・調査グループに分かれて作業 ・場合によっては講義時間以外の空き時間（土日含む）を使う
	事前・事後学習	サンプリング、実査
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/ディベート/グループ・ワーク
16	授業内容（担当教員）	サンプリング実施
	授業方法／進め方	・調査グループに分かれて作業 ・場合によっては講義時間以外の空き時間（土日含む）を使う
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/ディベート/グループ・ワーク
17	授業内容（担当教員）	調査対象者の名簿入力
	授業方法／進め方	・調査グループに分かれて作業 ・場合によっては講義時間以外の空き時間（土日含む）を使う
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/ディベート/グループ・ワーク

18	授業内容（担当教員）	調査実施プロセスの確認、プリテスト
	授業方法 / 進め方	・ 調査グループに分かれて作業 ・ 場合によっては講義時間以外の空き時間（土日含む）を使う
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション / デイバート / グループ・ワーク
19	授業内容（担当教員）	プリテストの実施
	授業方法 / 進め方	・ 調査グループに分かれて作業 ・ 場合によっては講義時間以外の空き時間（土日含む）を使う
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション / デイバート / グループ・ワーク
20	授業内容（担当教員）	プリテストの結果についての討論
	授業方法 / 進め方	・ 調査グループに分かれて作業 ・ 場合によっては講義時間以外の空き時間（土日含む）を使う
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション / デイバート / グループ・ワーク
21	授業内容（担当教員）	調査票の再検討
	授業方法 / 進め方	・ 調査グループに分かれて作業 ・ 場合によっては講義時間以外の空き時間（土日含む）を使う
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション / デイバート / グループ・ワーク
22	授業内容（担当教員）	調査票の確定、実査マニュアルの作成
	授業方法 / 進め方	・ 調査グループに分かれて作業 ・ 場合によっては講義時間以外の空き時間（土日含む）を使う
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション / デイバート / グループ・ワーク
23	授業内容（担当教員）	実査の準備（郵送用封筒等の準備）
	授業方法 / 進め方	・ 調査グループに分かれて作業 ・ 場合によっては講義時間以外の空き時間（土日含む）を使う
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション / デイバート / グループ・ワーク
24	授業内容（担当教員）	実査の準備（調査票の封入と郵送）
	授業方法 / 進め方	・ 調査グループに分かれて作業 ・ 場合によっては講義時間以外の空き時間（土日含む）を使う
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション / デイバート / グループ・ワーク
25	授業内容（担当教員）	実査（問い合わせ対応）
	授業方法 / 進め方	・ 調査グループに分かれて作業 ・ 場合によっては講義時間以外の空き時間（土日含む）を使う
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション / デイバート / グループ・ワーク
26	授業内容（担当教員）	実査（回収調査票のナンバリングとチェック）
	授業方法 / 進め方	・ 調査グループに分かれて作業 ・ 場合によっては講義時間以外の空き時間（土日含む）を使う
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション / デイバート / グループ・ワーク
27	授業内容（担当教員）	実査（回収調査票のナンバリングとチェック）
	授業方法 / 進め方	・ 調査グループに分かれて作業 ・ 場合によっては講義時間以外の空き時間（土日含む）を使う
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション / デイバート / グループ・ワーク
28	授業内容（担当教員）	エディティング準備
	授業方法 / 進め方	・ 調査グループに分かれて作業 ・ 場合によっては講義時間以外の空き時間（土日含む）を使う
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション / デイバート / グループ・ワーク
29	授業内容（担当教員）	入力シートの作成
	授業方法 / 進め方	・ 調査グループに分かれて作業 ・ 場合によっては講義時間以外の空き時間（土日含む）を使う
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション / デイバート / グループ・ワーク

30	授業内容（担当教員）	実査までのプロセスに対するレポート作成
	授業方法 / 進め方	・ 調査グループに分かれて作業 ・ 場合によっては講義時間以外の空き時間（土日含む）を使う
備考	各回の内容は調査を行うという授業の性格上、進行具合によって予定を変更する場合がある。	

科目名	組織マネジメント		
科目名（英語）	Management Studies		
担当教員	井上 奈美子		
科目区分	人間社会学部 公共社会学科、人間社会学部 社会福祉学科、人間社会学部 人間形成学科、キャリアマネジメント・プログラム		
標準履修年次	3～4年	開講時期	前期
必修・選択	選択	単位	2単位

・科目情報

授業概要

本講義では、変化の激しい時代であっても、自信をもって挑戦し続ける能力を育みます。誰にでも潜在能力はあります。この個人の能力を伸ばし、自信を持って他者と協働する経験を重ねていきます。そのうえで、問題解決力、学び続ける力、リーダーシップを学びつつ、組織の実態を議論します。組織は企業だけでなく、地域や公的機関、NPOなど多様です。

講義ではアクティブラーニングとPBLを融合し、実社会の課題解決を通じて、組織マネジメント力、特にコーディネート力を高めることも目指します。地域の財産である九州の企業・団体の事例を取り上げることで、それぞれの素晴らしさを理解することで就職活動の準備もできます。オンデマンド学習も用意し、就職活動と両立可能です。

難しいビジネス用語も一つひとつ事例を用いて説明し、文系学生でも安心して学ぶことができます。

履修条件 / 授業内容を理解するために必要な知識・技能等

講義が始まる前までに以下のテキストを生協にて購入すること。講義はテキストを用いたオンデマンド学習と教員によるTeamsやZOOMを使った助言や補足解説を行います。テキストが手元にあることが必須条件となります。Teamsを使用します。初回授業日までにTeamsの登録を各自しておいてください。メールにて授業内容について連絡をすることがあります。【重要】初回授業の前日に一度、大学のメールボックスをチェックしてください。

関連資格

問題解決演習、人的資源管理論の履修もすると、基本が理解できたうえで学ぶことができ、さらに有意義になります。

テキスト

はじめての経営組織論、高尾義明、有斐閣ストウディア1900（＋税）

参考図書・教材等

福祉や心理、公的機関の領域で活躍する先輩たちからも知らないことを知ることができて役立ったという声が聴かれています。

実務経験を生かした授業

大学の管理職として、職員のマネジメント経験、雇用と人材育成のコンサルタント、各種団体のコーディネーター、学生への就職指導を行ってきた教員が、諸経験を活かし、企業や団体が取り組む組織マネジメントについてわかりやすく指導します。さらに社会人が日常的に使う、ビジネス用語を学ぶことができ、人事担当者の説明言葉が理解できるようになります。

実際の企業や団体の研修のようにディスカッションをすることで、対話力を身に着けることができます。就職活動で増えているグループディスカッションへの不安を軽減できます。

授業中の撮影

あり（大学案内など）

学習相談・助言体制

コメント提出（毎週提出します）、学生個人の就職相談や知りたい企業について情報提供します。

・DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

D P

知識・技能

(DP1)	組織論と経営学の領域を多面的に捉え、理論的枠組みの理解と理論の実践を体験的に学ぶことで、組織運用のための思考と実践力を高める。変化する社会において、不確実性のともなう組織マネジメントでは、個人が組織内において将来を見越して主体的に行動するダイバーシティマネジメントと実行力を身に着ける。
-------	---

履修目標

授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。

組織ってどうなっているのか、組織の成立条件について理解します。組織が安定的に活動を継続させるためにどのような人が活躍しているのか、また組織の構造とプロセスについて理解します。これらを理解することで、就職活動の準備になり、また、大学卒業後に社会で活躍するための実務知識が身に付きます。

到達目標

授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。
履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。

組織運用で近年特に重要になってきているイノベーション創出や変革について理解します。学術的知見を踏まえて、実務に用いることができる考え方やアイデアを自ら生み出す力を身に着けます。

成績評価の基準

S:90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修(自主的な学修)が認められる。

出席と毎週のレポート重視、グループディスカッションやアクティブラーニングでの主体性などの授業態度

A:80～89 履修目標を達成している。

B:70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。

C:60～69 到達目標を達成している。

不可:～59 到達目標を達成できていない。

・成績評価の方法

評価指標	割合	関連するD P
授業内レポート・小テスト	60	知識・技能(DP1):60
授業外レポート・宿題	40	知識・技能(DP1):40

・授業計画、・アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニングの内容

アクティブラーニングPBL

回	授業計画	
1 [メディア]	授業内容(担当教員)	ガイダンス(グループづくり、試験、単位、学習到達目標の確認)
	授業方法/進め方	最初の授業で説明します。資料提供や欠席連絡などにTeamsを活用します。
	事前・事後学習	事前事後学習は負荷は大きくないですが、必要に応じて、事後学習になる資料を提供します。
2 [メディア]	授業内容(担当教員)	組織を学ぼう! : 協働する場としての組織チームワーク 仲間をエンパワーする
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/ディベート/グループワーク
3 [メディア]	授業内容(担当教員)	組織ってなに? : 経営組織と経営資源 意思決定からのアプローチ
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/ディベート/グループワーク
4 [メディア]	授業内容(担当教員)	組織の目的とは? : 組織の目的と個人が組織に参加する目的との関係 自分の周りのことを理解しておこう、ステークホルダーからの経営資源の調達と組織均衡
5 [メディア]	授業内容(担当教員)	コミュニケーションと調整は大事: 調整と決定前提 組織におけるコミュニケーション コミュニケーションの円滑化の方法 野球の栗山監督、青学の大監督のリーダーシップ
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/ディベート/グループワーク
6 [メディア]	授業内容(担当教員)	貢献意欲とは? : 組織メンバーの参加確保 貢献意欲の必要性の増大 関係づけメカニズム、人をやる気にする方法

7 [メディア]	授業内容（担当教員）	意見の食い違いを乗り越えるには？：無駄をなくして合理的に こう 組織の発展に伴う構造の変化 典型的な組織形態
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/ディベート/グループ・ワーク
8 [メディア]	授業内容（担当教員）	人間の行為、自生的システムの創発を知ろう： 社会的ネットワーク 組織文化、トラブルがあったときの人の動きを知る
9 [メディア]	授業内容（担当教員）	組織プロセスの成り立ち： 様々なリーダーシップ ポリティクスとコンフリクト（意見のくい違いへの対応方法） 組織プロセスの複雑性
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/ディベート/グループ・ワーク
10 [メディア]	授業内容（担当教員）	会社にとって必要な人材とは？： モチベーションの源泉への注目 .ニーズ（欲求）理論 モチベーションの複雑性.プロセス（過程）理論
11 [メディア]	授業内容（担当教員）	組織学習とは： 組織と戦略の関係 組織の学習（今求められる学び続ける人とは）
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/ディベート/グループ・ワーク
12 [メディア]	授業内容（担当教員）	イノベーションとは？： イノベーション創出に向けた組織マネジメントの特徴 知識の創出と獲得の方法（航空会社の事故対応などを事例に）
13 [メディア]	授業内容（担当教員）	入社するなら変化を続ける組織がいい？： 変化し続ける組織 変化を増幅する学習
14 [メディア]	授業内容（担当教員）	企業・団体組織マネジメントケース分析、これで安心、就職活動に役立つ企業分析方法を知ろう！
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/ディベート/グループ・ワーク
15 [メディア]	授業内容（担当教員）	まとめ最終課題作成
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/ディベート/グループ・ワーク

科目名	ソーシャルワークの基盤と専門職		
科目名（英語）	Values and Ethics in Social Work		
担当教員	本郷 秀和		
科目区分	人間社会学部 社会福祉学科、高等学校教諭一種免許（福祉）、社会福祉士国家試験受験資格		
標準履修年次	1～4年	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位	2単位

・科目情報

授業概要

本講義では「ソーシャルワークの基盤と専門職」の学習内容を基礎とし、(1)倫理的ディレンマ（事例を用いる）、(2)ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク、(3)総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容、(4)ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲、の4つのテーマを軸に授業を展開する。また、本学の社会福祉学会や実践者からソーシャルワークの実情を学ぶ機会があれば、振替を行うことがある。

履修条件 / 授業内容を理解するために必要な知識・技能等

- ・「ソーシャルワークの基盤と専門職」（1年前期）を必ず履修しておくこと。
- ・他の社会福祉士指定科目を同時履修または履修済みであることが望ましい。
- ・情報処理室を使用する場合がある（使用不可の場合：インターネット及びワードやパワーポイントが使用できるノートパソコンを持参できる体制を整えておくことが望ましい。E-ラーニングの使用はしない予定ですが、状況に応じます。）

関連資格

社会福祉士受験予定の方は必ず履修すること（指定科目）

テキスト

教科書：中央法規「ソーシャルワークの基盤と専門職（共通・社会専門）」（＊社会福祉コースの「ソーシャルワークの基盤と専門職」（1年前期）と同じ教科書を使用）

参考図書・教材等

参考図書：

- 1) 九州社会福祉研究会編（編集代表：田畑洋一・門田光司・鬼崎信好・倉田康路・片岡靖子・本郷秀和）『第3版 21世紀の現代社会福祉用語辞典』、学文社、2022年2月発行、3630円（税込）。（＊本辞典は、他の科目でも使用予定）
- 2) 鬼崎信好・本郷秀和編「コメディカルのための社会福祉概論 -第5版-」講談社、2023。

実務経験を生かした授業

社会福祉士や精神保健福祉士としての実務経験を踏まえた講義を行いたいと思います。

授業中の撮影

感染症対策等、状況に応じてあります。

学習相談・助言体制

基本的には講義終了前の5分程度の質疑応答の時間を取りたいと思いますが、授業以外やメールでも対応します。

・DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP

知識・技能

(DP1)	・事例を用いて倫理的ディレンマを説明できる。 ・地域を基盤とした総合的・包括的なソーシャルワークの必要性和機能を説明できる。 ・ミクロ・メゾ・マクロの視点からソーシャルワークを説明できる。 ・福祉関連の資格や業務について複数説明できる。子ども家庭福祉ソーシャルワーカーを含む。 ・多職種連携の意義や方法の概略を説明できる。 ・社会福祉士・精神保健福祉士の相談援助の活動領域と対象、職場や職名の例を他人に分かりやすく複数説明できる。
-------	--

履修目標

授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。

- ・事例を用いて倫理的ディレンマを説明できる。
- ・地域を基盤とした総合的・包括的なソーシャルワークの必要性と機能を説明できる。
- ・ミクロ・メゾ・マクロの視点からソーシャルワークを説明できる。
- ・福祉関連の資格や業務について複数説明できる。
- ・多職種連携の意義や方法の概略を説明できる。
- ・社会福祉士・精神保健福祉士の相談援助の活動領域と対象、職場や職名の例を他人に分かりやすく複数説明できる。

到達目標

授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。
履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。

- ・事例を用いて倫理的ディレンマを説明できる。
- ・地域を基盤とした総合的・包括的なソーシャルワークの必要性と機能を説明できる。
- ・ミクロ・メゾ・マクロの視点からソーシャルワークを説明できる。
- ・福祉関連の資格や業務について複数説明できる。
- ・多職種連携の意義や方法の概略を説明できる。
- ・社会福祉士・精神保健福祉士の相談援助の活動領域と対象、職場や職名の例を他人に分かりやすく複数説明できる。

成績評価の基準

S:90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修(自主的な学修)が認められる。

到達目標の内容に対して、ほぼ完全に説明できる。

A:80～89 履修目標を達成している。

到達目標の内容に対して、おおむね説明できる。

B:70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。

到達目標の内容に対して、ある程度説明できる。

C:60～69 到達目標を達成している。

到達目標の内容に対して、最低限のポイントを説明できる。

不可:～59 到達目標を達成できていない。

到達目標の内容に対して、全てまたは殆ど説明できない。

・成績評価の方法

評価指標	割合	関連するDP
発表	100	知識・技能(DP1):100

・授業計画、 ・アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニングの内容

回	授業計画	
1	授業内容(担当教員)	オリエンテーション、ソーシャルワークの基盤と専門職の振り返り(ディレンマ部分等)、社会福祉士、精神保健福祉士とソーシャルワーク職について、諸外国のソーシャルワーカーについて
	授業方法/進め方	シラバス説明、これまでの学習の確認、社会・精神保健福祉士等の概要、ソーシャルワークが必要とされる社会的問題・背景。諸外国のソーシャルワーカーの例等。
	事前・事後学習	教科書6～8章の目次を読んでくること。
2	授業内容(担当教員)	ソーシャルワークと倫理的ディレンマ
	授業方法/進め方	教科書・プリントを中心に講義を進める。
	事前・事後学習	授業内容の復習と次回予定の部分を読んでくること。学習の理解の様子や進捗状況に応じて口頭で指示します。

3	授業内容（担当教員）	ソーシャルワークと倫理的ディレンマ
	授業方法 / 進め方	教科書・プリントを中心に講義を進める。
	事前・事後学習	授業内容の復習と次回予定の部分を読んでもくること。学習の理解の様子や進捗状況に応じて口頭で指示します。
4	授業内容（担当教員）	倫理的ディレンマの確認 ソーシャルワークにおけるミクロ・メゾ・マクロ
	授業方法 / 進め方	教科書・プリントを中心に講義を進める。
	事前・事後学習	授業内容の復習と次回予定の部分を読んでもくること。学習の理解の様子や進捗状況に応じて口頭で指示します。
5	授業内容（担当教員）	ソーシャルワークにおけるミクロ・メゾ・マクロ
	授業方法 / 進め方	教科書・プリントを中心に講義を進める。
	事前・事後学習	授業内容の復習と次回予定の部分を読んでもくること。学習の理解の様子や進捗状況に応じて口頭で指示します。
6	授業内容（担当教員）	地域を基盤とした総合的包括的ソーシャルワークと多職種連携
	授業方法 / 進め方	教科書と多職種連携に関するDVDを視聴し、多職種連携の意義についてイメージ化しながら確認・理解する。
	事前・事後学習	授業内容の復習と次回予定の部分を読んでもくること。学習の理解の様子や進捗状況に応じて口頭で指示します。
7	授業内容（担当教員）	地域を基盤とした総合的包括的ソーシャルワークと多職種連携
	授業方法 / 進め方	教科書と多職種連携に関するDVDを視聴し、多職種連携の意義についてイメージ化しながら確認・理解する。
	事前・事後学習	授業内容の復習と次回予定の部分を読んでもくること。学習の理解の様子や進捗状況に応じて口頭で指示します。
8	授業内容（担当教員）	・福祉関連の主な資格について ・ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲
	授業方法 / 進め方	・福祉関連の資格を学ぶ。 ・様々な領域のソーシャルワーカーの活動概要を教科書・プリント・動画等で理解する。
	事前・事後学習	授業内容の復習と次回予定の部分を読んでもくること。学習の理解の様子や進捗状況に応じて口頭で指示します。
9	授業内容（担当教員）	・福祉関連の主な資格について ・ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲
	授業方法 / 進め方	・福祉関連の資格を学ぶ。 ・様々な領域のソーシャルワーカーの活動概要を教科書・プリント・動画等で理解する。
	事前・事後学習	授業内容の復習と次回予定の部分を読んでもくること。学習の理解の様子や進捗状況に応じて口頭で指示します。
10	授業内容（担当教員）	関心があるソーシャルワーカーの活動の領域と概要について決定し、同じ関心を持つ者同士でグループを編成し、グループ別で調査する（例：児童領域・障害児者領域、地域福祉、高齢者福祉、精神保健福祉領域、低所得者領域等）
	授業方法 / 進め方	グループの編成と作業（情報処理室予定）
	事前・事後学習	授業内容の復習と次回予定の部分を読んでもくること。学習の理解の様子や進捗状況に応じて口頭で指示します。
	アクティブ・ラーニング	発見学習 / 問題解決学習、体験学習 / 調査学習、グループディスカッション / デイバート / グループワーク

11	授業内容（担当教員）	関心があるソーシャルワーカーの活動の領域と概要について決定し、同じ関心を持つ者同士でグループを編成し、グループ別で調査する（例：児童領域・障害児者領域、地域福祉、高齢者福祉、精神保健福祉領域、低所得者領域等）
	授業方法／進め方	グループ作業（情報処理室予定）
	事前・事後学習	授業内容の復習と次回予定の部分を読んでくること。学習の理解の様子や進捗状況に応じて口頭で指示します。
	アクティブ・ラーニング	発見学習／問題解決学習、体験学習／調査学習、グループディスカッション／ディベート／グループワーク
12	授業内容（担当教員）	関心があるソーシャルワーカーの活動の領域と概要について決定し、同じ関心を持つ者同士でグループを編成し、グループ別で調査する（例：児童領域・障害児者領域、地域福祉、高齢者福祉、精神保健福祉領域、低所得者領域等）
	授業方法／進め方	グループ報告と解説
	事前・事後学習	授業内容の復習と次回予定の部分を読んでくること。学習の理解の様子や進捗状況に応じて口頭で指示します。
	アクティブ・ラーニング	発見学習／問題解決学習、体験学習／調査学習、グループディスカッション／ディベート／グループワーク
13	授業内容（担当教員）	関心があるソーシャルワーカーの活動の領域と概要について決定し、同じ関心を持つ者同士でグループを編成し、グループ別で調査する（例：児童領域・障害児者領域、地域福祉、高齢者福祉、精神保健福祉領域、低所得者領域等）
	授業方法／進め方	グループ報告と解説
	事前・事後学習	授業内容の復習と次回予定の部分を読んでくること。学習の理解の様子や進捗状況に応じて口頭で指示します。
	アクティブ・ラーニング	発見学習／問題解決学習、体験学習／調査学習、グループディスカッション／ディベート／グループワーク
14	授業内容（担当教員）	関心があるソーシャルワーカーの活動の領域と概要について決定し、同じ関心を持つ者同士でグループを編成し、グループ別で調査する（例：児童領域・障害児者領域、地域福祉、高齢者福祉、精神保健福祉領域、低所得者領域等）
	授業方法／進め方	グループ報告と解説
	事前・事後学習	授業内容の復習と次回予定の部分を読んでくること。学習の理解の様子や進捗状況に応じて口頭で指示します。
	アクティブ・ラーニング	発見学習／問題解決学習、体験学習／調査学習、グループディスカッション／ディベート／グループワーク
15	授業内容（担当教員）	まとめ、小テストと解説、質疑応答など
	授業方法／進め方	まとめ、小テストと補足・授業全体の質疑応答など
	事前・事後学習	授業内容の復習と次回予定の部分を読んでくること。学習の理解の様子や進捗状況に応じて口頭で指示します。
	アクティブ・ラーニング	発見学習／問題解決学習、体験学習／調査学習、グループディスカッション／ディベート／グループワーク
備考	後半の授業では、各自がノートパソコンを持参できることが望ましい。福岡県立大学の社会福祉学会の内容がソーシャルワークに関するテーマの場合、参加する可能性（その場合、振替を含めて別途指示します）があります。小テストを実施する場合は60%以上を単位認定要件としています。学習内容は予定ですので、学習状況や質問の量や内容、関心等に合わせて多少調整することがあります。	

科目名	ソーシャルワークの理論と方法B		
科目名（英語）	Social Work Theory and Methods B		
担当教員	本郷 秀和		
科目区分	人間社会学部 社会福祉学科、高等学校教諭一種免許（福祉）、社会福祉士国家試験受験資格、精神保健福祉士国家試験受験資格		
標準履修年次	2～4年	開講時期	前期
必修・選択	選択	単位	2単位

・科目情報

授業概要

本科目は、ソーシャルワークの理論と方法の中でも（１）面接、（２）記録、（３）ソーシャルアドミニストレーション、（４）ソーシャルワークの展開過程（ケースの発見からアフターケアまで）に学習内容を絞って理解する。『ソーシャルワークの理論と方法A』（２年前期：担当 河野高志）と関連が深いので、同時に履修しておくこと。

履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等

『ソーシャルワークの基盤と専門職 』を履修しておくことが望ましい。

関連資格

社会福祉士、精神保健福祉士、スクールソーシャルワーカーを目指す方は履修すること。

テキスト

中央法規『社会福祉士養成講座 ソーシャルワークの理論と方法（共通科目）』（『ソーシャルワークの理論と方法A』と同じ教科書を使用）

参考図書・教材等

参考図書：九州社会福祉研究会編（編集代表：田畑洋一・門田光司・鬼崎信好・倉田康路・片岡靖子・本郷秀和）『第3版 21世紀の現代社会福祉用語辞典』、学文社、2022年2月発行、3630円（税込）。

実務経験を生かした授業

アドミニストレーションを含み、過去または現在のソーシャルワーク等の実務経験（社会福祉士・精神保健福祉士として）を授業にフィードバックできるよう意識したい。

授業中の撮影

必要に応じて撮影することがある。

学習相談・助言体制

各講義の終了直前に質疑応答の時間を設ける予定であるが、メールでのやりとりも可能である。また、授業時間以外でも質問には臨機応変に直接対応したい。

・DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

D P

知識・技能

(DP1)	ソーシャルワークの面接、記録、展開過程、アドミニストレーションに必要な知識や技能について、その理由を含めて第三者に適切に説明できる。
-------	--

履修目標

授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。

ソーシャルワーカーとしての基本的技能（面接、記録、アドミニストレーション、ソーシャルワークのプロセス）に関する知識を身につけ、その内容を詳しく説明できる。

到達目標

授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。
履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。

ソーシャルワーカーとしての基本的技能（面接、記録、アドミニストレーション、ソーシャルワークのプロセス）に関する知識を身につけ、その内容を適切に説明できる。

成績評価の基準

S: 90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修(自主的な学修)が認められる。

到達目標に対して、ほぼ完全に説明できる（かなり詳しく説明できる）。

A: 80～89 履修目標を達成している。

到達目標に対して、おおむね説明できる。
B:70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
到達目標に対して、ある程度説明できる。
C:60～69 到達目標を達成している。
到達目標に対して、最低限のポイントは説明できる。
不可:～59 到達目標を達成できていない。
到達目標に対して、全てまたは最低限のポイントも殆ど説明できない。

・成績評価の方法

評価指標	割合	関連する D P
授業内レポート・小テスト	100	知識・技能(DP1):100
備考	積極的な出席・参加や授業姿勢を期待します。	

・授業計画、・アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニングの内容

回	授業計画	
1	授業内容（担当教員）	オリエンテーション、ソーシャルワークの基盤と専門職の振り返り
	授業方法 / 進め方	授業の進め方、注意事項、成績評価方法等の説明。『ソーシャルワークの基盤と専門職』の補足または国家試験の過去問紹介と解答解説。
	事前・事後学習	syllabusを読んでおくこと。
2	授業内容（担当教員）	ソーシャルワークと面接
	授業方法 / 進め方	基本的には教科書を中心に、それを補強・補完するかたちでパワーポイントでの説明や動画視聴等を行う。必要に応じ、資料を配布する。
3	授業内容（担当教員）	ソーシャルワークと面接
	授業方法 / 進め方	基本的には教科書を中心に、それを補強・補完するかたちでパワーポイントでの説明や動画視聴等を行う。必要に応じ、資料を配布する。
4	授業内容（担当教員）	ソーシャルワークと面接
	授業方法 / 進め方	基本的には教科書を中心に、それを補強・補完するかたちでパワーポイントでの説明や動画視聴等を行う。必要に応じ、資料を配布する。
	アクティブ・ラーニング	体験学習 / 調査学習、グループディスカッション / デバート / グループワーク
5	授業内容（担当教員）	ソーシャルワークと記録
	授業方法 / 進め方	基本的には教科書を中心に、それを補強・補完するかたちでパワーポイントでの説明や動画視聴等を行う。必要に応じ、資料を配布する。
6	授業内容（担当教員）	ソーシャルワークと記録
	授業方法 / 進め方	基本的には教科書を中心に、それを補強・補完するかたちでパワーポイントでの説明や動画視聴等を行う。必要に応じ、資料を配布する。
	アクティブ・ラーニング	体験学習 / 調査学習
7	授業内容（担当教員）	ソーシャルワークと記録
	授業方法 / 進め方	基本的には教科書を中心に、それを補強・補完するかたちでパワーポイントでの説明や動画視聴等を行う。必要に応じ、資料を配布する。
	アクティブ・ラーニング	体験学習 / 調査学習

8	授業内容（担当教員）	ソーシャルワークとアドミニストレーション
	授業方法 / 進め方	基本的には教科書を中心に、それを補強・補完するかたちでパワーポイントでの説明や動画視聴等を行う。必要に応じ、資料を配布する。
9	授業内容（担当教員）	ソーシャルワークとアドミニストレーション
	授業方法 / 進め方	基本的には教科書を中心に、それを補強・補完するかたちでパワーポイントでの説明や動画視聴等を行う。必要に応じ、資料を配布する。
	アクティブ・ラーニング	体験学習 / 調査学習
10	授業内容（担当教員）	ソーシャルワークの展開過程
	授業方法 / 進め方	基本的には教科書を中心に、それを補強・補完するかたちでパワーポイントでの説明や動画視聴等を行う。必要に応じ、資料を配布する。
	アクティブ・ラーニング	発見学習 / 問題解決学習
11	授業内容（担当教員）	ソーシャルワークの展開過程
	授業方法 / 進め方	基本的には教科書を中心に、それを補強・補完するかたちでパワーポイントでの説明や動画視聴等を行う。必要に応じ、資料を配布する。
12	授業内容（担当教員）	ソーシャルワークの展開過程
	授業方法 / 進め方	基本的には教科書を中心に、それを補強・補完するかたちでパワーポイントでの説明や動画視聴等を行う。必要に応じ、資料を配布する。
13	授業内容（担当教員）	ソーシャルワークの展開過程
	授業方法 / 進め方	基本的には教科書を中心に、それを補強・補完するかたちでパワーポイントでの説明や動画視聴等を行う。必要に応じ、資料を配布する。
14	授業内容（担当教員）	ソーシャルワークの展開過程
	授業方法 / 進め方	基本的には教科書を中心に、それを補強・補完するかたちでパワーポイントでの説明や動画視聴等を行う。必要に応じ、資料を配布する。
	アクティブ・ラーニング	発見学習 / 問題解決学習
15	授業内容（担当教員）	・全体のまとめと振り返り・質疑応答 ・学習成果の提出（学んだことなど）
	授業方法 / 進め方	・これまでの学習内容のポイントの振り返りと確認のための説明。 学習成果のレポート提出。
備考	スケジュールは予定であるため、学習・理解状況に応じて対応したい。	

科目名	ソーシャルワークの理論と方法E		
科目名（英語）	Social Work Theory and Methods E		
担当教員	宮原 和沙		
科目区分	人間社会学部 社会福祉学科、精神保健福祉士国家試験受験資格		
標準履修年次	3 年	開講時期	前期
必修・選択	選択	単位	2単位

・科目情報

授業概要

本授業では精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人に対するソーシャルワークの過程と、家族との関係および家族への支援方法を学ぶ。また、精神医療、精神障害者福祉における多職種・多機関の連携方法と精神保健福祉士の役割について学ぶ。

履修条件 / 授業内容を理解するために必要な知識・技能等

授業内容を理解する上で、2年次後期までの精神保健福祉士指定科目が履修済みであること。

関連資格

精神保健福祉士国家試験受験資格

テキスト

日本ソーシャルワーク教育学校連盟編『最新 精神保健福祉士養成講座6 ソーシャルワークの理論と方法 [精神専門] 』中央法規出版，2021年，3,000円（税別）。

参考図書・教材等

適宜、資料を配布する。

実務経験を生かした授業

医療機関でソーシャルワーカーとして勤務した経験を有する教員が、精神保健福祉領域で必要となる専門知識・技術の習得を指導する。

学習相談・助言体制

授業内で質問を受け付け、回答することを原則とし、必要に応じて次の授業時に対応したい。

・DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP

知識・技能

(DP1)	・精神障害及び精神障害福祉の課題を持つ人に対するソーシャルワークの過程を説明することができる。 ・精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人と家族の関係を理解し、家族への支援方法を説明することができる。 ・精神医療、精神障害者福祉における多職種連携・多機関連携の方法と精神保健福祉士の役割について説明することができる。
-------	---

履修目標

授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。

精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人に対するソーシャルワークの過程を理解する。

精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人と家族の関係を理解し、家族への支援方法を理解する。

精神医療、精神障害者福祉における多職種連携・多機関連携の方法と精神保健福祉士の役割について理解する。

。

到達目標

授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。

履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。

精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人に対するソーシャルワークの展開過程を説明することができる。

精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人と家族の関係を理解し、家族への支援方法を説明することができる。

。

精神医療、精神障害者福祉における多職種連携・多機関連携の方法と精神保健福祉士の役割について説明することができる。

成績評価の基準

S:90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修(自主的な学修)が認められる。
	「到達目標」について、詳しく理解した上で、自らの考えを他者に分かりやすく説明することができる。
A:80～89	履修目標を達成している。
	「到達目標」に対して、理解した上で、自らの考えを他者に分かりやすく説明することができる。
B:70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
	「到達目標」に対して、ある程度理解した上で、自らの考えを他者に伝えることができる。
C:60～69	到達目標を達成している。
	「到達目標」に対して、ある程度理解できる。
不可:～59	到達目標を達成できていない。
	「到達目標」に辿り着いていない。授業内容を修得できていない。

・成績評価の方法

評価指標	割合	関連するDP
授業内レポート・小テスト	100	知識・技能(DP1)

・授業計画、・アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニングの内容

回	授業計画	
1	授業内容（担当教員）	オリエンテーション 精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの概要 ソーシャルワークの構成要素
	授業方法／進め方	講義
	事前・事後学習	テキストの指定箇所の通読・再読
2	授業内容（担当教員）	精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの概要 ソーシャルワークの展開過程
	授業方法／進め方	講義、グループディスカッション（適宜、視聴覚教材）
	事前・事後学習	テキストの指定箇所の通読・再読
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/ディベート/グループワーク
3	授業内容（担当教員）	精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの概要 精神保健福祉分野のソーシャルワークの基本的視点
	授業方法／進め方	講義、グループディスカッション（適宜、視聴覚教材）
	事前・事後学習	テキストの指定箇所の通読・再読
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/ディベート/グループワーク
4	授業内容（担当教員）	精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの過程 アウトリーチ
	授業方法／進め方	講義、グループディスカッション（適宜、視聴覚教材）
	事前・事後学習	テキストの指定箇所の通読・再読
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/ディベート/グループワーク
5	授業内容（担当教員）	精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの過程 インテーク 精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの過程 アセスメント
	授業方法／進め方	講義、グループディスカッション（適宜、視聴覚教材）
	事前・事後学習	テキストの指定箇所の通読・再読
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/ディベート/グループワーク

6	授業内容（担当教員）	精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの過程 援助関係の形成技法 精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの過程 面接技法とその応用
	授業方法／進め方	講義、グループディスカッション（適宜、視聴覚教材）
	事前・事後学習	テキストの指定箇所の通読・再読
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/ディベート/グループ・ワーク
7	授業内容（担当教員）	精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの過程 支援の展開（人、環境へのアプローチ）事例分析（１） 精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの過程 支援の展開（人、環境へのアプローチ）事例分析（２）
	授業方法／進め方	講義、グループディスカッション（適宜、視聴覚教材）
	事前・事後学習	テキストの指定箇所の通読・再読
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/ディベート/グループ・ワーク
8	授業内容（担当教員）	中間まとめ：確認テスト・解説 精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの過程 支援の展開（ケアマネジメント）
	授業方法／進め方	小テスト・解説・講義・質疑応答
	事前・事後学習	これまでの授業の復習
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/ディベート/グループ・ワーク
9	授業内容（担当教員）	精神保健福祉分野における家族支援の実際 精神障害者家族の課題
	授業方法／進め方	講義、グループディスカッション（適宜、視聴覚教材）
	事前・事後学習	テキスト指定箇所の通読・再読
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/ディベート/グループ・ワーク
10	授業内容（担当教員）	精神保健福祉分野における家族支援の実際 家族理解の変遷
	授業方法／進め方	講義、グループディスカッション（適宜、視聴覚教材）
	事前・事後学習	テキスト指定箇所の通読・再読
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/ディベート/グループ・ワーク
11	授業内容（担当教員）	精神保健福祉分野における家族支援の実際 家族支援の方法 授業内レポート
	授業方法／進め方	講義、グループディスカッション、授業内レポートの作成・提出
	事前・事後学習	テキスト指定箇所の通読・再読
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/ディベート/グループ・ワーク
12	授業内容（担当教員）	多職種連携・多機関連携（チームアプローチ） 連携の意義と目的
	授業方法／進め方	講義、グループディスカッション（適宜、視聴覚教材）
	事前・事後学習	テキスト指定箇所の通読・再読
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/ディベート/グループ・ワーク
13	授業内容（担当教員）	多職種連携・多機関連携（チームアプローチ） 多職種連携・多機関連携の留意点、チームビルディング
	授業方法／進め方	講義、グループディスカッション（適宜、視聴覚教材）
	事前・事後学習	テキスト指定箇所の通読・再読
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/ディベート/グループ・ワーク
14	授業内容（担当教員）	多職種連携・多機関連携（チームアプローチ） チームの形態と特徴、連携における精神保健福祉士の役割
	授業方法／進め方	講義、グループディスカッション（適宜、視聴覚教材）
	事前・事後学習	テキスト指定箇所の通読・再読
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/ディベート/グループ・ワーク

15	授業内容（担当教員）	多職種連携・多機関連携（チームアプローチ） 多職種連携・多機関連携（チームアプローチ）の実際（事例分析） まとめ
	授業方法／進め方	講義、グループディスカッション（適宜、視聴覚教材）
	事前・事後学習	これまでの授業の復習
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/ディベート/グループ・ワーク
備考	シラバスは授業の進捗状況等により、順番等が変更になる可能性がある。学生の学習・理解の状況に応じて対応したい。小テスト、授業内レポートについては、授業内で説明する予定である。	

科目名	ソーシャルワークの理論と方法F		
科目名（英語）	Social Work Theory and Methods F		
担当教員	住友 雄資		
科目区分	人間社会学部 社会福祉学科、精神保健福祉士国家試験受験資格		
標準履修年次	3年	開講時期	後期
必修・選択	選択	単位	2単位

・科目情報

授業概要

精神障害者を対象とするソーシャルワークのうち、コミュニティワーク・ソーシャルアクション・アドミニストレーションの理論と方法について学ぶと同時に、関連分野（教育・産業・司法・災害）における精神保健福祉士の実践展開についても学ぶ。

履修条件 / 授業内容を理解するために必要な知識・技能等

授業内容を理解する上で、3年次前期までの精神保健福祉士指定科目が履修済みであること

関連資格

精神保健福祉士国家試験受験資格

テキスト

日本ソーシャルワーク教育学校連盟編『最新 精神保健福祉士養成講座 6 ソーシャルワークの理論と方法〔精神専門〕』中央法規出版、2021年、3000円（税別）

参考図書・教材等

必要な資料等を事前配布するので、授業開始前にeラーニングからダウンロードし、授業に持参すること

実務経験を生かした授業

精神保健福祉領域で実務経験を有する教員が、精神科領域のソーシャルワークを解説することにより、ソーシャルワークの専門知識・技術の習得を指導する。

学習相談・助言体制

メール等で受け付け、回答することを原則とし、必要に応じて次回の授業時に対応する。

・DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

D P

知識・技能

(DP2)	精神障害者を対象とするソーシャルワークのうち、コミュニティワーク・ソーシャルアクション・アドミニストレーションの理論と方法、関連分野（教育・産業・司法・災害）における精神保健福祉士の実践展開について、理解することができる。
-------	---

履修目標

授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。

「授業概要」について正確に理解した上で、自らの考えをわかりやすく表現できる。

到達目標

授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。
履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。

「授業概要」について、理解できる。

成績評価の基準

S: 90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修(自主的な学修)が認められる。

「授業概要」について応用も含めて理解した上で、自らの考えを他者にわかりやすく、かつ説得的に表現できる。

A: 80～89 履修目標を達成している。

「授業概要」について正確に理解した上で、自らの考えを他者にわかりやすく表現できる。

B: 70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。

「授業概要」についてある程度理解した上で、自らの考えを他者に表現できる。

C: 60～69 到達目標を達成している。

「授業概要」についてある程度理解できる。

不可: ～59 到達目標を達成できていない。

「授業概要」について理解できていない。

・成績評価の方法

評価指標	割合	関連する D P
授業外レポート	100	知識・技能(DP2) : 100
備考	該当者には再試験を行う。	

・授業計画、・アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニングの内容		
授業内容の関連問題をおさらいする		
回	授業計画	
1	授業内容（担当教員）	オリエンテーション / 授業全体の概略説明
	授業方法 / 進め方	講義（適宜，視聴覚教材）
	事前・事後学習	授業内容のふりかえり（事後）
2	授業内容（担当教員）	コミュニティワーク
	授業方法 / 進め方	講義（適宜，視聴覚教材）
	事前・事後学習	テキスト指定箇所通読（事前） / 授業内容のふりかえり（事後）
3	授業内容（担当教員）	コミュニティワーク
	授業方法 / 進め方	講義（適宜，視聴覚教材）
	事前・事後学習	テキスト指定箇所通読（事前） / 授業内容のふりかえり（事後）
4	授業内容（担当教員）	コミュニティワーク
	授業方法 / 進め方	講義（適宜，視聴覚教材）
	事前・事後学習	テキスト指定箇所通読（事前） / 授業内容のふりかえり（事後）
5	授業内容（担当教員）	コミュニティワーク
	授業方法 / 進め方	講義（適宜，視聴覚教材）
	事前・事後学習	テキスト指定箇所通読（事前） / 授業内容のふりかえり（事後）
	アクティブ・ラーニング	発見学習 / 問題解決学習
6	授業内容（担当教員）	ソーシャルアクション
	授業方法 / 進め方	講義（適宜，視聴覚教材）
	事前・事後学習	テキスト指定箇所通読（事前） / 授業内容のふりかえり（事後）
7	授業内容（担当教員）	ソーシャルアクション
	授業方法 / 進め方	講義（適宜，視聴覚教材）
	事前・事後学習	テキスト指定箇所通読（事前） / 授業内容のふりかえり（事後）
	アクティブ・ラーニング	発見学習 / 問題解決学習
8	授業内容（担当教員）	アドミニストレーション
	授業方法 / 進め方	講義（適宜，視聴覚教材）
	事前・事後学習	テキスト指定箇所通読（事前） / 授業内容のふりかえり（事後）
9	授業内容（担当教員）	アドミニストレーション
	授業方法 / 進め方	講義（適宜，視聴覚教材）
	事前・事後学習	テキスト指定箇所通読（事前） / 授業内容のふりかえり（事後）
10	授業内容（担当教員）	アドミニストレーション
	授業方法 / 進め方	講義（適宜，視聴覚教材）
	事前・事後学習	テキスト指定箇所通読（事前） / 授業内容のふりかえり（事後）
11	授業内容（担当教員）	アドミニストレーション
	授業方法 / 進め方	講義（適宜，視聴覚教材）
	事前・事後学習	テキスト指定箇所通読（事前） / 授業内容のふりかえり（事後）
	アクティブ・ラーニング	発見学習 / 問題解決学習
12	授業内容（担当教員）	関連分野（教育）における精神保健福祉士の実践展開
	授業方法 / 進め方	講義（適宜，視聴覚教材）
	事前・事後学習	テキスト指定箇所通読（事前） / 授業内容のふりかえり（事後）

13	授業内容（担当教員）	関連分野（産業）における精神保健福祉士の実践展開
	授業方法／進め方	講義（適宜，視聴覚教材）
	事前・事後学習	テキスト指定箇所通読（事前）／授業内容のふりかえり（事後）
14	授業内容（担当教員）	関連分野（司法）における精神保健福祉士の実践展開
	授業方法／進め方	講義（適宜，視聴覚教材）
	事前・事後学習	テキスト指定箇所通読（事前）／授業内容のふりかえり（事後）
15	授業内容（担当教員）	関連分野（災害）における精神保健福祉士の実践展開
	授業方法／進め方	講義（適宜，視聴覚教材）
	事前・事後学習	テキスト指定箇所通読（事前）／授業内容のふりかえり（事後）

科目名	ソーシャルワーク演習B		
科目名（英語）	Foundations of Social Work Practice B		
担当教員	村山 浩一郎、寺島 正博、畑 香理、今村 浩司		
科目区分	人間社会学部 社会福祉学科、高等学校教諭一種免許（福祉）、社会福祉士国家試験受験資格		
標準履修年次	2 年	開講時期	通年
必修・選択	選択	単位	2単位

・科目情報

授業概要

ソーシャルワーク演習Aの学びをふまえて、社会的排除・危機状態にある事例、低所得者・ホームレスの事例、医療福祉における患者への援助事例などの具体的な事例を活用し、支援を必要としている人が抱える複合的な課題に対する総合的かつ包括的な支援について実践的に習得する。また、地域福祉の基盤整備と開発に係る事例を活用し、地域の特性や課題を把握し解決するための地域アセスメントや評価等の仕組みを実践的に理解する。なお、授業は最初と最後の全体授業を除いて、4グループに分かれて別の教室で行う。各グループは、各教員から7回ずつ授業を受ける。

履修条件 / 授業内容を理解するために必要な知識・技能等

ソーシャルワーク演習Aを履修していることが望ましい。

関連資格

社会福祉士

テキスト

必要な資料・レジュメは各授業で配布する。

参考図書・教材等

必要な資料・レジュメは各授業で配布する。

実務経験を生かした授業

病院、福祉施設等でソーシャルワーカーとしての実務経験がある教員（3名）が、その経験を活かして、ソーシャルワークの実技指導を行う。

学習相談・助言体制

4名の担当教員のうち、本学教員に関してはオフィスアワーや当該授業前後の時間、非常勤教員に関しては当該授業の前後の時間に相談に応じる。また、授業のコメントカードやメール等で随時質問を受け付ける。

・DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP

知識・技能

(DP2)	・ソーシャルワークの実践に必要な知識と技術を実践的に理解し、習得している。 ・専門的援助技術を概念化・理論化し、体系立てていくことができる。
-------	---

思考・判断・表現

(DP3)	・様々な生活課題や地域課題を検討し、それらの課題に対するソーシャルワークの実践方法を根拠に基づいて自分なりに提案できる。 ・ソーシャルワークの実践方法について他者と協議し、その成果を適切に表現できる。
-------	---

履修目標

授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。

具体的な実践事例の検討などを通してソーシャルワークの実践に必要な知識と技術を習得し、実践できる。具体的な実践事例の検討などで活用する専門的援助技術を概念化・理論化し体系立てていくことができる。具体的な事例から援助が必要な生活課題や地域課題を抽出し、その課題に対するソーシャルワークの実践方法を根拠に基づいて自分なりに提案できる。グループディスカッションなどにより、課題に対するソーシャルワークの実践方法について協議し、その成果を適切に表現できる。

到達目標

授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。
履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。

具体的な実践事例の検討などを通してソーシャルワークの実践に必要な知識と技術を理解していることを示すことができる。具体的な実践事例の検討などで活用する専門的援助技術を概念化・理論化できる。具体的な事例から援助が必要な生活課題や地域課題を抽出し、その課題に対するソーシャルワークの実践方法を検討できる。グループディスカッションなどにより、課題に対するソーシャルワークの実践方法について協議できる。

成績評価の基準

S:90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修(自主的な学修)が認められる。
A:80～89	履修目標を達成している。
B:70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C:60～69	到達目標を達成している。
不可:～59	到達目標を達成できていない。

・成績評価の方法

評価指標	割合	関連するD P
実技演習(提出物やプレゼンを含む)	60	知識・技能(DP2):30, 思考・判断・表現(DP3):30
授業態度・授業への参加度	40	知識・技能(DP2):20, 思考・判断・表現(DP3):20

・授業計画、・アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニングの内容
第1回、30回の全体授業以外は、すべての授業で、小グループでの事例検討、グループ・ディスカッション、グループ・ワーク、受講生による発表、ロールプレイなどが行われる。

回	授業計画	
1	授業内容(担当教員)	オリエンテーション(全体授業)
	授業方法/進め方	講義(全教員)、質疑応答
	事前・事後学習	各教員より、事前・事後学習の課題を提示する。
2～8	授業内容(担当教員)	社会的排除・危機状態にある事例を取り上げ、ケース発見、インタビュー、アセスメント、プランニング、支援の実施、モニタリング、支援の終結と事後評価、アフターケアといった具体的な場面を想定した実技指導を行う。また、実技指導にあたっては、アウトリーチ、チームアプローチ、ネットワーキング、コーディネーション、ネゴシエーション、ファシリテーション、プレゼンテーション、ソーシャルアクションなどを含める。
	授業方法/進め方	配布資料・レジュメにもとづく説明と演習(寺島正博:7回×4グループ)
	事前・事後学習	オリエンテーションで示された課題の学習 「ソーシャルワークの理論と方法」で学んだ実践アプローチの学習

9～15	授業内容（担当教員）	低所得者・ホームレスの事例を取り上げ、ケース発見、インテーク、アセスメント、プランニング、支援の実施、モニタリング、支援の終結と事後評価、アフターケアといった具体的な場面を想定した実技指導を行う。また、実技指導にあたっては、アウトリーチ、チームアプローチ、ネットワーキング、コーディネーション、ネゴシエーション、ファシリテーション、プレゼンテーション、ソーシャルアクションなどを含める。
	授業方法／進め方	配布資料・レジュメにもとづく説明と演習（今村浩司：7回×4グループ）
	事前・事後学習	オリエンテーションで示された課題の学習 生活保護法、生活困窮者自立支援法、ホームレス自立支援法の学習
16～22	授業内容（担当教員）	医療福祉における患者への援助事例を取り上げ、ケース発見、インテーク、アセスメント、プランニング、支援の実施、モニタリング、支援の終結と事後評価、アフターケアといった具体的な場面を想定した実技指導を行う。また、実技指導にあたっては、アウトリーチ、チームアプローチ、ネットワーキング、コーディネーション、ネゴシエーション、ファシリテーション、プレゼンテーション、ソーシャルアクションなどを含める。
	授業方法／進め方	配布資料・レジュメにもとづく説明と演習（畑香理：7回×4グループ）
	事前・事後学習	オリエンテーションで示された課題 医療保険制度、介護保険制度、成年後見制度の学習
23～29	授業内容（担当教員）	地域福祉の基盤整備と開発に係る事例を取り上げ、地域住民に対するアウトリーチとニーズ把握、地域アセスメント、地域福祉の計画、組織化、社会資源の活用・調整・開発、サービスの評価などについて実技指導を行う。
	授業方法／進め方	配布資料・レジュメにもとづく説明と演習（村山浩一郎：7回×4グループ）
	事前・事後学習	オリエンテーションで示された課題の学習 「地域福祉論」で学んだコミュニティワークの学習
30	授業内容（担当教員）	全体のふりかえりとまとめ（全体授業）
	授業方法／進め方	講義（全教員）、質疑応答
	事前・事後学習	各自、これまでの学びのふりかえりを行っておく
備考	受講生は4グループに分かれ、各グループは4名の担当教員から各7回の授業を受ける。	

科目名	ソーシャルワーク実習A		
科目名（英語）	Fieldwork in Social Work A		
担当教員	本郷 秀和、廣田 久美子、村山 浩一郎、奥村 賢一、河野 高志、寺島 正博、岡本 浩美、畑 香理、松岡 佐智、戸丸 純一、山之内 夢		
科目区分	人間社会学部 社会福祉学科、高等学校教諭一種免許（福祉）、社会福祉士国家試験受験資格		
標準履修年次	2年	開講時期	後期
必修・選択	選択	単位	2単位

・科目情報

授業概要

後期（原則、2～3月）に、7日間（56時間）以上、本学の実習指定施設となっている各種の社会福祉施設・機関等においてソーシャルワーク実習を行う。

履修条件 / 授業内容を理解するために必要な知識・技能等

ソーシャルワーク実習指導 において、出席やレポートの提出期限を守った者。

関連資格

社会福祉士国家試験受験資格

テキスト

特になし

参考図書・教材等

「福岡県立大学社会福祉学科 ソーシャルワーク実習の手引き」
必要に応じてプリントなどを配布する。

実務経験を生かした授業

各種社会福祉機関・施設・病院等に勤務するソーシャルワーク実習指導者の資格をもつ職員が、実践を踏まえたスーパービジョンを行う。

学習相談・助言体制

担当教員が、随時、相談を受ける。メール等でも、随時、相談・質問を受け付ける。

・DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

D P

知識・技能

(DP2)	・ソーシャルワークの実践に必要な各科目の知識と技術を統合し、社会福祉士としての価値と倫理に基づく支援を実践的に理解することができる。 ・支援を必要とする人や地域の状況を理解し、その生活上の課題(ニーズ)について把握することができる。 ・施設・機関等が地域社会の中で果たす役割を実践的に理解することができる。
-------	---

主体性・多様性・協働性

(DP4)	・ソーシャルワーカーとしての倫理に従って行動する意欲と態度を示すことができる。 ・ソーシャルワーカーとしての専門性を継続的に高めていく意欲と態度を示すことができる。
-------	---

履修目標

授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。

- ・ソーシャルワークに係る知識と技術について、具体的かつ実際に理解し実践できる。
- ・ソーシャルワーカーとしての倫理に従って行動する意欲と態度を、積極的に示すことができる。
- ・ソーシャルワーカーとしての専門性を継続的に高めていく意欲と態度を、積極的に示すことができる。

到達目標

授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。
履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。

- ・ソーシャルワークに係る知識と技術について、具体的かつ実際に理解できる。
- ・ソーシャルワーカーとしての倫理に従って行動する意欲と態度を示すことができる。
- ・ソーシャルワーカーとしての専門性を継続的に高めていく意欲と態度を示すことができる。

成績評価の基準

S: 90 ~ 100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修(自主的な学修)が認められる。
A: 80 ~ 89	履修目標を達成している。
B: 70 ~ 79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C: 60 ~ 69	到達目標を達成している。
不可: ~ 59	到達目標を達成できていない。

・成績評価の方法

評価指標	割合	関連する D P
実習評価票に基づく実習先の評価内容	50	知識・技能(DP2) : 25, 主体性・多様性・協働性(DP4) : 25
実習態度及び実習への参加度	50	知識・技能(DP2) : 25, 主体性・多様性・協働性(DP4) : 25

・授業計画、 ・アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニングの内容
実習指導者の下で社会福祉士の実践及び業務の体験

回	授業計画	
1 ~ 15	授業内容 (担当教員)	本学の実習指定施設である社会福祉施設・機関における実習指導者の具体的な指導の下で、各学生は以下の事項を体験的・実践的に修得する。 (1) 利用者やその関係者(家族・親族、友人等)、施設・事業者・機関・団体、住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションや円滑な人間関係の形成 (2) 利用者やその関係者(家族・親族、友人等)との援助関係の形成 (3) 当該実習先が地域社会の中で果たす役割の理解及び具体的な地域社会への働きかけ (4) 社会福祉士としての職業倫理と組織の一員としての役割と責任の理解 なお、実習中、各学生は、その日の実習内容・考察・質問事項・感想等を毎日実習記録に記載し、振り返りを行う。 また、ソーシャルワーク実習指導担当教員は巡回指導等を通して実習生及び実習指導者との連絡調整を密に行い、実習生の実習状況についての把握とともに実習中の個別指導を十分に行う。
	授業方法 / 進め方	実習 (原則として2年後期の2～3月に56時間かつ7日間以上の実習を、本学の実習指定施設となっている各種の社会福祉施設・機関等において行う。この場合、各学生は原則として同一施設・機関で実習を行う)
	事前・事後学習	・実習日誌の作成(その日の実習内容・考察・質問事項・感想等を毎日実習記録に記載し、振り返りを行う) ・各実習指導者から課された課題(実習指導者の指示の下で行う) ・実習種別ごとに課された実習中に取り組む課題(各種別の担当教員の指示の下で行う)
	アクティブ・ラーニング	発見学習 / 問題解決学習、体験学習 / 調査学習、グループディスカッション / デイバート / グループワーク

備考	実習先や本学の状況により、実習時期及び実習方法等が変更になる可能性がある。
----	---------------------------------------

科目名	ソーシャルワーク実習B		
科目名（英語）	Fieldwork in Social Work B		
担当教員	本郷 秀和、廣田 久美子、村山 浩一郎、奥村 賢一、河野 高志、寺島 正博、岡本 浩美、畑 香理、松岡 佐智、戸丸 純一、山之内 夢		
科目区分	人間社会学部 社会福祉学科、高等学校教諭一種免許（福祉）、社会福祉士国家試験受験資格		
標準履修年次	3年	開講時期	通年
必修・選択	選択	単位	4単位

・科目情報

授業概要

原則として、3年次の8～9月の4～5週間（184時間以上）、本学の実習指定施設となっている各種の社会福祉施設・機関等においてソーシャルワーク実習を行う。この期間、各学生は原則として同一施設・機関で実習を行うが、ソーシャルワーク実習Aで実習を行った施設・機関とは機能が異なる施設・機関で各自、実習を行う。

履修条件 / 授業内容を理解するために必要な知識・技能等

ソーシャルワーク実習指導 及びソーシャルワーク実習Aの単位を取得した者。
 ソーシャルワーク実習指導 において、出席やレポートの提出期限を守った者。

関連資格

社会福祉士国家試験受験資格

テキスト

特になし

参考図書・教材等

「福岡県立大学社会福祉学科 ソーシャルワーク実習の手引き」
 必要に応じてプリントなどを配布する。

実務経験を生かした授業

各種社会福祉機関・施設に勤務する相談援助実習指導者の資格をもつ職員が、実践を踏まえたスーパービジョンを行う。

学習相談・助言体制

担当教員が、随時、相談を受ける。メール等でも、随時、相談・質問を受け付ける。

・DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP

知識・技能

(DP2)	・ソーシャルワークの実践に必要な各科目の知識と技術を統合し、社会福祉士としての価値と倫理に基づく支援を実践的に理解することができる。 ・支援を必要とする人や地域の状況を理解し、その生活上の課題(ニーズ)について把握することができる。 ・生活上の課題(ニーズ)に対応するため、支援を必要とする人の内的資源やフォーマル・インフォーマルな社会資源を活用した支援計画の作成、実施及びその評価を行うことができる。 ・施設・機関等が地域社会の中で果たす役割を実践的に理解することができる。 ・総合的かつ包括的な支援における多職種・多機関、地域住民等との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解することができる。
-------	---

主体性・多様性・協働性

(DP4)	・ソーシャルワーカーとしての倫理に従って行動する意欲と態度を示すことができる。 ・ソーシャルワーカーとしての専門性を継続的に高めていく意欲と態度を示すことができる。
-------	---

履修目標

授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。

ソーシャルワーカーとしての倫理・専門性を理解し、継続的に高めていく積極的な意欲と態度を示すことができる。ソーシャルワーカーに求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得し実践できる。ソーシャルワークに係る知識と技術、関連分野の専門職との連携のあり方について具体的かつ実践的に理解し実践できる。

到達目標

授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。
履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。

ソーシャルワーカーとしての倫理・専門性を理解し、継続的に高めていく意欲と態度を示すことができる。
ソーシャルワーカーに求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を示すことができる。ソーシャルワークに係る知識と技術、関連分野の専門職との連携のあり方について具体的かつ実際に理解し説明できる。

成績評価の基準

S:90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修(自主的な学修)が認められる。
A:80～89	履修目標を達成している。
B:70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C:60～69	到達目標を達成している。
不可:～59	到達目標を達成できていない。

・成績評価の方法

評価指標	割合	関連する D P
実習評価票に基づく実習先の評価内容	50	知識・技能(DP2):25, 主体性・多様性・協働性(DP4):25
実習態度及び実習への参加度	50	知識・技能(DP2):25, 主体性・多様性・協働性(DP4):25

・授業計画、 ・アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニングの内容	
実習指導者の指導の下で、社会福祉士の実践及び業務の体験	
回	授業計画

1 ~ 15	授業内容（担当教員）	本学の実習指定施設である社会福祉施設・機関における実習指導者の具体的な指導の下で、各学生は以下の事項を体験的・実践的に修得する。 利用者やその関係者(家族・親族、友人等)、施設・事業者・機関・団体、住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションや円滑な人間関係の形成 利用者やその関係者(家族・親族、友人等)との援助関係の形成 利用者や地域の状況を理解し、その生活上の課題(ニーズ)の把握、支援計画の作成と実施及び評価 多職種連携及びチームアプローチの実践的理解 当該実習先が地域社会の中で果たす役割の理解及び具体的な地域社会への働きかけ 地域における分野横断的・業種横断的な関係形成と社会資源の活用・調整・開発に関する理解 施設・事業者・機関・団体等の経営やサービスの管理運営の実際(チームマネジメントや人材管理の理解を含む。) 社会福祉士としての職業倫理と組織の一員としての役割と責任の理解 ソーシャルワーク実践に求められる以下の技術の実践的理解 ・アウトリーチ ・ネットワーキング ・コーディネーション ・ネゴシエーション ・ファシリテーション ・プレゼンテーション ・ソーシャルアクション
	授業方法 / 進め方	実習 (原則として3年次の8～9月に184時間かつ23日以上の実習を本学の実習指定施設となっている各種の社会福祉施設・機関等において行う。この場合、各学生は原則として同一施設・機関で実習を行う)
	事前・事後学習	・実習日誌の作成(その日の実習内容・考察・質問事項・感想等を毎日実習記録に記載し、振り返りを行う) ・各実習指導者から課された課題(実習指導者の指示の下で行う) ・実習種別ごとに課された実習中に取り組む課題(各種別の担当教員の指示の下で行う)
	アクティブ・ラーニング	発見学習 / 問題解決学習、体験学習 / 調査学習、グループディスカッション / デベート / グループワーク
備考	実習先や本学の状況により、実習時期及び実習方法等が変更になる可能性がある。	

科目名	家族心理学（社会・集団・家族心理学）		
科目名（英語）	Family Psychology (Social, Group, and Family Psychology)		
担当教員	吉岡 和子		
科目区分	人間社会学部 人間形成学科、公認心理師国家試験受験資格		
標準履修年次	4 年	開講時期	前期
必修・選択	選択	単位	2単位

・科目情報

授業概要

1. 家族の問題に心理学的見地から取り組むことの必要性が、ますます高まっています。現代家族が直面している心理的な諸問題に対する理解を深めるために、家族心理学の基本的枠組みや家族にかかわる心理的諸問題について取り上げます。
2. 家族への心理臨床的介入に関するアプローチを学ぶと共に、臨床事例のなかで家族についての思いに触れることで、各自が家族についての体験を再考し、家族についての考えを深める機会になればと思います。

履修条件 / 授業内容を理解するために必要な知識・技能等

なし

関連資格

公認心理師国家試験受験資格、認定心理士

テキスト

家族の心理 第2版 家族への理解を深めるために（平木典子・中釜洋子・藤田博康・野末武義共著 サイエンス社）

参考図書・教材等

家族の心理 - 変わる家族の新しいかたち（小田切紀子・野口康彦・青木聡編 金剛出版）
 家族心理学入門（岡堂哲雄編 培風館）
 その他、授業中に紹介及び適宜配布する。

実務経験を生かした授業

医療機関、心理教育相談室等で家族への心理援助に従事した経験を生かして授業を行う。

学習相談・助言体制

基本的に、質問等を書く出席レポートに記入してもらい、授業中に回答していきます。
 さらに詳細な質問が必要な場合は、授業の前後やメール（yoshioka@fukuoka-pu.ac.jp）で質問時間を予約してください。

・DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP

知識・技能

(DP1)	・ 家族に関わっていくときに必要な視点がどのようなものであるかを説明できる。 ・ 実際の事例の中で、その視点をいかに生かすのかについて意見を述べることができる。 ・ 自分なりの家族観について意見を述べることができる。
-------	--

履修目標

授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。

自分の家族体験も再考した上で、十分に自分の考えを述べることができる。

到達目標

授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。
 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。

基本的な理解を述べることができる。

成績評価の基準

S:90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修(自主的な学修)が認められる。
A:80～89	履修目標を達成している。
B:70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。

C:60～69	到達目標を達成している。
不可:～59	到達目標を達成できていない。

・成績評価の方法

評価指標	割合	関連するDP
授業への参加度	30	知識・技能(DP1):30
発表	40	知識・技能(DP1):40
まとめレポート	30	知識・技能(DP1):30
備考	授業への参加度は、出席レポート内容で評価します。	

・授業計画、 ・アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニングの内容
第3回から第15回に意見交換を行う。

回	授業計画	
1	授業内容(担当教員)	ガイダンス
	授業方法/進め方	講義全体を概観した上で、各自興味のある領域や事例を選び担当する。
	事前・事後学習	各自、発表準備を行う。
	アクティブ・ラーニング	その他
2	授業内容(担当教員)	家族とは何か(第1章)
	授業方法/進め方	講義
	事前・事後学習	各自、発表準備を行う。
	アクティブ・ラーニング	その他
3	授業内容(担当教員)	家族の健康性とは(第2章)
	授業方法/進め方	発表者が事前に担当する箇所をまとめて発表する。 発表者が事前に担当する章からキーワードを3つ選んで調べて発表。 参加者と共有したいテーマを提出する。 各自が感想や疑問を発表し、発表者からのテーマについての考えを述べる。 適宜解説を加えたり、参考資料を紹介したりDVDを視聴したりしながら、理解を深めていく。
	事前・事後学習	・発表者は、その他の受講者に内容がよく伝わるように発表準備をしてください。 ・また、発表者以外の受講者も、その場ではじめて聞くのではなく、前もってテキストや資料を熟読し、自分なりの理解や疑問点について考えておくと、より理解が深まるのでそのように予習してください。 ・以上のような予習に加えて、具体的ななかかわり方も取り上げるのでそれについては適宜復習してください。 ・また、疑問がある場合は適宜質問してください。
	アクティブ・ラーニング	その他
4	授業内容(担当教員)	家族づくりの準備(第3章 3-1～3-3)
	授業方法/進め方	4～14回:同上
	事前・事後学習	4～14回:同上
	アクティブ・ラーニング	その他
5	授業内容(担当教員)	家族づくりの準備(第3章 3-4～3-5)
	アクティブ・ラーニング	その他

6	授業内容（担当教員）	夫婦の発達とは（第4章）
	アクティブ・ラーニング	その他
7	授業内容（担当教員）	子どもが育つ場としての家族（第5章）
	アクティブ・ラーニング	その他
8	授業内容（担当教員）	変化する社会の中の家族（第6章）
	アクティブ・ラーニング	その他
9	授業内容（担当教員）	家族理解に役立つ臨床理論（第7章）
	アクティブ・ラーニング	その他
10	授業内容（担当教員）	家族の変化に役立つ臨床的援助技法（第8章）
	アクティブ・ラーニング	その他
11	授業内容（担当教員）	家族への臨床的アプローチの実際 心理援助の形態（第9章 9-1）
	アクティブ・ラーニング	その他
12	授業内容（担当教員）	家族への臨床的アプローチの実際 家族にふりかかるストレス／喪失に対 する臨床的アプローチ（第9章 9-2 / 9-5）
	アクティブ・ラーニング	その他
13	授業内容（担当教員）	家族への臨床的アプローチの実際 家族間に起こる暴力に対する臨 床的ア プローチ（9章 9-3）
	アクティブ・ラーニング	その他
14	授業内容（担当教員）	家族への臨床的アプローチの実際 思春期・青年期の子どもがいる 家族への 臨床的アプローチ（9章 9-4）
	アクティブ・ラーニング	その他
15	授業内容（担当教員）	まとめ
	アクティブ・ラーニング	その他
備考	受講者には別途進め方の詳細をお知らせします。	

科目名	司法・犯罪心理学		
科目名（英語）	Forensic and Criminal Psychology		
担当教員	中村 博美		
科目区分	人間社会学部 人間形成学科、公認心理師国家試験受験資格		
標準履修年次	2～4年	開講時期	前期集中
必修・選択	選択	単位	2単位

・科目情報

授業概要

司法・犯罪心理学に関する基礎知識の習得と心理的支援を実施するに際しての多様な視点を共に考えます。概要は以下のとおりです。

犯罪・非行の概念、現状、犯罪・非行理論

犯罪者、非行少年、触法精神障害者の処遇（法や制度・手続きを含む）と心理的背景

司法犯罪領域で働く職員（家裁調査官・法務教官・法務技官・保護観察官）が行う心理的支援の手法や理論

司法分野の各種制度（犯罪被害者支援、裁判員制度、家事調停等）における心理的支援

犯罪・非行を抑止するための処遇の実際と議論

履修条件 / 授業内容を理解するために必要な知識・技能等

臨床心理学の基礎知識を身に付けていることが必要です。

テキスト

特定のテキストは使用せず、主にパワーポイントや映像資料等を使って講義を行います。

参考図書・教材等

岡本吉生編「司法・犯罪心理学」

野島一彦他監修「公認心理師の基本を学ぶテキスト」第19巻岡本遠見書房

実務経験を生かした授業

保護観察所（観察官）、刑務所（刑務官）、少年院（教官・院長）等の司法領域の勤務を30年経験しており、犯罪司法領域における心理的支援の実際や困難性そしてやりがいを講義をとおして考えていきたいと思います。また、人事部職員として採用試験・採用事務・採用面接を行ってきた経験から司法犯罪分野で職務上に求められる視点についても講義の中で討議していきます。

授業中の撮影

可

学習相談・助言体制

講義中及び講義の前後に個別の質問・相談に応じます。（質問内容は幅広に対応することを予定しています。）

・DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP

知識・技能

(DP1)	司法・犯罪心理学の基本的な知識を有している。
-------	------------------------

履修目標

授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。

講義で伝える情報を踏まえ、自ら情報を検索、吟味し、自らの意見を形成する姿勢を身につける。

到達目標

授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。
履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。

講義内容を理解し、自身で検索して複数の情報を得、主体的に判断する力を養う。

成績評価の基準

S:90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修(自主的な学修)が認められる。
A:80～89	履修目標を達成している。
B:70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。

C:60～69	到達目標を達成している。
不可:～59	到達目標を達成できていない。

・成績評価の方法

評価指標	割合	関連する D P
定期試験	60	知識・技能(DP1)：60
授業内レポート・小テスト	30	知識・技能(DP1)：30
発表	10	知識・技能(DP1)：10
備考	公欠対応は、6回分まで可能といたします。	

・授業計画、・アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニングの内容
問題解決学習 グループディスカッション

回	授業計画	
1	授業内容（担当教員）	犯罪・非行とは何か
	授業方法／進め方	講義・ディスカッション
	事前・事後学習	講義項目について予め調べておく。講義後は、講義内容及び自らの意見等を整理しておく。
	アクティブ・ラーニング	発見学習／問題解決学習
2	授業内容（担当教員）	犯罪・非行研究の歴史と主な理論
	授業方法／進め方	講義とディスカッション
	事前・事後学習	講義項目について予め調べておく。講義後は、講義内容及び自らの意見等を整理しておく。
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション／レポート／グループ・ワーク
3	授業内容（担当教員）	犯罪・非行研究の歴史と主な理論 ケースを通し非行理論を理解
	授業方法／進め方	講義とディスカッション 事例について犯罪理論で考えてみる。
	事前・事後学習	講義項目について予め調べておく。講義後は、講義内容及び自らの意見等を整理しておく。
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション／レポート／グループ・ワーク
4	授業内容（担当教員）	少年事件における逮捕から審判までの手続き及び制度
	授業方法／進め方	講義とディスカッション 加害者と被害者の間
	事前・事後学習	講義項目について予め調べておく。講義後は、講義内容及び自らの意見等を整理しておく。
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション／レポート／グループ・ワーク
5	授業内容（担当教員）	司法領域におけるアセスメント 少年鑑別所における心理職業務 (ゲストスピーカー)
	授業方法／進め方	講義とディスカッション 事例についてアセスメントを学ぶ ゲストスピーカーを迎えて
	事前・事後学習	講義項目について予め調べておく。講義後は、講義内容及び自らの意見等を整理しておく。
	アクティブ・ラーニング	発見学習／問題解決学習

6	授業内容（担当教員）	非行の底にあるもの
	授業方法／進め方	講義とディスカッション 「薬物の何がいけないの？」
	事前・事後学習	講義項目について予め調べておく。講義後は、講義内容及び自らの意見等を整理しておく。
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション／ディベート／グループ・ワーク
7	授業内容（担当教員）	少年院における処遇（施設内処遇） 法務教官・刑務官の業務
	授業方法／進め方	講義とディスカッション 法務教官として模擬教育 計画作成
	事前・事後学習	講義項目について予め調べておく。講義後は、講義内容及び自らの意見等を整理しておく。
	アクティブ・ラーニング	体験学習／調査学習
8	授業内容（担当教員）	保護観察所における処遇（社会内処遇） 保護観察官業務（ゲストスピーカー）
	授業方法／進め方	講義とディスカッション 観察官として模擬環境 調整
	事前・事後学習	講義項目について予め調べておく。講義後は、講義内容及び自らの意見等を整理しておく。
	アクティブ・ラーニング	体験学習／調査学習
9 [メディア]	授業内容（担当教員）	前半のまとめと質疑応答 逸脱状況と当事者の理解
	授業方法／進め方	司法行政における統計の意義 オンデマンド方式で実施する。
	事前・事後学習	講義項目について予め調べておく。講義後は、講義内容及び自らの意見等を整理しておく。
	アクティブ・ラーニング	発見学習／問題解決学習
10 [メディア]	授業内容（担当教員）	裁判員裁判・被害者支援制度 加害者の事件否認への対応
	授業方法／進め方	オンデマンド方式で実施する。
	事前・事後学習	講義項目について予め調べておく。講義後は、講義内容及び自らの意見等を整理しておく。
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション／ディベート／グループ・ワーク
11	授業内容（担当教員）	犯罪の背景（アディクション） 引き、性犯、薬物 万
	授業方法／進め方	講義とディスカッション 家族がゲーム依存、どう対応？
	事前・事後学習	講義項目について予め調べておく。講義後は、講義内容及び自らの意見等を整理しておく。
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション／ディベート／グループ・ワーク
12	授業内容（担当教員）	多様な改善指導（成人）
	授業方法／進め方	講義とディスカッション GW：ストレス対応どうしてる？
	事前・事後学習	講義項目について予め調べておく。講義後は、講義内容及び自らの意見等を整理しておく。
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション／ディベート／グループ・ワーク

13	授業内容（担当教員）	学校現場における非行対応
	授業方法／進め方	講義とディスカッション 非行問題における保護者対応
	事前・事後学習	講義項目について予め調べておく。講義後は、講義内容及び自らの意見等を整理しておく。
	アクティブ・ラーニング	発見学習／問題解決学習
14	授業内容（担当教員）	動機付け面接
	授業方法／進め方	講義とディスカッション 就活しないといけないんだけど
	事前・事後学習	講義項目について予め調べておく。講義後は、講義内容及び自らの意見等を整理しておく。
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション／ディベート／グループワーク
15	授業内容（担当教員）	司法における心理的支援
	授業方法／進め方	講義とディスカッション 講義全体に対する質疑
	事前・事後学習	講義項目について予め調べておく。講義後は、講義内容及び自らの意見等を整理しておく。
	アクティブ・ラーニング	発見学習／問題解決学習

科目名	健康・医療心理学		
科目名（英語）	Health and Medical Psychology		
担当教員	小山 憲一郎		
科目区分	人間社会学部 人間形成学科、公認心理師国家試験受験資格		
標準履修年次	2～4年	開講時期	後期
必修・選択	選択	単位	2単位

・科目情報

授業概要

こことからだは密接に影響しあっているものであり、日常生活におけるストレスは、その双方に影響を与える。こころの問題や身体症状に取り組む時には、その密接な関連を視野に入れ理解しておくことが必要である。そこで、この講義では具体的には以下のことを学習し、理解を深める。 1. 心身医学的、また、心理臨床的な臨床実践の中で、こことからだの関係はどのように理解され、どのように身体症状に取り組まれてきたかを学習する。 2. 心身医学領域においては認知行動療法が心理療法の主流となりつつあり、疾患ごとの技法パッケージが作られている。しかしながら技法に目を奪われると認知行動療法はうまくいかないことが多々ある。そのため、伝統的な心理療法との共通部分である技法以前のクライエントーセラピスト関係の重要性を理解した上で、専門的な技法の知識と共にそれらの導入について学習する。

履修条件 / 授業内容を理解するために必要な知識・技能等

特記なし

関連資格

公認心理師

テキスト

毎回資料を配布します。

参考図書・教材等

参考文献：坂本真士「臨床に活かす基礎心理学」東京大学出版 2010、熊野宏明「新世代の認知行動療法」日本評論社 2012 山上敏子「方法としての行動療法」金剛出版 2007 ヘルツォーク「心身医学の最前線 医療と心理療法の新たな展開」創元社 2015

公認心理師カリキュラム準拠 健康・医療心理学 宮脇 稔（編集）、大野 太郎（編集）、藤本 豊（編集）、松野 俊夫（編集）医歯薬出版

実務経験を生かした授業

医療領域で、心理支援の実務経験のある教員が担当します。

授業中の撮影

対面授業免除者が出た場合あり。

学習相談・助言体制

毎回の授業後、e-learning上でミニレポートを求めます。その中で質問を書いてください。個別に返答します。また、全体で共有する価値のある質問は、次回の授業で扱います。質問者のプライバシーは守ります。

・DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

D P

知識・技能

(DP1)	伝統的心理臨床の流派と認知行動療法について共通部分と相違点について説明することができる。 からだに対するこころの影響やそれを踏まえた心理臨床的な実践について説明することができる。
-------	--

履修目標

授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。

生物心理社会モデルに基づき、心理的援助の方針を検討するための基礎知識を身に着ける。

到達目標

授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。
履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。

健康・医療領域における心理的支援の対象理解の視点と方法、実践モデルとアプローチの内容、方法に関する用語の意味を理解できる。

成績評価の基準

S: 90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修(自主的な学修)が認められる。
A: 80～89	履修目標を達成している。
B: 70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C: 60～69	到達目標を達成している。
不可: ～59	到達目標を達成できていない。

・成績評価の方法

評価指標	割合	関連する D P
授業内レポート・小テスト	40	知識・技能(DP1)：40
授業外レポート・宿題	60	知識・技能(DP1)：60

・授業計画、 ・アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニングの内容

回	授業計画	
1	授業内容（担当教員）	ガイダンス からだへのこころの影響（心理社会的ストレスモデル・臨床 に活かす基礎心理学）
	授業方法／進め方	講義
	事前・事後学習	e-learningに今回の講義のハイライト、意見、感想、質問をまとめたミニレポートを提出。
2	授業内容（担当教員）	医療現場における心理社会的課題及び必要な支援
	授業方法／進め方	講義
	事前・事後学習	e-learningに今回の講義のハイライト、意見、感想、質問をまとめたミニレポートを提出。
3	授業内容（担当教員）	保健活動の現場における心理社会的課題及び必要な支援 トランスセオレティカルモデルについて
	授業方法／進め方	講義
	事前・事後学習	e-learningに今回の講義のハイライト、意見、感想、質問をまとめたミニレポートを提出。
4	授業内容（担当教員）	第一世代の認知行動療法；行動療法（応用行動分析）
	授業方法／進め方	講義
	事前・事後学習	e-learningに今回の講義のハイライト、意見、感想、質問をまとめたミニレポートを提出。
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/デベート/グループワーク
5	授業内容（担当教員）	第二世代の認知行動療法；認知療法—精神分析と行動療法をつなぐ—
	授業方法／進め方	講義
	事前・事後学習	e-learningに今回の講義のハイライト、意見、感想、質問をまとめたミニレポートを提出。
6	授業内容（担当教員）	認知行動療法の発展（行動療法と認知療法の出会いとストレスマネジメント）
	授業方法／進め方	講義
	事前・事後学習	e-learningに今回の講義のハイライト、意見、感想、質問をまとめたミニレポートを提出。

7	授業内容（担当教員）	リラクセーション（呼吸法・自律訓練法・漸進性弛緩法）
	授業方法／進め方	講義
	事前・事後学習	e-learningに今回の講義のハイライト、意見、感想、質問をまとめたミニレポートを提出。
	アクティブ・ラーニング	体験学習／調査学習
8	授業内容（担当教員）	認知行動療法カウンセリングの基礎とケースフォーミュレーション
	授業方法／進め方	講義
	事前・事後学習	e-learningに今回の講義のハイライト、意見、感想、質問をまとめたミニレポートを提出。
9	授業内容（担当教員）	第三世代の認知行動療法の導入（マインドフルネスとアクセプタンス&コミットメント：カウンセリングの基礎とケースフォーミュレーション）
	授業方法／進め方	講義
	事前・事後学習	e-learningに今回の講義のハイライト、意見、感想、質問をまとめたミニレポートを提出。
	アクティブ・ラーニング	体験学習／調査学習
10	授業内容（担当教員）	第三世代の認知行動療法2（マインドフルネスとアクセプタンス&コミットメントを活かした介入技法）
	アクティブ・ラーニング	体験学習／調査学習
11	授業内容（担当教員）	うつ病に対する認知行動療法（心理教育／セルフモニタリング／行動活性／認知再構成／マインドフルネス等）
	アクティブ・ラーニング	体験学習／調査学習
12	授業内容（担当教員）	不安症および災害関連のPTSDに対する認知行動療法（心理教育／セルフモニタリング／リラクセーション／エクスポージャー／マインドフルネス）
13	授業内容（担当教員）	ストレス関連疾患（心身症）に対する認知行動療法（心理教育／セルフモニタリング／不安管理訓練）
14	授業内容（担当教員）	認知行動療法を用いた医療現場での多職種連携
15	授業内容（担当教員）	まとめ

科目名	公認心理師の職責		
科目名（英語）	Professionalism of Licensed Psychologists		
担当教員	小嶋 秀幹、小山 憲一郎、吉岡 和子、岩橋 宗哉、池 志保		
科目区分	人間社会学部 人間形成学科、公認心理師国家試験受験資格		
標準履修年次	2～4年	開講時期	後期
必修・選択	選択	単位	2単位

・科目情報

授業概要

具体的な学習内容は、以下の8点である。

公認心理師の役割 公認心理師の法的義務及び倫理 心理に関する支援を要する者等の安全の確保 情報の適切な取扱い 保健医療、福祉、教育その他の分野における公認心理師の具体的な業務 自己課題発見・解決能力 生涯学習への準備 多職種連携及び地域連携

履修条件 / 授業内容を理解するために必要な知識・技能等

心理コースの学生

関連資格

公認心理師国家試験受験資格

テキスト

野島一彦編『公認心理師の基礎と実践シリーズ - 公認心理師の職責』遠見書房

参考図書・教材等

「公認心理師現任者講習会テキスト〔2019年版〕」一般財団法人日本心理研修センター監修 金剛出版
「臨床心理学：シリーズ心理学と仕事8」（2017）太田信夫（監修）・高橋美保・下山晴彦（編）北大路書房
「心理職の専門性-公認心理師の職責」（2020）NHK出版
その他は講義中に紹介

実務経験を生かした授業

心理支援に従事した経験を生かして授業を行う。

学習相談・助言体制

基本的に、授業の最後に質問等を書く出席レポートに記入してもらい、授業中に回答していきます。
さらに詳細な質問が必要な場合は、授業の前後やメールで質問時間を予約してください。

・DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

D P

知識・技能

(DP1)	- 公認心理師の業務と役割について概説できる。 - 公認心理師の法的義務や倫理について概説できる。 - 公認心理師が活動する諸分野と多職種連携について説明できる。
-------	---

履修目標

授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。

- ・正確に理解した上で自らの考えを分かりやすくまとめることができる。

到達目標

授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。
履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。

- ・基本的事項を理解している。

成績評価の基準

S:90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修(自主的な学修)が認められる。
A:80～89	履修目標を達成している。
B:70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C:60～69	到達目標を達成している。

不可：～59 到達目標を達成できていない。

・成績評価の方法

評価指標	割合	関連するD P
授業への参加度	45	知識・技能(DP1)：45
まとめレポート	55	知識・技能(DP1)：55
備考	授業への参加度は、授業の最後に質問等を書く出席レポート内容で評価します。	

・授業計画、・アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニングの内容

必要に応じて、適宜、下記内容を行う。

回	授業計画	
1	授業内容（担当教員）	・公認心理師の役割 ・情報の適切な取り扱いについて
	授業方法／進め方	講義・演習（吉岡）
	事前・事後学習	・テキスト、参考文献等を読み、自分なりの理解や疑問点について考えておくと、より理解が深まるのでそのように予習してください。 ・以上のような予習に加えて、適宜復習してください。 ・また、疑問がある場合は適宜質問してください。
2	授業内容（担当教員）	・保健医療分野における具体的な業務 ・支援者としての自己課題発見・解決能力
	授業方法／進め方	講義・演習（岩橋）
	事前・事後学習	2～15回 同上
3	授業内容（担当教員）	・保健医療分野における具体的な業務 ・支援者としての自己課題発見・解決能力
	授業方法／進め方	講義・演習（岩橋）
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/ディベート/グループ・ワーク
4	授業内容（担当教員）	・保健医療分野における具体的な業務 ・支援者としての自己課題発見・解決能力
	授業方法／進め方	講義・演習（岩橋）
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/ディベート/グループ・ワーク
5	授業内容（担当教員）	・産業・労働分野における具体的な業務 ・多職種連携と地域連携
	授業方法／進め方	講義・演習（小嶋）
6	授業内容（担当教員）	・産業・労働分野における具体的な業務 ・多職種連携と地域連携
	授業方法／進め方	講義・演習（小嶋）
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/ディベート/グループ・ワーク
7	授業内容（担当教員）	・産業・労働分野における具体的な業務 ・多職種連携と地域連携
	授業方法／進め方	講義・演習（小嶋）
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/ディベート/グループ・ワーク
8	授業内容（担当教員）	・福祉分野における具体的な業務 ・クライアント/患者らの安全の確保のために
	授業方法／進め方	講義・演習（小山）

9	授業内容（担当教員）	・福祉分野における具体的な業務 ・クライアント／患者らの安全の確保のために
	授業方法／進め方	講義・演習（小山）
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション／ディベート／グループ・ワーク
10	授業内容（担当教員）	・福祉分野における具体的な業務 ・クライアント／患者らの安全の確保のために
	授業方法／進め方	講義・演習（小山）
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション／ディベート／グループ・ワーク
11	授業内容（担当教員）	・教育分野における具体的な業務 ・公認心理師としての法的義務・倫理
	授業方法／進め方	講義・演習（池）
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション／ディベート／グループ・ワーク
12 [メディア]	授業内容（担当教員）	・教育分野における具体的な業務 ・公認心理師としての法的義務・倫理
	授業方法／進め方	オンデマンド形式で実施する（池）
13 [メディア]	授業内容（担当教員）	・教育分野における具体的な業務 ・公認心理師としての法的義務・倫理
	授業方法／進め方	オンデマンド形式で実施する（池）
14	授業内容（担当教員）	・司法・犯罪分野における具体的な業務
	授業方法／進め方	講義・演習（吉岡）
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション／ディベート／グループ・ワーク
15	授業内容（担当教員）	・生涯学習への準備 ・公認心理師の今後の展開
	授業方法／進め方	講義・演習（吉岡）
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション／ディベート／グループ・ワーク

科目名	子どもの健康と安全		
科目名（英語）	Child Health and Safety		
担当教員	田中 美樹、吉田 麻美、吉川 未桜		
科目区分	人間社会学部 人間形成学科、保育士		
標準履修年次	2～3年	開講時期	前期
必修・選択	選択	単位	1単位

・科目情報

授業概要

子どもの保健で修得した学習を基礎にして、保育における保健的観点を踏まえた保育環境や援助について理解するとともに、関連するガイドラインや近年のデータ等を踏まえ、保育における衛生管理・事故防止および安全対策・危機管理・災害対策、また子どもの体調不良等に対する適切な対応や保育における感染症対策について具体的に理解し実践する。さらに、子どもの発達や状態等に即した適切な対応・子どもの健康および安全の管理に関わる組織的取り組みや保健活動の計画・評価等について具体的に理解する。

履修条件 / 授業内容を理解するために必要な知識・技能等

「子どもの保健」で学んだ子どもの発達・発育や心身の健康状態および疾病予防・対応に関する知識

関連資格

保育士資格

幼稚園教諭一種免許

テキスト

各回の講義内で別途資料を配布する。

参考図書・教材等

「子どもの保健」のテキスト・配布資料

実務経験を生かした授業

小児病棟で看護師として実務経験を有する教員が、子どもの成長発達および状況を考慮しながら演習を行う。

授業中の撮影

なし

学習相談・助言体制

質問等はGoogleフォームで受け付け、次回授業時に回答します。

授業中・後に直接相談を受け付けますが、メールでも対応します。

研究室へ相談に来られる際は必ずアポイントを取ってください。

・DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

D P

知識・技能

(DP1)	保育所、福祉現場で子どもを取り巻く環境の変化に応じたさまざまな保健活動についての知識を説明することができる。
(DP2)	子どもの体調不良や発育の変化に気づくために必要な保健・安全管理のスキルを身に付けることができる。 子どもの保健・安全管理スキルについて根拠を探究しながら実践できる。

思考・判断・表現

(DP3)	事例の中の子どもの状況について、問題解決に向けアセスメントし具体策を考えることができる。 自らの考えを適切に発表するとともに、他者の発表を尊重した討議ができる。
-------	---

主体性・多様性・協働性

(DP4)	疾患や障がいをもつ子どもや災害時の保育において、隣接諸機関・他職種との協働する力を身につけることができる。
-------	---

履修目標

授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。

子どもの健康を守り高めるために必要な保健的観点を踏まえた援助方法（体調不良時の健康観察方法や対応方法、救急時の対応・応急処置、心肺蘇生法、感染症対策、事故防止・安全対策、危機管理など）の根拠を理解し、自ら考えをまとめ、実践することができる。さらに、安全面や衛生面に配慮した環境整備や組織的管理について具体的に計画し、評価できる。

到達目標

授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。
履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。

子どもの健康を守り高めるために必要な保健的観点を踏まえた援助方法（体調不良時の健康観察方法や対応方法、救急時の対応・応急処置、心肺蘇生法、感染症対策、事故防止・安全対策、危機管理など）を理解し実践することができる。さらに、安全面や衛生面に配慮した環境整備や組織的管理について理解できる。

成績評価の基準

S: 90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修(自主的な学修)が認められる。

子どもの健康を守り高めるために必要な保健的観点を踏まえた援助方法（体調不良時の健康観察方法や対応方法、救急時の対応・応急処置、心肺蘇生法、感染症対策、事故防止・安全対策、危機管理など）の根拠を理解し、議論を基に主体的に自ら考えをまとめ、実践することができる。さらに、安全面や衛生面に配慮した環境整備や組織的管理について具体的に計画し、評価できる。

A: 80～89 履修目標を達成している。

子どもの健康を守り高めるために必要な保健的観点を踏まえた援助方法（体調不良時の健康観察方法や対応方法、救急時の対応・応急処置、心肺蘇生法、感染症対策、事故防止・安全対策、危機管理など）の根拠を理解し、議論を基に自ら考えをまとめ、実践することができる。さらに、安全面や衛生面に配慮した環境整備や組織的管理について計画し、評価できる。

B: 70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。

子どもの健康を守り高めるために必要な保健的観点を踏まえた援助方法（体調不良時の健康観察方法や対応方法、救急時の対応・応急処置、心肺蘇生法、感染症対策、事故防止・安全対策、危機管理など）の基本を理解し、議論に参加し、実践することができる。さらに、安全面や衛生面に配慮した環境整備や組織的管理の計画・評価について考えまとめることができる。

C: 60～69 到達目標を達成している。

子どもの健康を守り高めるために必要な保健的観点を踏まえた援助方法（体調不良時の健康観察方法や対応方法、救急時の対応・応急処置、心肺蘇生法、感染症対策、事故防止・安全対策、危機管理など）について、アドバイスを受け基本的な実践をすることができる。さらに、安全面や衛生面に配慮した環境整備や組織的管理の計画・評価について指導を受けてまとめることができる。

不可: ～59 到達目標を達成できていない。

子どもの健康を守り高めるために必要な保健的観点を踏まえた援助方法を理解ができず実践できない。さらに、安全面や衛生面に配慮した環境整備や組織的管理についても考えまとめることができない。

・成績評価の方法

評価指標	割合	関連する D P
授業内レポート・小テスト	50	知識・技能(DP1)：20，(DP2)：20，思考・判断・表現(DP3)：10
発表	30	知識・技能(DP1)：10，思考・判断・表現(DP3)：10，主体性・多様性・協働性(DP4)：10
その他：実践	20	知識・技能(DP2)：20
備考	再試験を実施する	

・授業計画、 ・アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニングの内容

各回で提示する問題について解決策を考える。また、演習を通して体験学習を行う。

回	授業計画
---	------

1	授業内容（担当教員）	コースガイダンス 子どもの健康と保育における保健衛生の意義
	授業方法／進め方	講義 演習（グループ・ディスカッション）
	事前・事後学習	事前：ニュース・新聞等で保育所、福祉現場での保健衛生に関する最近の動向について見る。 「子どもの保健」の講義内容を復習する。 事後：実践した内容を復習（技術練習含む）する。
	アクティブ・ラーニング	発見学習／問題解決学習、グループディスカッション／ディベート／グループ・ワーク
2	授業内容（担当教員）	保健計画の作成と活用 保健活動の記録と評価 子どもの身体発育と観察と評価（個別・集団）
	授業方法／進め方	講義・演習
	事前・事後学習	事前：ニュース・新聞等で保育所、福祉現場での保健衛生に関する最近の動向について見る。 「子どもの保健」の講義内容を復習する。 事後：実践した内容を復習（技術練習含む）する。
	アクティブ・ラーニング	発見学習／問題解決学習
3	授業内容（担当教員）	保健的観点を踏まえた保育環境および援助 子どもの生活習慣と心身の健康のための養護
	授業方法／進め方	小テスト（1～2回目の講義内容） 講義・演習
	事前・事後学習	事前：乳幼児の成長・発達に応じた日常生活援助について学習する。 事後：実践した内容を復習（技術練習含む）する。
	アクティブ・ラーニング	発見学習／問題解決学習、体験学習／調査学習、その他
4	授業内容（担当教員）	保健的観点を踏まえた保育環境および援助 清潔の保持（オムツ交換、更衣、歯みがきなど）
	授業方法／進め方	講義・演習
	事前・事後学習	事前：乳幼児の成長・発達に応じた日常生活援助について学習する。 事後：実践した内容を復習（技術練習含む）する。
	アクティブ・ラーニング	発見学習／問題解決学習、体験学習／調査学習、その他
5	授業内容（担当教員）	保健的観点を踏まえた保育環境および援助 子どもの栄養（授乳、離乳食）と援助方法
	授業方法／進め方	講義・演習
	事前・事後学習	事前：乳幼児の成長・発達に応じた日常生活援助について学習する。 事後：実践した内容を復習（技術練習含む）する。
	アクティブ・ラーニング	発見学習／問題解決学習、体験学習／調査学習、その他
6	授業内容（担当教員）	子どもの体調不良時の適切な判断と対応 発熱、脱水、下痢・嘔吐時の観察・判断および対応
	授業方法／進め方	小テスト（3～5回目の講義内容） 講義・演習
	事前・事後学習	事前：乳幼児が罹患しやすい疾患について学習する。 事後：実践した内容を復習（技術練習含む）する。
	アクティブ・ラーニング	発見学習／問題解決学習
7	授業内容（担当教員）	子どもの体調不良時の適切な判断と対応 けいれん、呼吸困難時の観察・判断および対応
	授業方法／進め方	講義・演習
	事前・事後学習	事前：乳幼児が罹患しやすい疾患について学習する。 事後：実践した内容を復習（技術練習含む）する。
	アクティブ・ラーニング	発見学習／問題解決学習

8	授業内容（担当教員）	子どもの体調不良時の適切な判断と対応（応急手当など）
	授業方法／進め方	演習 グループワーク
	事前・事後学習	事前：乳幼児が罹患しやすい疾患について学習する。 事後：実践した内容を復習（技術練習含む）する。
	アクティブ・ラーニング	発見学習／問題解決学習、グループディスカッション／ディベート／グループ・ワーク
9	授業内容（担当教員）	感染症の予防と対策・保育者の自己管理（手洗い）
	授業方法／進め方	小テスト（6～8回目の講義内容） 演習 グループワーク
	事前・事後学習	子どもが罹りやすい感染症について調べ、学習する。
	アクティブ・ラーニング	発見学習／問題解決学習、グループディスカッション／ディベート／グループ・ワーク
10	授業内容（担当教員）	特別・個別的な配慮が必要な子どもへの対応（慢性疾患・障がい・アレルギーなどをもつ子ども）
	授業方法／進め方	演習 グループワーク
	事前・事後学習	特別な配慮が必要な子どもの特徴（疾患や症状）について調べ学習する。
	アクティブ・ラーニング	発見学習／問題解決学習、体験学習／調査学習、グループディスカッション／ディベート／グループ・ワーク
11	授業内容（担当教員）	子どもの事故防止と安全対策 乳幼児に起こりやすい事故の特徴と予防・対処方法
	授業方法／進め方	小テスト（9～10回目の講義内容） 講義 グループワーク
	事前・事後学習	乳幼児の発達段階を復習した上で、起こりやすい事故について調べ学習する。
	アクティブ・ラーニング	発見学習／問題解決学習、グループディスカッション／ディベート／グループ・ワーク
12	授業内容（担当教員）	子どもの事故防止と安全対策 事故事例をもとにグループワーク
	授業方法／進め方	講義 グループワーク
	事前・事後学習	事例の内容について調べ、意見をまとめる。
	アクティブ・ラーニング	発見学習／問題解決学習、グループディスカッション／ディベート／グループ・ワーク
13	授業内容（担当教員）	子どもの事故防止と安全対策 誤嚥・窒息など事故発生時の処置と心肺蘇生法
	授業方法／進め方	講義 演習
	事前・事後学習	事前：乳幼児の事故について復習する。 事後：実践した内容を復習（技術練習含む）する。
	アクティブ・ラーニング	発見学習／問題解決学習、体験学習／調査学習
14	授業内容（担当教員）	健康・安全管理の実施体制 災害・事故発生時等の組織的な取り組み 保健活動計画の立案と作成・評価
	授業方法／進め方	演習 グループワーク
	事前・事後学習	災害が子どもに与える影響について、ニュースや新聞記事をもとに調べ学習する。
	アクティブ・ラーニング	発見学習／問題解決学習、グループディスカッション／ディベート／グループ・ワーク

15	授業内容（担当教員）	健康・安全管理の実施体制
	授業方法／進め方	小テスト （11～14回目の講義内容） 講義 グループワーク
	事前・事後学習	事前：14回目までの講義・演習の復習
	アクティブ・ラーニング	発見学習／問題解決学習、グループディスカッション／ディベート／グループ・ワーク
備考	授業の順番などは変更になる可能性があります。また、悪天候等により、3～5回程度オンデマンド対応になることもあります。その際はメールで連絡します。	

科目名	子どもの食と栄養		
科目名（英語）	Childhood Food and Nutrition		
担当教員	青木 哲美		
科目区分	人間社会学部 人間形成学科、保育士		
標準履修年次	3～4年	開講時期	通年
必修・選択	選択	単位	2単位

・科目情報

授業概要

子どもの心身の発達に食と栄養は重要な役割を果たしている。胎児期から思春期の各段階に応じた栄養と食生活について学ぶ。食生活環境の変化にともなう子どもの食生活の現状と課題を挙げ、小児期からの「食育」の重要性について理解をし、「食を育む力」の基礎を培い、それをさらに発展させ「生きる力」につなげることができることを目指す。また生活習慣病予防と幼児期からの食の関わりについても述べるようにする。さらに、食物アレルギーについても、発生機序、原因食品、注意点等を知り、症状が出現した場合の緊急対応についても対応出来るようにする。保育者も自らの食生活を振り返り食生活を改善していくことを視野に入れ、子どもとともに食を楽しみながら、子どもの食への関心を育み「食を営む力」を培う「食育」を実践できるようにする。又さらに理解を深め活動展開できるように、演習として教材等の作成、発表を行う。

履修条件 / 授業内容を理解するために必要な知識・技能等

特になし。

関連資格

特になし。

テキスト

「子供の食と栄養」堤ちはる・藤澤由美子（編集）中央法規、2024年2月、2200円（本体 2000円＋税10％）
 [副教材]「新食品成分表F00DS 2024」新食品成分表編集委員会（編集）東京法令出版株式会社、2024年3月、920円（本体 836円＋税10％）

参考図書・教材等

「乳幼児の食育実践へのアプローチ子どもがかがやく」保育所における食育研究会（編）児童育成協会児童給食事業部、2004年9月、1572円（税込み）
 「令和6年度版 食育白書」農林水産省（編）2024年6月、2145円（本体 1950円）
 「元気な脳が君たちの未来をひらく」川島隆太著、くもん出版、2012年、1540円（税込み）
 「子育て・子育てを支援する子どもの食と栄養」堤ちはる・土井正子（編著）萌文書林、2021年11月、2640円（税込み）

実務経験を生かした授業

学校給食での管理栄養士の経験を有し、総合病院管理栄養士として、離乳食、幼児食、学童食の献立作成、小児科の栄養相談等に当たっていた教員が、将来の食習慣にも影響を与える小児期における食の重要性について説明し、生活習慣病予防と幼児期からの食との関わりについて述べる。また食物アレルギーに対応している経験から具体例を提示し、厚生労働省「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」を参考にしながら緊急時個別対応票、経過記録票に実際に記入し対応の仕方や、日常生活への配慮について考える。

授業中の撮影

付加。

学習相談・助言体制

口頭でも質問票でも可。授業終了後、もしくは毎回の授業終了時に書いてもらう「出席カード」にて質問し、次の授業時に質問に答える。

・DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

D P

知識・技能

(DP1)	小児の発育発達における食の意義や基礎的な栄養に関する知識について理解を深め考えることができる。 地域社会における食文化との関わりのなかで食生活体験の重要性を理解し、自らの意見を述べるることができる。
-------	--

(DP2)	小児の発育発達における食の意義や基礎的な栄養に関する知識について説明ができ、教材を作成できる。 地域社会における食文化との関わりにおいて食生活体験の重要性について資料を作成し説明できる。
-------	--

思考・判断・表現

(DP3)	特別な配慮を要する子どもの食の意義と栄養に関する知識を持ち判断力をつけ対応できる。 自らも食生活を振り返りながら、健全な食習慣の確立を図り食育の重要性を理解できる。 グループディスカッションに積極的に参加し、テーマに沿った発言、傾聴ができる。
-------	---

主体性・多様性・協働性

(DP4)	子どもの食と栄養において、保育者として必ず押さえておきたい基本的な事項や特に重要な内容を学んだあと、チームで演習課題に取り組むことで、チーム内の多様な考え方やものの見方について理解し、協働する力を身につけることができる。また、課題を演習した結果を各チームから発表し、全チームで討論することで、主体的に課題に取り組み、より深く多様なものの考え方を理解し協働する力を身につけることができる。
-------	---

履修目標

授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。

発育・発達のめざましい時期の子供の食生活と栄養の特性について理解し、専門知識や技術を活用することができる。また、多様なものの考え方を理解し協働することができる。

到達目標

授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。

履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。

自らの食への知識や食生活を省み、適切な食生活を実践する力を養い、学んだ知識や技術を介し保育の実践活動へ発展させる事が出来る。また、多様なものの考え方を理解し協働することができる。

成績評価の基準

S:90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修(自主的な学修)が認められる。

子供の食生活と栄養の特性について理解したうえで、自らの食への知識や食生活を省み、適切な食生活を実践する力を養い、学んだ知識や技術を保育の実践活動へ発展させる事が出来る。また、多様なものの考え方を理解し協働することができる。

A:80～89 履修目標を達成している。

子供の食生活と栄養の特性について、基本的な専門知識や技術を身に着け、実践できる。また、多様なものの考え方を理解し協働することができる。

B:70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。

子供の食生活と栄養の特性について、基本的な事は理解できている。また、多様なものの考え方を理解し協働することができる。

C:60～69 到達目標を達成している。

子供の食生活と栄養の特性に関する用語の意味が理解できる。また、ある程度多様なものの考え方を理解し協働することができる。

不可:～59 到達目標を達成できていない。

子供の食生活と栄養の特性について理解できていない。また、多様なものの考え方を理解し協働することができない。

・成績評価の方法

評価指標	割合	関連するDP
授業内レポート・小テスト	20	知識・技能(DP1):5, (DP2):5, 思考・判断・表現(DP3):10
授業外レポート・宿題	30	知識・技能(DP1):10, (DP2):10, 思考・判断・表現(DP3):10
発表	40	知識・技能(DP1):10, (DP2):10, 思考・判断・表現(DP3):10, 主体性・多様性・協働性(DP4):10
その他	10	主体性・多様性・協働性(DP4):10

・授業計画、 ・アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニングの内容

個人又は、グループに分かれ与えられた課題について考察し、理解を深める。また、結果を発表することで、保育の現場での、分かりやすいプレゼンテーションの方法を考える。

回	授業計画	
1	授業内容（担当教員）	子どもの健康と食生活の意義 ・子どもの心身の健康と食生活 ・子どもの食生活の現状と課題 [演習] 朝食欠食について
	授業方法 / 進め方	・オリエンテーション ・講義 ・演習
	事前・事後学習	テキスト第1講Step1 Step2演習 1 を予習しておいてください。授業内容について、不明な点、曖昧な点があれば「出席カード」で質問するか、教科書等でさらに調べて理解を深めてください。
	アクティブ・ラーニング	発見学習 / 問題解決学習、グループディスカッション / デバート / グループ・ワーク、その他
2	授業内容（担当教員）	子どもの健康と食生活の意義 ・子どもの健康は妊娠中の 母親の適切な食事から [演習] 食の安全性について
	授業方法 / 進め方	・講義 ・演習
	事前・事後学習	テキスト第1講Step 2 演習 2 Step 3 を予習しておいてください。授業内容について、不明な点、曖昧な点があれば「出席カード」で質問するか、教科書等でさらに調べて理解を深めてください。
	アクティブ・ラーニング	発見学習 / 問題解決学習、グループディスカッション / デバート / グループ・ワーク、その他
3	授業内容（担当教員）	栄養の基本 ・栄養とは ・子どもの栄養の特徴 [演習] 「食べ物ゆくえ」 理解のための絵の作成
	授業方法 / 進め方	・講義 ・演習
	事前・事後学習	テキスト第 2 講Step 1 演習 1 を予習しておいてください。授業内容について、不明な点、曖昧な点があれば「出席カード」で質問するか、教科書等でさらに調べて理解を深めてください。
	アクティブ・ラーニング	発見学習 / 問題解決学習、体験学習 / 調査学習、グループディスカッション / デバート / グループ・ワーク、その他
4	授業内容（担当教員）	栄養の基本 ・人はなぜ太るのか ・脳活動とエネルギー [演習] ・栄養の適量とは ・栄養素摂取について
	授業方法 / 進め方	・講義 ・演習
	事前・事後学習	テキスト第 2 講 Step 2 演習 2, 3 Step 3 を予習しておいてください。授業内容について、不明な点、曖昧な点があれば「出席カード」で質問するか、教科書等でさらに調べて理解を深めてください。
	アクティブ・ラーニング	発見学習 / 問題解決学習、グループディスカッション / デバート / グループ・ワーク、その他

5	授業内容（担当教員）	栄養素の種類とはたらき ・栄養素の種類と働き ・水分代謝 [演習] ・ミネラルの生理作用について
	授業方法 / 進め方	・講義 ・演習
	事前・事後学習	テキスト第3講 Step1Step2演習 1 を予習しておいてください。授業内容について、不明な点、曖昧な点があれば「出席カード」で質問するか、教科書等でさらに調べて理解を深めてください。
	アクティブ・ラーニング	発見学習 / 問題解決学習、グループディスカッション / デバート / グループ・ワーク、その他
6	授業内容（担当教員）	栄養素の種類とはたらき ・カルシウムとピークボーンマス ・機能成分 [演習] ・ビタミンの生理作用について
	授業方法 / 進め方	・講義 ・演習
	事前・事後学習	テキスト第3講Step 2 演習 2 Step 3 を予習しておいてください。授業内容について、不明な点、曖昧な点があれば「出席カード」で質問するか、教科書等でさらに調べて理解を深めてください。
	アクティブ・ラーニング	発見学習 / 問題解決学習、グループディスカッション / デバート / グループ・ワーク、その他
7	授業内容（担当教員）	日本人の食生活の目標 「日本人の食事摂取基準」 「食事バランスガイド」「食生活指針」 [演習] 自分の食生活の確認
	授業方法 / 進め方	・講義 ・演習
	事前・事後学習	テキスト第4講 Step1Step2 演習 1 を予習しておいてください。授業内容について、不明な点、曖昧な点があれば「出席カード」で質問するか、教科書等でさらに調べて理解を深めてください。
	アクティブ・ラーニング	発見学習 / 問題解決学習、グループディスカッション / デバート / グループ・ワーク、その他
8	授業内容（担当教員）	日本人の食生活の目標 「食生活指針」からみる 日本人の食生活の課題 [演習] 自分の食生活の確認
	授業方法 / 進め方	・講義 ・演習 校外実習で休講になった分の補講は、オンデマンド形式の授業を実施します。
	事前・事後学習	テキスト 第4講 Step 2 Step 3 を予習しておいてください。授業内容について、不明な点、曖昧な点があれば「出席カード」で質問するか、教科書等でさらに調べて理解を深めてください。
	アクティブ・ラーニング	発見学習 / 問題解決学習、グループディスカッション / デバート / グループ・ワーク、その他

9	授業内容（担当教員）	献立作成・調理の基本 ・献立作成の基本 ・調理の基本 [演習] 1日分の献立作成
	授業方法 / 進め方	・講義 ・演習 校外実習で休講になった分の補講は、オンデマンド形式の授業を実施します。
	事前・事後学習	テキスト 第5講Step1Step2演習 1 を予習しておいてください。授業内容について、不明な点、曖昧な点があれば「出席カード」で質問するか、教科書等でさらに調べて理解を深めてください。
	アクティブ・ラーニング	発見学習 / 問題解決学習、グループディスカッション / デベート / グループ・ワーク、その他
10 [メディア]	授業内容（担当教員）	献立作成・調理の基本 ・和食：日本人の伝統的食文化 [演習] 郷土料理の紹介
	授業方法 / 進め方	・講義 ・演習
	事前・事後学習	テキスト第5講Step 2 演習2 Step 3 を予習しておいてください。授業内容について、不明な点、曖昧な点があれば「出席カード」で質問するか、教科書等でさらに調べて理解を深めてください。
	アクティブ・ラーニング	発見学習 / 問題解決学習、グループディスカッション / デベート / グループ・ワーク、その他
11 [メディア]	授業内容（担当教員）	乳児期の授乳の意義と食生活 ・乳児期の栄養・食生活の特徴 [演習] 母乳・乳児用調製粉乳 ・牛乳の違いを知る
	授業方法 / 進め方	・講義 ・演習
	事前・事後学習	テキスト第6講Step1Step2演習 1 を予習しておいてください。授業内容について、不明な点、曖昧な点があれば授業中または「出席カード」で質問するか、教科書等でさらに調べて理解を深めてください。
	アクティブ・ラーニング	発見学習 / 問題解決学習、グループディスカッション / デベート / グループ・ワーク、その他
12	授業内容（担当教員）	乳児期の授乳の意義と食生活 ・乳児期の栄養・食生活の特徴 [演習] 乳児用調製粉乳を母乳に ちかづけるための工夫
	授業方法 / 進め方	・講義 ・演習
	事前・事後学習	テキスト第6講Step 2 演習 1 Step 3 を予習しておいてください。授業内容について、不明な点、曖昧な点があれば「出席カード」で質問するか、教科書等でさらに調べて理解を深めてください。
	アクティブ・ラーニング	発見学習 / 問題解決学習、グループディスカッション / デベート / グループ・ワーク、その他

13	授業内容（担当教員）	乳児期の離乳の意義と食生活 ・ 離乳の定義と必要性 [演習] 手づかみ食べの重要性
	授業方法 / 進め方	・ 講義 ・ 演習
	事前・事後学習	テキスト第7講Step1Step2演習 1 を予習しておいてください。授業内容について、不明な点、曖昧な点があれば「出席カード」で質問するか、教科書等でさらに調べて理解を深めてください。
	アクティブ・ラーニング	発見学習 / 問題解決学習、グループディスカッション / デベート / グループ・ワーク、その他
14	授業内容（担当教員）	乳児期の離乳の意義と食生活 ・ 離乳期の食生活の問題点と対応 [演習] 手づかみ食べのすすめ
	授業方法 / 進め方	・ 講義 ・ 演習
	事前・事後学習	テキスト 第7講 Step 2 演習 1 Step 3 を予習しておいてください。授業内容について、不明な点、曖昧な点があれば授業中または「出席カード」で質問するか、教科書等でさらに調べて理解を深めてください。
	アクティブ・ラーニング	発見学習 / 問題解決学習、グループディスカッション / デベート / グループ・ワーク、その他
15	授業内容（担当教員）	幼児期の心身の発達と食生活 ・ 幼児期の成長と発達 ・ 幼児期の栄養 [演習] 3～5才児のお弁当
	授業方法 / 進め方	・ 講義 ・ 演習
	事前・事後学習	テキスト 第8講 Step1 Step2 演習 1 を予習しておいてください。授業内容について、不明な点、曖昧な点があれば授業中または「出席カード」で質問するか、教科書等でさらに調べて理解を深めてください。
	アクティブ・ラーニング	発見学習 / 問題解決学習、グループディスカッション / デベート / グループ・ワーク、その他
16	授業内容（担当教員）	幼児期の心身の発達と食生活 ・ 幼児期の成長と発達 ・ 幼児期の栄養 [演習] おやつのおおきさと家庭支援
	授業方法 / 進め方	・ 講義 ・ 演習
	事前・事後学習	テキスト 第8講 Step 2 演習 2 Step 3 を予習しておいてください。授業内容について、不明な点、曖昧な点があれば授業中または「出席カード」で質問するか、教科書等でさらに調べて理解を深めてください。
	アクティブ・ラーニング	発見学習 / 問題解決学習、グループディスカッション / デベート / グループ・ワーク、その他

17	授業内容（担当教員）	学童期・思春期の心身の発達と 食生活、生涯発達と食生活 ・学童期・思春期の成長と発達 ・生涯発達の考え方 [演習] 学校給食を知る
	授業方法 / 進め方	・講義 ・演習
	事前・事後学習	テキスト 第9講 Step1 Step2 演習 1 を予習しておいてください。授業内容について、不明な点、曖昧な点があれば授業中または「出席カード」で質問するか、教科書等でさらに調べて理解を深めてください。
	アクティブ・ラーニング	発見学習 / 問題解決学習、グループディスカッション / デイバート / グループ・ワーク、その他
18	授業内容（担当教員）	学童期・思春期の心身の発達と 食生活、生涯発達と食生活 ・栄養教諭精度について ・母性保護 [演習] 自分の将来設計と食
	授業方法 / 進め方	・講義 ・演習
	事前・事後学習	テキスト 第9講 Step 2 演習 2 Step 3 を予習しておいてください。授業内容について、不明な点、曖昧な点があれば授業中または「出席カード」で質問するか、教科書等でさらに調べて理解を深めてください。
	アクティブ・ラーニング	発見学習 / 問題解決学習、グループディスカッション / デイバート / グループ・ワーク、その他
19	授業内容（担当教員）	保育における食育の意義・目的 と基本的考え方 ・食育推進のための体制づくり ・食育基本法 [演習] 食育活動と「食育」
	授業方法 / 進め方	・講義 ・演習
	事前・事後学習	テキスト 第10講 Step1 Step2 演習 1 を予習しておいてください。授業内容について、不明な点、曖昧な点があれば授業中または「出席カード」で質問するか、教科書等でさらに調べて理解を深めてください。
	アクティブ・ラーニング	発見学習 / 問題解決学習、グループディスカッション / デイバート / グループ・ワーク、その他

20 [メディア]	授業内容（担当教員）	保育における食育の意義・目的 と基本的考え方 ・第3次食育推進基本計画 [演習] 食育活動と「食育」つづき
	授業方法 / 進め方	・講義 ・演習 校外実習で休講になった分の補講は、オンデマンド授業の形式で行います。
	事前・事後学習	テキスト第10講 Step2 Step3 を予習しておいてください。授業内容について、不明な点、曖昧な点があれば授業中または「出席カード」で質問するか、教科書等でさらに調べて理解を深めてください。
	アクティブ・ラーニング	発見学習 / 問題解決学習、グループディスカッション / デバート / グループ・ワーク、その他
21 [メディア]	授業内容（担当教員）	食育の内容と計画および評価 ・保育の一環としての食育の展開 [演習] 食育の年間計画作成
	授業方法 / 進め方	・講義 ・演習 校外実習で休講になった分の補講は、オンデマンド授業の形式で行います。
	事前・事後学習	テキスト 第11講Step1 Step2演習を予習しておいてください。授業内容について、不明な点、曖昧な点があれば授業中または「出席カード」で質問するか、教科書等でさらに調べて理解を深めてください。
	アクティブ・ラーニング	発見学習 / 問題解決学習、グループディスカッション / デバート / グループ・ワーク、その他
22	授業内容（担当教員）	食育の内容と計画および評価 ・食育の取り組みの視点 [演習] 食育の年間計画作成 つづき
	授業方法 / 進め方	・講義 ・演習
	事前・事後学習	テキスト第11講Step2 演習つづき Step3 を予習しておいてください。授業内容について、不明な点、曖昧な点があれば授業中または「出席カード」で質問するか、教科書等でさらに調べて理解を深めてください。
	アクティブ・ラーニング	発見学習 / 問題解決学習、グループディスカッション / デバート / グループ・ワーク、その他

23	授業内容（担当教員）	地域や家庭と連携した食育の展開 ・ 地域の関係機関との連携 ・ 食育の保護者支援 [演習] 食育と地域連携
	授業方法 / 進め方	・ 講義 ・ 演習
	事前・事後学習	テキスト 第12講 Step1 Step2 演習 1 を予習しておいてください。授業内容について、不明な点、曖昧な点があれば授業中または「出席カード」で質問するか、教科書等でさらに調べて理解を深めてください。
	アクティブ・ラーニング	発見学習 / 問題解決学習、グループディスカッション / デバート / グループ・ワーク、その他
24	授業内容（担当教員）	地域や家庭と連携した食育の展開 ・ 食育支援で役立つ 行動変容の理論やモデル [演習] 保護者への食育の方法
	授業方法 / 進め方	・ 講義 ・ 演習
	事前・事後学習	テキスト 第12講 Step 2 演習 2 Step 3 を予習しておいてください。授業内容について、不明な点、曖昧な点があれば授業中または「出席カード」で質問するか、教科書等でさらに調べて理解を深めてください。
	アクティブ・ラーニング	発見学習 / 問題解決学習、グループディスカッション / デバート / グループ・ワーク、その他
25	授業内容（担当教員）	家庭や児童福祉施設における 食事と栄養 ・ 家庭における食生活上の問題点 ・ 児童福祉施設の特徴 [演習] 3～5 歳児の朝食献立作成
	授業方法 / 進め方	・ 講義 ・ 演習
	事前・事後学習	テキスト 第13講 Step1 Step2 演習 1 を予習しておいてください。授業内容について、不明な点、曖昧な点があれば授業中または「出席カード」で質問するか、教科書等でさらに調べて理解を深めてください。
	アクティブ・ラーニング	発見学習 / 問題解決学習、グループディスカッション / デバート / グループ・ワーク、その他
26	授業内容（担当教員）	家庭や児童福祉施設における 食事と栄養 ・ 施設における衛生管理 ・ 食中毒発生時の対応 [演習] 行事食のポスターづくり
	授業方法 / 進め方	・ 講義 ・ 演習
	事前・事後学習	テキスト 第13講 Step 2 演習 2 Step3を予習しておいてください。授業内容について、不明な点、曖昧な点があれば授業中または「出席カード」で質問するか、教科書等でさらに調べて理解を深めてください。
	アクティブ・ラーニング	発見学習 / 問題解決学習、グループディスカッション / デバート / グループ・ワーク、その他

27	授業内容（担当教員）	特別な配慮を必要とする 子どもの食と栄養 ・子どもの疾病および体調不良の特徴 [演習] 脱水症への対応 記録表づくり
	授業方法 / 進め方	・講義 ・演習
	事前・事後学習	テキスト 第14講 Step1 Step2 演習：準備を予習しておいてください。授業内容について、不明な点、曖昧な点があれば授業中または「出席カード」で質問するか、教科書等でさらに調べて理解を深めてください。
	アクティブ・ラーニング	発見学習 / 問題解決学習、体験学習 / 調査学習、グループディスカッション / デバート / グループ・ワーク、その他
28	授業内容（担当教員）	特別な配慮を必要とする 子どもの食と栄養 ・特別な食事療法が必要な慢性疾患 [演習] 脱水症への対応 実際に体験してみる
	授業方法 / 進め方	・講義 ・演習
	事前・事後学習	テキスト 第14講 Step2 演習 実習 Step3 を予習しておいてください。授業内容について、不明な点、曖昧な点があれば授業中または「出席カード」で質問するか、教科書等でさらに調べて理解を深めてください。
	アクティブ・ラーニング	発見学習 / 問題解決学習、体験学習 / 調査学習、グループディスカッション / デバート / グループ・ワーク、その他
29	授業内容（担当教員）	特別な配慮を必要とする 子どもの食と栄養 ・食物アレルギーのある 子どもへの対応 [演習] アレルギー疾患生活管理指導表作成
	授業方法 / 進め方	・講義 ・演習
	事前・事後学習	テキスト 第15講 Step1 Step2 演習 を予習しておいてください。授業内容について、不明な点、曖昧な点があれば授業中または「出席カード」で質問するか、教科書等でさらに調べて理解を深めてください。
	アクティブ・ラーニング	発見学習 / 問題解決学習、グループディスカッション / デバート / グループ・ワーク、その他

30	授業内容（担当教員）	特別な配慮を必要とする 子どもの食と栄養 ・食物アレルギーのある子ども への生活への配慮 [演習] 緊急時個別対応表・ 経過記録表作成
	授業方法 / 進め方	・講義 ・演習
	事前・事後学習	テキスト 第15講 Step2 演習 Step3を予習しておいてください。授業内容について、不明な点、曖昧な点があれば授業中または「出席カード」で質問するか、教科書等でさらに調べて理解を深めてください。
	アクティブ・ラーニング	発見学習 / 問題解決学習、体験学習 / 調査学習、グループディスカッション / デイバート / グループワーク、その他
備考	校外実習で休講となった授業の補講は、基本オンデマンド授業の形式で行います。（オンデマンド授業の日程は、実習の予定により変更となります）	

科目名	子ども家庭支援論		
科目名（英語）	Family and Child Support Theory		
担当教員	杉野 寿子		
科目区分	人間社会学部 人間形成学科、保育士		
標準履修年次	2～3年	開講時期	後期
必修・選択	選択	単位	2単位

・科目情報

授業概要

子育て家庭に対する支援の意義・目的、特に保育の専門性を活かした子ども家庭支援の意義を理解し、子ども家庭に対する支援の体制や家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と関係機関との連携および現状と課題について学ぶ。

履修条件 / 授業内容を理解するために必要な知識・技能等

「社会福祉」を履修済みまたは履修中であること。

関連資格

保育士必修科目

テキスト

なし

参考図書・教材等

授業にて紹介する

実務経験を生かした授業

子どもと家庭への相談援助経験から、実際の支援を解説しながら講義する。

学習相談・助言体制

質問等については、毎回の振り返りシートで受け付けるほか、授業後の時間、オフィスアワー、メールでも対応します。次回授業時に回答します。

・DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

D P

知識・技能

(DP1)	子育て家庭を取り巻く社会状況と子育て家庭に対する支援の意義・目的、課題について述べるができる。
(DP2)	子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と関係機関との連携についてまとめることができる。

履修目標

授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。

子育て家庭を取り巻く社会状況を理解し、子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の方法について説明できる。

到達目標

授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。

履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。

家庭の意義とその機能について理解し、子育て家庭を取り巻く社会状況、保育士の役割について述べるができる。

成績評価の基準

S:90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修(自主的な学修)が認められる。
A:80～89	履修目標を達成している。
B:70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C:60～69	到達目標を達成している。
不可:～59	到達目標を達成できていない。

・成績評価の方法

評価指標	割合	関連する D P
定期試験	60	知識・技能(DP1) , (DP2)
授業内レポート・小テスト	10	知識・技能(DP1) , (DP2)
授業外レポート・宿題	30	知識・技能(DP1) , (DP2)

・授業計画、 ・アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニングの内容		
アクティブラーニング		
回	授業計画	
1	授業内容（担当教員）	子ども家庭支援の意義と必要性
	授業方法／進め方	講義、ディスカッション
	事前・事後学習	「社会福祉」でのソーシャルワークの内容について復習する
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/ディベート/グループ・ワーク
2	授業内容（担当教員）	子ども家庭支援の目的と機能 保育の専門性を生かした子ども家庭支援とその意義
	授業方法／進め方	講義、グループワーク
	事前・事後学習	保育施設での子育て支援について調べる
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/ディベート/グループ・ワーク
3	授業内容（担当教員）	保護者および地域が有する「子育てを自ら実践する力」の向上に資する支援
	授業方法／進め方	講義、グループワーク
	事前・事後学習	保育施設での子育て支援について調べる
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/ディベート/グループ・ワーク
4	授業内容（担当教員）	子育ての実際を知り、保育者による子育て支援を考える
	授業方法／進め方	妊婦疑似体験、ディスカッション
	事前・事後学習	指定した資料を読む
	アクティブ・ラーニング	体験学習／調査学習、グループディスカッション/ディベート/グループ・ワーク
5	授業内容（担当教員）	保育士に求められる基本的態度
	授業方法／進め方	講義、グループワーク
	事前・事後学習	指定した資料を読む
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/ディベート/グループ・ワーク
6	授業内容（担当教員）	保育士に求められる基本的態度
	授業方法／進め方	講義、グループワーク
	事前・事後学習	指定した資料を読む
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/ディベート/グループ・ワーク
7	授業内容（担当教員）	保育士に求められる基本的態度
	授業方法／進め方	講義、グループワーク
	事前・事後学習	指定した資料を読む
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/ディベート/グループ・ワーク
8	授業内容（担当教員）	家庭の状況に応じた支援、保育現場での支援の実際
	授業方法／進め方	講義、DVD視聴後にディスカッション
	事前・事後学習	指定した資料を読む
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/ディベート/グループ・ワーク
9	授業内容（担当教員）	家庭の状況に応じた支援、保育現場での支援の実際
	授業方法／進め方	ゲストスピーカーによる講義
	事前・事後学習	指定した資料を読む

10	授業内容（担当教員）	子育て支援施策、子育て家庭に資する社会資源
	授業方法／進め方	グループワーク（調べたことを教え合う）
	事前・事後学習	子育て支援施策や社会資源について調べる
	アクティブ・ラーニング	体験学習／調査学習、グループディスカッション／ディベート／グループワーク
11	授業内容（担当教員）	事例を通して学ぶ子ども家庭支援
	授業方法／進め方	グループワーク
	事前・事後学習	指定した資料を読む
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション／ディベート／グループワーク
12	授業内容（担当教員）	まとめ（家庭支援における課題）
	授業方法／進め方	講義、ディスカッション
	事前・事後学習	指定した資料を読む
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション／ディベート／グループワーク
メディア [メディア]	授業内容（担当教員）	子育てに関する社会資源 1
	授業方法／進め方	メディア授業
	事前・事後学習	資料等を読み、課題を提出する
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション／ディベート／グループワーク
メディア [メディア]	授業内容（担当教員）	子育てに関する社会資源 2
	授業方法／進め方	メディア授業
	事前・事後学習	資料等を読み、課題を提出する
	アクティブ・ラーニング	体験学習／調査学習
メディア [メディア]	授業内容（担当教員）	家庭に応じた支援 配慮を要する子ども家庭への支援
	授業方法／進め方	メディア授業
	事前・事後学習	資料等を読み、課題を提出する